

# ぼちぼちいにかっ！

2002(1-4) vol.275-vol.390

今年、2002年に入ってからは、ほぼ毎日のように書いています。

う～ん、凄いことだ、と我ながら思います。

もっとも、これが一年、そして何年も続いていけば、ホント凄いだろうなあ、と思う反面、「てきとー」ってのも大事なことだと。

昔学級担任をしていたころ、毎日のように学級通信を出してた時がありました。出すこと自体が自己目的化していた感もありますが、書くことによって自分の考えを整理していたように思います。

その学級通信、僕の若かりし頃の貴重な財産です。(笑)

ゆーたの中学校生活は、いつの間にやら一年生が終わり、知らぬ間に二年生になっていました。「進級」なんですね……。

おばあちゃんとの関係は、いつしか僕とおばあちゃんとの関わりが変わってきました。僕が思うんです。「おばあちゃんとは一緒に暮らしたくない」と……。

## - 目次 -

2002年1月	5
新年 -2002/01/01(火) Vol.275-	5
家族写真 -2002/01/02(水) Vol.276-	6
ねこの博物館 -2002/01/03(木) Vol.277-	6
不安 -2002/01/04(金) Vol.278-	7
散歩 -2002/01/05(土) Vol.279-	8
ガラクタ -2002/01/06(日) Vol.280-	9
天罰 -2002/01/07(月) Vol.281-	10
食器洗い -2002/01/08(火) Vol.282-	10
検定試験 -2002/01/09(水) Vol.283-	11
後戻り -2002/01/10(木) Vol.284-	12
どんぐりの家 -2002/01/11(金) Vol.285-	13
節目 -2002/01/12(土) Vol.286-	14
節目 - 2 - -2002/01/13(土) Vol.287-	15
話し合い -2002/01/14(月) Vol.288-	15
重荷 -2002/01/15(火) Vol.289-	16
距離 -2002/01/16(水) Vol.290-	17
同居 -2002/01/17(木) Vol.291-	17
20円 -2002/01/18(金) Vol.292-	19
悔しいっ！ -2002/01/19(土) Vol.293-	20
まるお君 -2002/01/20(日) Vol.294-	21
限界？ -2002/01/21(月) Vol.295-	21
変化 -2002/01/22(火) Vol.296-	22
物置 -2002/01/23(水) Vol.297-	23
母の人生 -2002/01/24(木) Vol.298-	24
ダイヤモンド -2002/01/25(金) Vol.299-	25
MOUS -2002/01/26(土) Vol.300-	26
ダイヤモンド2 -2002/01/27(日) Vol.301-	27
徹底 -2002/01/28(月) Vol.302-	28
散髪 -2002/01/29(火) Vol.303-	28
頑張る(笑) -2002/01/30(水) Vol.304-	29
ご馳走 -2002/01/31(木) Vol.305-	30
2002年2月	31
二転三転 -2002/02/01(金) Vol.306-	31
ビデオ -2002/02/02(土) Vol.307-	32
お客さん -2002/02/03(日) Vol.308-	33
エコグラム -2002/02/04(月) Vol.309-	34
素直 -2002/02/05(火) Vol.310-	35
1分50円 -2002/02/06(水) Vol.311-	36
方向性 -2002/02/07(水) Vol.312-	37
伊勢エビ -2002/02/08(金) Vol.313-	37
河津ざくら -2002/02/09(土) Vol.314-	38
戸惑い -2002/02/10(日) Vol.315-	39
畑仕事 -2002/02/11(月) Vol.316-	40

禁煙	-2002/02/12(火) Vol.317-	41
時間つぶし	-2002/02/13(水) Vol.318-	41
歯医者	-2002/02/14(木) Vol.319-	42
けち	-2002/02/15(金) Vol.320-	43
迷惑メール	-2002/02/16(土) Vol.321-	43
人生の河	-2002/02/17(日) Vol.322-	44
嘔吐	-2002/02/22(金) Vol.323-	44
早寝早起き	-2002/02/23(土) Vol.324-	45
完走!	-2002/02/24(日) Vol.325-	45
イチゴ大会	-2002/02/25(月) Vol.326-	47
必要なモノ	-2002/02/26(火) Vol.327-	47
図に乗る	-2002/02/27(水) Vol.328-	48
ホームレス	-2002/02/28(木) Vol.329-	49
<b>2002年3月</b>		<b>50</b>
あやまる	-2002/03/01(金) Vol.330-	50
回転寿司	-2002/03/02(土) Vol.331-	51
意固地	-2002/03/03(日) Vol.332-	51
クッキングスクール	-2002/03/04(月) Vol.333-	52
京都	-2002/03/05(火) Vol.334-	53
転勤話	-2002/03/06(水) Vol.335-	53
プーイング	-2002/03/07(木) Vol.336-	54
プーとミュウ	-2002/03/08(金) Vol.337-	55
媚び	-2002/03/09(土) Vol.338-	55
京都シティ	-2002/03/10(日) Vol.339-	56
伴走	-2002/03/11(月) Vol.340-	57
文集	-2002/03/12(火) Vol.341-	58
発情	-2002/03/13(水) Vol.342-	59
事故	-2002/03/14(木) Vol.343-	60
家庭訪問	-2002/03/15(金) Vol.344-	61
モンスターズインク	-2002/03/16(土) Vol.345-	62
引越	-2002/03/17(日) Vol.346-	62
外出	-2002/03/18(月) Vol.347-	63
子ども病院	-2002/03/19(火) Vol.348-	63
通信簿	-2002/03/20(水) Vol.349-	64
カーナビ	-2002/03/21(木) Vol.350-	65
「ごめんね...」	-2002/03/22(金) Vol.351-	65
TFT液晶	-2002/03/23(土) Vol.352-	66
寸又峡	-2002/03/24(日) Vol.353-	67
おっばい配達人	-2002/03/25(月) Vol.354-	68
おおらかさ	-2002/03/26(火) Vol.355-	69
些細な事から	-2002/03/27(水) Vol.356-	70
教壇	-2002/03/28(木) Vol.357-	70
Take it easy	-2002/03/29(金) Vol.358-	71
秋葉原	-2002/03/30(金) Vol.359-	72
多摩湖	-2002/03/31(日) Vol.360-	72

2002年4月 .....	73
新年度 -2002/04/01(月) Vol.361- .....	73
隠し事 -2002/04/02(火) Vol.362- .....	74
馬鹿笑い -2002/04/03(水) Vol.363- .....	74
ランチ -2002/04/04(木) Vol.364- .....	75
断絶 -2002/04/05(金) Vol.365- .....	76
時間つぶし -2002/04/06(土) Vol.366- .....	76
タブレット -2002/04/07(日) Vol.367- .....	77
新年度2 -2002/04/08(月) Vol.368- .....	78
一人部屋 -2002/04/09(火) Vol.369- .....	79
おめでた! -2002/04/10(水) Vol.370- .....	80
喜び -2002/04/11(木) Vol.371- .....	80
ロールプレイング -2002/04/12(金) Vol.372- .....	81
三連敗 -2002/04/13(土) Vol.373- .....	82
衝突 -2002/04/14(日) Vol.374- .....	83
死..... -2002/04/15(月) Vol.375- .....	84
疲れた -2002/04/16(火) Vol.376- .....	85
亀打 -2002/04/17(水) Vol.377- .....	86
おしっこミュウ -2002/04/18(木) Vol.378- .....	87
「いつかは42.195」 -2002/04/19(金) Vol.379- .....	88
さもないこと -2002/04/20(土) Vol.380- .....	89
語らい -2002/04/21(日) Vol.381- .....	90
カツオだし -2002/04/22(月) Vol.382- .....	90
みそ汁 -2002/04/23(火) Vol.383- .....	91
台所 -2002/04/24(水) Vol.384- .....	92
ゆーたの焦り? -2002/04/25(木) Vol.385- .....	93
プーニャのお腹 -2002/04/26(金) Vol.386- .....	94
バックナンバー -2002/04/27(土) Vol.387- .....	94
サンチョ -2002/04/28(日) Vol.388- .....	95
お墓 -2002/04/29(月) Vol.389- .....	96
産箱 -2002/04/30(火) Vol.390- .....	96

# 2002年1月

新年 -2002/01/01(火) Vol.275-

もうかれこれ、3時間ほどプリンタが動いている。たかだか100枚ほどの年賀状の印刷に、随分と時間がかかっている。まあ、仕方がない。だいがん季が入っているんだから。

早くやろう、やろうと思っていても、せっぱ詰まらないとやらない性格は一向にあいも変わらない。そこへ持ってきて、昨年末に新しいパソコンを組み立て始めたのがいけなかった。年末の忙しい時に、床の上のアチコチにパーツが散らかして、しかも、ちょっとしたトラブルで右往左往したりして。

年賀状の作成は好きだ。

なぜって、面倒くさがり屋の女房にしてみたら、僕をつくる年賀状頼みであって、「年賀状をつくる」ということが、年末の僕に課せられた最優先の仕事だからだ。

:.:.:'° 。 .:.\*:.'° ° ' .:.\*:.. .:.\*:.'° 。 .:.\*:..:.\*:

ゆーたは年末から何度もお年玉の計算をしていた。中学生になったから少しは値上げしてもらえないかという期待に胸を膨らませて。

「世の中不景気で、史上最高の失業率、相次ぐ賃金カット……。お年玉だけが、上がっていくのははおかしいだろ？」とからかってみたり、「期待しすぎは、絶対にダメだぞ」と何度も念を押す、僕と女房。

他にもない、ゆーたは今まで、何度も自分で勝手に期待を膨らませ、その期待通りにならないと怒り出したりしてきたから。

「今年の予想金額はどのくらいなんだ？」

「そうだね、 万円、プラスマイナス一万円かな？」

「おっ、プラスマイナス？ そっか、予想通りにはいかないこともあるモンな」

この「プラスマイナス」にちょっとしたゆーたの成長を感じたりして……。

:.:.:'° 。 .:.\*:.'° ° ' .:.\*:.. .:.\*:.'° 。 .:.\*:..:.\*:

朝ご飯を家族五人で食べて、ゴロゴロしていると昼飯の時間。

少し昼寝をして、ゴロゴロしていたら、夕ご飯になっていた。

その後、延々と印刷。

以前だったら、適当にどこかにでかけたりしていたのだが、今年はそういうわけにはいかない。

プリンタがだいがくたびれているので、紙送りがうまくいかなかったりすることと、ガタガタ音を立てて、動いているプリンタに興味津々のミュウが、ちょっと目を離すとプリンタの中に手を突っ込んだりするのだった。

何をするわけでもなく、ただ、何となく過ぎていく時間。

これが新年らしいと言えば新年らしいのだろう。

明日は女房の実家の沼津へ。

ゆーたに言わせると「後半戦」だそうだ。

また、飲んで食べて、の日は続く……。 (苦笑)

残すところ10数枚。手差しで紙を一枚一枚入れるなんて、拷問みたいだ！  
来年の年賀状の時には、絶対に新しいプリンタを買うぞ！ おお～っ！

## 家族写真 -2002/01/02(水) Vol.276-

毎年1月2日には、女房の実家のある沼津に行き、兄妹家族、義父母とで食事をする。また、ゆーたの言う「後半戦」の始まりでもある。実家に帰る途中僕が沼津で教員をしていた時、お世話になった写真屋さんで、三人の写真を撮るのが、正月の恒例行事にもなっている。

この13年間で写真を撮らなかったのは、ゆーたが生まれた年と2歳の時だけ。生まれたときは、手術後間もなかったため、2歳の時は、自宅の玄関で写真を撮った。

小さい頃からゆーたの気持ちをカメラに向かせるのはなかなか苦労した。

写真屋さんの方としても良い写真を撮りたい、撮ってあげたいと言う気持ちがあるのだろう、何枚も何枚もシャッターを押すし、体の向きもちょっと角度変えたり、となかなか時間がかかるものだ。ゆーたは次第にイヤになってくる。

一昨年などは、「もう、今年は写真をやめよう」等と写真館の駐車場で言い合ったこともあった。

それでも、何とか毎年写真を撮り続けている。

：\*：\*！° 。：\*：\*！° ° '！\*：\*..。：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

沼津インターの出口で毎度のこのように渋滞に巻き込まれ、インターを出るのに30分近くかかり、写真館に着いたときには12時を回っていた。しかも成人式の写真を撮るお嬢さんたちが二組僕たちの前にいたので、随分と待たされもした。いざ写真を撮るときになると、ゆーたはフニャフニャして、体を一定にしない。一生懸命気を引こうとする言葉も、既にゆーたには「子どもだまし」だと言うことがわかってもいる。

それでも、今年も写真を撮ってきた。

：\*：\*！° 。：\*：\*！° ° '！\*：\*..。：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

「あんな写真に1万何千円も払うなんてもったいない！」とゆーた。

でも、本心はカメラの前の緊張感がたまらなくイヤみたいだ。

「いつまで、写真を撮るんだよぉ！」

「そうねえ。ゆーたが自分の家族を持って、家を出るようになるまでかなあ？」と女房は答える。

「それって結婚する、ってことかあ??？」

「でも、今の浜松の家みたいに、ゆーたがパパとママと一緒に住み続けるなら、写真も撮り続けられるよね」そう、女房は続けた。

友達づきあいすらないゆーたに彼女だの、結婚だのということとはとても想像できるものではない。それでも、僕たち夫婦に、ゆーたが大人になった時の事をイヤでも考えさせる機会ではあった。

今、プリンタはミュウが本棚へ上り下りするときの足場になっている。

特に上か降りてくるときは、「ガッ！」という衝撃が！

「これは足場じゃないんだよ」と言われてわかってもらえるのなら良いのだが...

## ねこの博物館 -2002/01/03(木) Vol.277-

「今からどこへ行こう？」

田方郡函南町にある酪農王国「オラッチェ」で食事を終えたのが、12時過ぎ。映画に行こうか、という話になったが、i-MODEで調べたら、時間があわない。「伊豆高原に行ってみない？」と、女房が言う。僕は実家で駅伝や高校サッカーを見たかったので、あまり乗り気ではない。まして伊豆高原など渋滞しているに決まっているから、尚のこと。しかし、我が家では、女房の一言が、全てを決する。

僕はナビをセットした。

案の定、熱海経由の道は所々、渋滞でノロノロ運転が続く。

「この先、 kmで渋滞があります」

ナビが渋滞を告げるたびに、思わず「うわぁ～」と声を上げるが、女房もゆーたも気持ちよさそうな寝息をたてているだけ。僕は眠気と戦いながら車を走らせ、やっとのこと伊豆高原に着いた。

：\*：\*’° 。 ..\*：\*’° ° ’\*：\*’° ..\*：\*’° 。 ..\*：\*’°\*：

去年の5月に伊豆高原に来た時に立ち寄った「ねこの博物館」に今回も寄ってみた。「ねこを飼いたい」とゆーたが言ったので仕方なく今回は寄った感じがする。世界中のねこがかなり見たり触れることができるが、正直、僕も女房もあまり気乗りはしてなかった。当時は我が家にねこがやってくるなんて思いもしなかったから、ただ寝てるだけのねこを見ても、正直、おもしろくなかった。

しかし、今回は違った。

プーニャを飼う前に、どのねこがいいだろう？ というんな本を読んだり、ペットショップで実際にねこを見たりしていたので、「あ、これってママが飼いたいって言ったヤツでしょ？」とか、「これがロシアン？ 豚だよぉ～」などと、ゲージの前で随分と時間を過ごした。

実際、アメリカンショートヘアにしる、アビシニアンにしる、ロシアンブルーにしる、皆、一様に「デブ」で、これが？ と思わず我が目を疑ってしまうほどだった。

「やっぱり、ずうっと紐につながれているからだろうね……」等と話しながら、急に寒くなった我が家に二匹だけで留守番をしているプーニャとミュウが心配になってしまった。

夜、ホットカーペットに電気を入れると、直ぐに側に寄ってきて、ゴロンとする奴らが、この寒さの中、どこで暖まっているんだろう？ なんて。もっとも奴らにしてみれば、我が世の春、食卓の上だろうが、流しだろうがパソコンの裏だろうが、好き勝手にドタバタやっていることだろうが……。

昨年末に家の壁の塗り替え工事を行ったため、この冬は泊まりの旅行はなし。

我が家は緊縮財政。明日は浜松への帰りがけ、「富士山こどもの国」でちょこっと雪遊びの予定。

不安 -2002/01/04(金) Vol.278-

一体何がゆーたを不安にさせるんだろうか？ そう思わせるほど、時々ゆーたはイライラし始める。得体の知れない「何か」に怯えるかのように、感情を爆発させる。

今日もそうだった。

富士山こどもの国に着く前から、あまり乗り気じゃなかったようだったが、駐車場に着いて、長靴を履く頃から、「足が冷たい」「足がおかしい」と言い出した。「とにかく雪遊びの所まで行ってみよう」と歩き出したが、歩いている間もますますゆーたの「足が冷たい」が多くなり、結局、ソリ遊びもせず、わずか30分ほどで、こどもの国を後にすることになった。

イライラすればするほど、滅茶苦茶なことを言い出し、女房に突っかかってくる。最初の内は何とかあしらっていても、エスカレートするゆーたの感情について、女房も感情を爆発させる。

ゆーたは「どうせ、ダメな人間だから……」とおきまりのセリフを口にする。

：\*：\*’° 。 ..\*：\*’° ° ’\*：\*’° ..\*：\*’° 。 ..\*：\*’°\*：

どうしてだろう？

もうじき冬休みが終わって、女房が仕事に行くようになるからだろうか？  
お年玉で、「中学生になったから」と金額をみんなにあげてもらったことが、かえってプレッシャーになっているのだろうか？  
何をして良いのかわからず、先の見えない自分への苛立ちなのか？

ゆーたの心の奥底にある、不安の要因を取り除いてやりたいと思うのだが、それが見えない……。

僕自身の気持ちがゆーたの心に左右されます。  
今年は、そんな時でも、できるかぎり書き綴っていきたくと思っています。

## 散歩 -2002/01/05(土) Vol.279-

冬休みに入ってから、時々、ゆーたと女房が「散歩」に出かけるようになった。これは、下っ腹が出てきた女房が危機意識を募らせ、「少しは歩かないといけない」ということが始まり。

ゆーたに声をかけ、ゴミの集積場まで歩いてくる。時間にして大体30分程度。学校に行っていれば、登下校の歩く距離だって、決してバカにならない距離だが、とんと歩く生活からかけ離れているゆーたにとってみれば、この「散歩」だけでも結構な運動量なのだろう。なかなか出かけるのに時間がかかる。

せめてもの救いは、ゆーたは体系的に、僕の血筋ではなく、女房の血筋を引いているらしく、ブクブクしないということだろう。随分と背が高くなってきたが、これほど運動していないにも関わらず、みっともない体型ではない。

これが僕のようにブクブクする体質だったら、と思うとゾッとする。

：\*：\*’° 。 .：\*：\*’° ° ’\*：\*’.. .：\*：\*’° 。 .：\*：\*’\*’\*’

方や昨年10月にふくらはぎを痛めてから、走れない状態が続いていた僕。

諏訪湖一周のハーフマラソン、京都の福知山・袋井のフルマラソンと全てレースをキャンセルしてきた。

直ったかと思って走り出す。しばらく行くと、突然、ふくらはぎに痛みが走る。そんなことを何度も繰り返している内に、走るのが怖くなってしまった。

「今日は大丈夫だろうか？」そんな思いを抱きながら、走るのだから楽しいわけがない。だんだんと走るのがイヤになってきてしまった。

昨年末から、ようやく5km程度をゆっくりゆっくり走り通すことができるようになった。

そして、昨日、自宅周辺のアップダウンのあるコースに出かけてみた。

おっかなびっくりだったし、体が重くて重くて仕方なかったが、久しぶりに「走る」ことを楽しめた。

：\*：\*’° 。 .：\*：\*’° ° ’\*：\*’.. .：\*：\*’° 。 .：\*：\*’\*’\*’

やっぱり何をしても、気持ちのゆとりがないとダメなんだろうな。

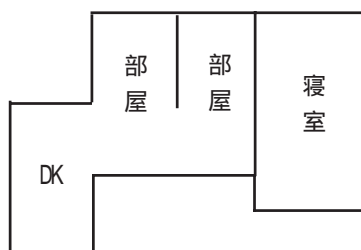
ゆーたと女房の散歩も冬休みがあけたら、しばらくはお休みみたいだ。

でも、ゆーたは女房に誘われているから行っているみたいで、「楽しむ」には程遠いようだ。

今年のレースの予定は、  
2/24 天竜杉の里（ハーフ）  
3/10 京都シティマラソン（ハーフ）...エントリ済み  
4/21 小笠・掛川（フル）



我が家の二階の真ん中の部屋は、二つに仕切れるようになっている。  
いずれ、ゆーたが自分の部屋を持ちたいと思うようになったときに、仕切ろうと言うことで、部屋を区切る見込みは、今のところ、全くない(笑)  
その部屋にはそれぞれ、クローゼットがあり、大部分が、僕とゆーたのガラクタ置き場になっている。



我が家の二階はこんな感じです。DKと部屋の間も可動式の間仕切り。広々としていると言えばそうですが、結局、アチコチに物が散らばってる！

前から片づける、片づける、と言われていたガラクタをついに整理した。  
「私のものを入れるところが、ないんだからあ！」  
ことあるごとに女房はわめいていた。(^^ゞ

出てくるわ、出てくるわ！  
一番は、一頃僕とゆーたが夢中になった「ミニ四駆」。随分と遊んだものだ。  
他には、ゆーたの作ったプラモデル、超念写のシール、レゴの片割れ、説明書、各種空箱、チョコQ……。他にもゆーたが「ない、ない！」と騒いでいたものが、次々と出てきた。  
ホッチキスや、ニッパー、ピンセット etc、 etc.....  
色々な空箱は、以前、処分しようとしたら、ゆーたが「絶対ダメだあ」と騒いだこともあった。  
しかし、ゆーたもようやく、プラモデルの空箱を捨てることに、抵抗しなくなった。これもささやかな成長の証。

.:\*.°。.:\*.°。°.\*:.. .:\*.°。.:\*...\*:

処分しながらも、横からゆーたが  
「あ、これはダメえっ！」とか「それは、ゆーたに頂戴！」等と言って、なかなか少なくなる。また、ついつい、懐かしい物が出てくると、遊びだしてしまうのだから、時間はかかる。  
ま、気持ちはわからないではない。僕も物が捨てられず、結局、空いているスペースに押し込んでおいて、いつしか身動きがとれなくなるタイプだから。

なんとか捨て去り、結構なスペースができた。  
しかし、左半分をやったところで、半日がつぶれて残り半分をやるのがイヤになってしまい、また、今度ということになった。  
残り半分には、パソコンのパーツ、作っていないプラモデルがゴチャゴチャになっている。僕もきれいにしたいとは思っているのだが、果たしていつになることやら？

「千と千尋...」の映画、女房と二人で見に行ってきました。  
う～ん、そんなに良いのかなあ？ 僕としては「紅の豚」や「平成狸...」の方が、印象に強いのだが.....。それとも、僕の気持ちの中に何か欠落してしまった物があるのだろうか.....？

毎晩、布団を敷くのがゆーたの仕事。

進んでやっているわけではないが、敷かないと女房と一緒に寝てくれないから、仕方なくやっている。で、ついでに僕の布団も敷いてくれる。これまた、女房が「せっかくだから、敷いてやんなよ！」というからだが、これは「敷く」というよりも、押入から放り出した、という状態に近いことが多い。

それでも、ゆーたの気持ちの中には「パパの分も敷いてやっている」という部分が強い。僕の方も、せっかくだ敷いてもらったのだから、と一応感謝はしている。

しかし、パソコンのセッティングをしたり、色々まとめたりして、ついつい夜中を過ぎると、寝室に行くことすら億劫になることがある。そんな時は、ついついホットカーペットに寝ころんで、そのまま朝を迎えることもある。

そんな時に、ゆーたの「天罰」が下る。

布団を出してくれない、もとい、敷いてくれないのだ。

昨夜も、さぁ寝よう！ と寝室に行ったら、僕の布団はそこにはなかった。

やむなく、自分で布団を引っ張り出した。

:\*:~!° 。.:\*:~!° ° !~\*:.. .:~\*:~!° 。.:~\*:~\*:~\*:

朝、ゆーたが誇らしげに言った。

「パパに昨夜は天罰が下ったでしょ！」と。

「えー？ だってちゃんと寝てるじゃない！」と僕。

「ウウン、夕べのはね、12月31日の分だよ」

そう言えば、年賀状の印刷をしながら、ゴロンと横たわってしまったっけ。

女房は笑いながら言う。

「ゆーたの『天罰』ってホント可愛いよね」と。

いよいよ明日から、新学期。女房は「イヤだ、イヤだ」の連発です。

朝、早く起きないといけないのが、僕もつらい！

同時に、ゆーたと女房の「散歩」もしばらくお休みみたいだ。

ヤブ医者というのはいるもんだ、ということがよっくわかった。

12月の25日、右手の小指を激しくついてしまい、近所の整形外科に心配だったので行ってみた。そこは、10月に足の調子が悪く一ヶ月ほど診てもらったが、結局よくはならなかった医者だった。

もう、行くのはよそう、と思ったのだが、やはり年末の忙しい時でもあり、近い、という理由で出かけたのだった。

「骨折はしていないから、これで固定しておけば大丈夫ですね」と、第一関節を固定してもらった。

で、年も明けたが、いっこうに良くならない。相変わらず、右の小指の先は曲がったまま。痛みも消えることはない。

ホントに大丈夫なのかぁ？ と少し離れてはいるが、別の整形外科に行ってみた。

「なんでこんなになるまで放っておいたんだ？ 骨折していないから、かえってやっかいなんだよ！」と言われ、小指の根本から固定されてしまった。

「脱臼のようになっていて、腱がのびちゃってるよ。このままじゃ、指が伸びなくなってしまうよ」  
僕には言葉はなかった。二度と近所の整形外科には行くまいと誓うだけだった。  
う～ん、不便だ！  
文字を入力する時、enterキーが押せない！  
車を運転しているとき、ワイパーやウィンカーを引っかけてしまい、自分で驚く！（^^;

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. .:\*..'° 。.:\*...\*:

お昼ご飯は、例によってゆーたと二人。しかし、食器荒いもできない！（^^）  
そこで、ゆーたに食器を洗ってくれるように頼んだ。  
小学校に行っていた頃、自分のお箸を洗わせたりはしたが、きちんと洗剤をつけて洗ったことなど、未だかつてないゆーた。  
スポンジの持ち方、洗剤の付け方、洗い方から食器の置き方まで、一つ一つ僕が横についてゆーたは食器を洗った。洗ってくれた。  
「いやぁ、腰がしんどい！ 足がだるい！」  
「そうでしょ？ パパやママは、毎回やってるんだよぉ～」とニヤニヤしながら僕は言った。  
確かにゆーたにしてみれば、大変な「仕事」だっただろうな、と思いながら、20円、お小遣いをあげた。それでゆーたは満足したようだ。（笑）

また、ゆーたと二人の毎日が始まりました。  
ゆーたが下に行くと、時々、そぉっと下の様子に聞き耳を立てます。正直、疲れます。

## 検定試験 -2002/01/09(水) Vol.283-

去年受験した「.com Master2001」の検定結果は、  
・インターネット接続の元となるパソコンに関する知識  
・インターネットアプリケーションの設定や使いこなしに関する知識  
・インターネットの仕組みとサービスプロバイダ  
・インターネットの歴史/用語/将来に関する知識  
・インターネット利用に関する一般的知識  
総合  
ということで、無事合格。  
受験者数 22,065人 合格者数 6,556人 合格率 29.7% とのこと。

終わってみれば、なんだあんなものか、という感じもしないではないが、一応はホッとした。確かに「こんな使わないジャン！」という事柄も結構あったが、それでも、自分の足りない所がよくわかったことが最高の収穫だと思う。  
何よりも「集中して学ぶ」という感触が、何とも新鮮に感じられた。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. .:\*..'° 。.:\*...\*:

今度、MOUS (Microsoft Office User Specialist) というMicrosoftが実施しているエクセルやワードの検定を受けてみようかと思い、テキストを買ってきた。エクセル、ワードと言ったアプリケーション毎に、「一般、上級」と分かれている。  
まずは、「エクセル2002上級」を受けてみようかと。  
その次は、ワード2002上級、初級システムアドミニスター辺りが頭にある。  
そうそう、「.com Master2002」の試験も7月に行われる。

なぜか、急に「勉強」に目覚めてしまったみたいだ！（笑）

「資格」が欲しいのでもなく、「資格」を仕事に役立てるのでもない。

パソコンを触り始めて15年。今まで独学でやってきたことを「検定試験」というものを通して、一度整理してみたいという思いが強い。

パソコンに限らず、どこかで一度ゆっくりと立ち止まって、振り返ることって必要なことなんだ、そう思った。

今朝とお昼の食器洗いは、ゆーたでした。

無理矢理ゴム手袋に手を突っ込むこともできないわけではないが、当分の間、僕は食器洗いができない、という事にしておこう！

後戻り -2002/01/10(木) Vol.284-

ホント、後戻りってできないモンなんだ。

僕のジョギングコースである佐鳴湖をトボトボと歩きながら思った。

スポーツジムのすぐ側にある一周6.3kmほどの小さな湖(と言えるのだろうか?)を足の故障以来、久しぶりに走ってみた。走り出すとすぐに、痛めた両足のふくらはぎ、アキレス腱のあたりに何とも言えない違和感があった。神経を両足に集中させながらゆっくりゆっくりと走った。

「もう少し大丈夫かな?」「このまま違和感が消えれば10kmはいけるかな?」

.....対岸をすぎる辺り、ちょっと力を入れた途端に、右ふくらはぎがつつた。

あそこの所で戻っていれば.....、と思っても後の祭り。

後は、汗が引いて、冷え切った体を震わせながら歩くしかなかった。

その時の、MP3のBGMは、S&Gの「冬の散歩道」だった！（; ;）

故障する前、10km、15kmはちょっとひとつ走り、という距離だったし、佐鳴湖一周だったら、40分ちょっとで走れた。それが、今は、5kmを走ることができるかどうか、だ。

情けないと言えば情けない。

2ヶ月ほど走っていないし、体重もウンと増えたのだから、当たり前なのに。

にも関わらず、調子の良かった時のことばかりが僕の頭に浮かぶ。

「過去の栄光」(笑)にしがみついているような感じがする。今の僕の状態は、それこそ、運動を始めて体重が落ち始め、外へ走りに出かけた頃のレベルなのになぁ.....。

今の自分をリセットして、もう一度最初から取り組む気持ちが必要なのに.....。

頭を切り換える事は、ホント難しいことだ。

:\*:~'° 。.:\*:~'° ° '°\*:~.。.:\*:~'° 。.:\*:~:~\*:

ゆーたを見ていて思う。

学校だって、「後戻り」ができれば楽なのになぁ、と。

何も「飛び級」のように、早く進むことではなく、「戻り級」ってのがあってもいいんじゃないの？ と。

「もう一回、年生をやり直そう!」という気持ちがあったら、3年生を2回やるとか、6年生から、5年生に戻るとかね。

まぁ、もっとも気楽に「後戻り」することを社会全体が容認する風潮がなければ話にならないが.....。

20円につられて、ゆーたの食器洗い、続いています。

「最近、毎日出してるジャン！」と女房。「まあね」と僕。いつまで続く？

## どんぐりの家 -2002/01/11(金) Vol.285-

女房が学校の図書館から、「どんぐりの家」という漫画を借りてきた。

以前、ビックコミックに連載されていた漫画で、埼玉県にある重度身体障害者授産施設「どんぐりの家」設立の話。作者の山本おさむは、他にも聴覚障害者を描いた「遙かなる甲子園」という作品がある。

1, 2巻を読んでしまったということで、女房が持ってきたのは3巻だけだったが、改めて読んでみて、何とも言えない思いに包まれた。

漫画の中に、次の詩が引用されている。

：\*：\*：\*：\*：\* 。 \*：\*：\*：\*：\* 。 \*：\*：\*：\*：\* 。 \*：\*：\*：\*：\* 。 \*：\*：\*：\*：\*

会議が開かれました  
地球から、はるか遠くで。

"また次の赤ちゃんの誕生の時間ですよ"

天においでになる神様に向かって  
天使達はいいました。

この子は特別な赤ちゃんでたくさんの愛情が必要でしょう。  
この子の成長は とてもゆっくり見えるかもしれませんが。  
もしかして一人前になれないかもしれません。  
だからこの子は、下界で出会う人々に、  
とくに気をつけてもらわなければならないのです。

もしかして  
この子の思うことは なかなかわかってもらえないかもしれません。  
何をやってもうまくいかないかもしれません。  
ですから私たちは この子がどこに生まれるか  
注意深く選ばなければ ならないのです。  
この子の生涯が しあわせなものとなるように。

どうぞ神様  
この子のためにすばらしい両親をさがしてあげてください。  
神様のために特別な任務を 引き受けてくれるような両親を。  
その二人は すぐには気付かないかもしれません。  
彼ら二人が自分たちに求められている 特別な役割を。

けれども 天から授けられた この子によって  
ますます強い信仰と  
豊かな愛を抱くようになるでしょう。

やがて二人は 自分たちに与えられた特別の  
神の思し召しを悟るようになるでしょう。

神からおくれた この子を育てることによって。

柔和でおだやかな この貴い授かりものこそ  
天から授かった 特別の子どもなのです。

エドナ・マシミラ（大江裕子訳）  
「なぜこの子らは世の光なのか」  
伊藤隆二著 樹心社刊

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:..。.:\*:・'° 。.:\*:...\*::

ため息が出ることも、たくさんあるけれど、ゆーたが僕たちの子どもであることを嬉しく思う。

来年度、女房は養護学校への転勤希望を出しています。希望が通れば良いのですが.....。

## 節目 -2002/01/12(土) Vol.286-

ゆーたと二人で毎日何となく過ごしていると思う。

僕とゆーたにとって「節目」って何だろうか、と。

ゆーたは中学生になった。とは言え、一度も学校の門をくぐったことはないし、家で中学校の勉強をしているわけではないから、「中学生」というのは、あくまでも法律上の区切りでしかない。日常生活の中には「中学校」の影も形もない。

僕にしてもそうだ。

教員をしていた頃は、「卒業学年の担任」とか「生徒会顧問」と言った、何年かをひとつの区切りとするものがった。

人生においては「結婚」「子どもの誕生」「退職」と言ったところだろうか。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:..。.:\*:・'° 。.:\*:...\*::

殊に仕事を辞めてからというもの、自分の中に「節目」がない感じがする。

ゆーたが小学校の頃は、僕自身がPTAの役員をしていたからか、年度年度が、それなりの「節目」になっていたような気もする。しかし、それとてもゆーたが「節目」の基準であって、僕自身の中にあるものではない。

世の中の仕事を持たずに、家事育児に明け暮れるお母さん達(?)にとって子どもや夫のことではなく、自分自身の「節目」って何だろう、って教えて欲しい思いがする。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:..。.:\*:・'° 。.:\*:...\*::

ゆーたにとってこの先、どんな「節目」があるのだろうか？

また、「何が」ゆーたの「節目」になるのだろうか？

決して急ぐつもりではない。今まで「学校」とか「学年」が、僕の心の中の基準になっていたことに気がついて、自分の気持ちを持てあましている今日、この頃.....。

ははは、MOUSの2002エクセル上級試験、申し込んでしまった！  
なんと試験は来週の土曜日。テキストを手に入れて勉強を始めたのが、つい2,3日前のこと。だ  
いじょうぶかいな？（笑）

節目 - 2 - -2002/01/13(土) Vol.287-

かつて教師をしていた時、「あ、自分が変わったなあ」と思うことが、何度もあった。色々な生徒のトラブルを通して、逆に自分が鍛えられることが多かった。いや、結局は自分の価値観なりを見直すことなしに、トラブルの解決などあり得なかったのだと思う。

また、たくさんの生徒や親と接していると、本当に色々な考えがあり、「人それぞれ」という事を実感した。

教師という仕事の一番の魅力は、「自分を変えてもらえること」だと、今まで何度も口にしていたことを思い出す。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. .\*:.'° 。.:\*:...\*:

結局「節目」というものは、転職とか結婚とか年月の推移といった、外的な要因の中にあるのではなく、自分の魂の中に、自分を深く刻み込めた時を言うのだろう。そして、それは、むしろ後になって自分で確認することなのだろう、と。

「外的な人との刺激」がとんと少なくなって5年近くなる。その間、僕の視線の先には、いつもゆーたがいる。何はさておき.....。

ゆーたの事が随分とわかるようになってきたと自分では思う。

.....もっともゆーたはどう思っているかは別だが.....。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. .\*:.'° 。.:\*:...\*:

「何も咲かない冬の日、下へ下へと根を伸ばせ」

卒業式を直前に家を出をして、卒業延期になったヤツがいた。(^^;

何かの時に、彼女が教えてくれた言葉。中学の時の先生に教わったという。

突然、彼女のことと、その言葉が蘇ってきた。

この春のレースに向け始動！ 何はさておき、体重を落とすところから！

一度ついてしまった、肉はなかなか落ちるものではない、とお腹を見ながらため息をつく毎日。

話し合い -2002/01/14(月) Vol.288-

「もう、おじいちゃんとおばあちゃんに何とか言ってやって！」

何度かゆーたは僕に言うてくる。そのくせ「あの人達は、言ってもわからない人たちだから！」とくる。

自分の気持ちをうまく受け止めてもらえず、イライラを爆発させるゆーたに対して、どう対処してよいかわからずにいるおじいちゃんとおばあちゃん。

去年の暮れに引き続いて、夜、ゆーたを連れておじいちゃんとおばあちゃんに話をした。した、というよりも、ゆーたの気持ちを僕が代弁する、という形だが。

その際、おじいちゃん達には「色々、あれ？」と思うことがあっても、とにかく気持ちを聞いてあげて欲しい。『だって』とか『あれはね.....』とか言わないでやって欲しい」とお願いする。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. .\*:.'° 。.:\*:...\*:

最初はきつかったゆーたの言葉も表情も、時間を説明していくと、次第に穏やかになっていく。ゆーたは、自分の気持ちをまず受け止めて欲しいのだ。

「そうだね」と。「だって」とか「ゆーたのためを思って」とかは、どうでも良いのだ。むしろ、そう言われ

れば言われるほど、ゆーたは今の自分を責められていると思ってしまう。結果、自分がますます惨めになっていく。

だから荒れる。

「どうせ、自分はどうしようもない人間なんだから」と。

.....

「話し合い」をすると確かに一時的には落ち着く。また、こうして「わかってもらえた」という経験を人との間で積み上げていくことが大切だと思う。

しかし.....

ゆーたの「おじいちゃんやおばあちゃんに変わって欲しい」という願いは、そんなに簡単にいくものではない。

「結局、何言っても、自分の気持ちは伝わらないんだ」

とゆーたがあきらめてしまうことがおっかない。

おじいちゃん、おばあちゃんにしてみれば「変わって欲しい」と言われてもどこをどう変えれば良いのか、と戸惑うことが多いのだろうなあ。

人が変わる時は、周りの働きかけ以上に、当の本人が、本当に変わらなければ、という思いがなければ話にならない。特にゆーたの大好きなおばあちゃんに対して、どうしたら「変わらなくては！」と思うようになってくれるのか、僕には見えてこない。

ゆーたの気持ちを「通訳」するのは、大変です。

でも、最近、「通訳」も随分うまくなってきた、と自分で感心しています（笑）

重荷 -2002/01/15(火) Vol.289-

「はい、パパ！ 借りてきたよ！」と仕事から戻ってくるなり、女房が「どんぐりの家」の1, 2巻を手渡してくれた。

喫茶店で読んだり、コンビニで立ち読み(笑)するのは違い、自分だけの空間で、ゆっくりと読む事ができる。涙がこぼれてきても、誰かの目を気にすることもない。

「もし、ゆーたが何の障害もなかったら、本当にたっくさんのことを体験させてあげられたのにね」と以前、女房に言った事がある。そして「今でも、フッとそう思う時があるけれど、よしこはそんな風には思わない？」と聞くと、女房はびっくりしたように

「え？ そんなこと全然思わないわよ」とあっさり、答えが返ってきた。

.....

「私たちは子どもの障害だけを見つめ、それを重荷だと感じてきた。

そして母親は笑顔を見せることができなくなり、父親は子供から目をそらすようになる。

その思いを子供は敏感に感じ取り、悲しみに包まれて暮らすようになり、やがて心を閉ざす。

しかし...重い荷物を背負っていたのは、子供ではなく私たちだった。

私たちの悲しみ、あきらめ、絶望.....それこそが重い荷物だったのだ。」

山本 おさむ著

『どんぐりの家』第一巻 P86 小学館

.....



「私たちの悲しみ、あきらめ、絶望...それこそが重い荷物」

その通りだと思う。

ゆーたが社会で通用するか、とえば答えは「NO」だ。

だからこそ、僕たちは考える。ゆーたと一緒に楽しく生きていく道はないものか、と。ゆーたを受け入れてくれる場所がなければ、作ればいい事。まずは小さな場所で良いから、何かを始めよう。

でも、その「何か」がなかなか見つからず、ただいま、もがき中！ f(^);

仕事が始まって、朝、お昼の食器洗いにいそむゆーた。

それでもすこお～しは、様になってきた。(^^ゞ

距離 -2002/01/16(水) Vol.290-

人とのコミュニケーションがうまくいく、いかないは、結局の所、その人との距離の取り方だと思う。ゆーたとおばあちゃん、僕とおばあちゃんとの関係を見ていて、最近、特にそう思う。

ゆーたの弱いところは、この「距離がうまく判断できない」というところだと思う。イヤな思いをしたら、少し離れれば良いのに、食ってかかる事しかできない。正直と言えば正直なんだろうが。

「そんなにおばあちゃんの事がイヤなら、下に行かなければいいでしょ？」

女房はよくゆーたに言う。しかし、それでもゆーたは下に行って、喧嘩をふっかける。

おばあちゃんはおばあちゃん、なかなか自分の非を認められない人だから余計に衝突は大きくなる。そうなるとうらやまがつかなくなる。

:\*:~'° 。.:\*:~'° ° '°\*:~'. .:~:~'° 。.:~:~:~\*:

僕がお袋に対して抱えている問題は、よくわかっている。

「干渉しないではいられない」お袋に対して、中学校の頃から、僕は適当に距離をおいてきた。それが「うるさい」という言葉になって、随分とお袋を悲しませた事もあった。

放っておいてもらいたい時、僕は気持ちの上でも、生活空間でも「距離」をおいてきた。勿論、近づく時には近づいた。

しかし、今は間にゆーたがいる。

僕だけの事だったら、二階にこもって話をしなければ済む時でも、ゆーたの事となると、否が応でも話をしなければならなくなる。それが、僕にとって一番の苦痛になっているのだ。「距離」が保てないのだ。

:\*:~'° 。.:\*:~'° ° '°\*:~'. .:~:~'° 。.:~:~:~\*:

今、何よりも必要な事は、僕がお袋との距離を詰めていく事。

中学、高校時代のお袋へのわだかまりを乗り越えて、お袋にゆーたの事をわかってもらえるように、丁寧に丁寧に働きかける事なのだ、と。

でも、しんどい.....。

「どんぐりの家」をおじいちゃん、おばあちゃんに読んでもらいたい、と思い、今も足下に置いてある。さっさと渡しにいけよなっ！ < 自分

同居 -2002/01/17(木) Vol.291-

結婚した翌年の春、僕たちは静岡県の東部、三島市に家を購入した。  
確か土地が23坪、建坪が19坪くらい。バブルに差し掛かった頃だった。  
一階にはDKと和室、2階には洋間が二部屋。生まれてくる子どもと親子三人が暮らすには十分な広さだった。

ゆーたが生まれた翌年。女房の一年間の育休が明けた後、ゆーたを預けられる保育園を探し始めようとしていた。そんな時だったろうか、お袋と電話で話すことがあった。

「ゆーたをこの先どうするの？」

「いや、預けられる保育園を探そうと思っている」

「そんな、可愛そうな事！ 私らがそっちへ行ってやるから！」

そうお袋は言った。

僕たちとて、手術が終わって半年しか経っていないゆーたを、保育園に預けることに不安や抵抗がなかったわけではない。どこか知り合いの所でゆーたをゆっくりと見てもらえないかなあ、等とも話していた所だっただけに、お袋のこの申し出は、とても嬉しかった。と、同時に、長年住み慣れた浜松を出て見ず知らずの土地にやってきて、親父とお袋は大丈夫なんだろうか、という不安もあった。

とりあえず、その日は電話を切り、女房と二人で話をした。

2, 3日後、こちらから電話をした。

「もし、本当に来てくれる、と言うんなら、そうしてもらえるとありがたい」

こうして、三島の小さな家に、親父とお袋がやってくることになり、一階の和室が親父達の部屋になった。

：\*：\*’° 。：\*：\*’° ° ’\*：\*..：\*：\*’° 。：\*：\*...\*：

狭い生活空間の中、やはり息苦しくなる事が多い。そして誰も知り合いもおらず、家の中に閉じこもっているような、親父やお袋達を見ているのはつらかった。

同時にゆーたを見ていて、僕自身は教師を辞めようと思った。

そんな事が重なって、僕たち家族は浜松に帰る事にしたのだった。

僕の心の中には、「ゆーたのために長年過ごした浜松を捨てる決心をしてくれた」という事に対して、今度は僕が親父やお袋達のために、できることをしてあげないと、という気持ちが強かった。

：\*：\*’° 。：\*：\*’° ° ’\*：\*..：\*：\*’° 。：\*：\*...\*：

今、我が家は二世帯住宅になっているが、立て替える前には、何度も何度も衝突した。特にお袋と女房とが。一時は、別々に暮らした方が良いと思い、アパートの手付け金まで払った事もあった。

話し合いの中、三島に来てくれた時の話になったことがある。

「お父さんやお母さんが、三島に来てくれる、って言ってくれたのは.....」

「何言ってるの？ あれはアンタが『来てくれ』って頼んだから、私らは三島に行ったんだ」とお袋は言い放った。

「え？ 何言ってるよ？ 電話で『私らがそっちへ行くよ』って言ったんだよ！」

「私は、そんなこと、言った覚えはない！」

お袋は、僕たちに頼まれたから、とず~っと思っていたんだなあ、と。

しまった、と思った。

お袋は僕が小さい頃からそうだったじゃないか！

何かあると「そんなことは知らない！」「私は言っていない」「忘れた」「私らバカだから」etcetc

最近、ゆーたはよく言う。

「おばあちゃんはずるい！ 自分の言った事をすぐに、『忘れた』って言うんだもん！」と。

:.:.'° 。.:\*.'° ° '.:\*:.。.:\*.'° 。.:\*...\*:

家族というのは、本当に難しいと思う。

今日、メンタルクリニックで、カウンセラーの人と話をした時に、「お父さんが『悟り』を開くくらいの境地にならないとしんどいですねえ」

という話になった。ホントにそうだ、と笑った。

でも、それでもゆーたにとっては、僕たち親の次に近いおじいちゃん、おばあちゃん。その人達にゆーたのことをわかってもらえなくて、隣近所や社会の多くの人たちに、ゆーたのことをわかってもらえるわけがない、そう思う。

たとえどんなにしんどくても。

夜、ゆーたが寝静まった後、下へ行って、「どんぐりの家」を渡してきた。

下に行く前に、どんな口調で話しかけようかと、いくつか練習までしてしまった！（笑）

「これ、すごくいい漫画なんだよ、時間があったら読んでみてよ」

それだけ言って、二階に戻ってきた。

最近、体カトレーニングをしています。すこおし、体が絞れてきました。

でも、まだまだ重い！ ベルト穴、後一つ分です。

20円 -2002/01/18(金) Vol.292-

「レストランだったら、もう一つか二つ、何かついてるらあ？」

食卓に乗っているハヤシライスと水を眺めてゆーたが言った。

「ん？ 何かご不満でも……？」

「あ、いや、別にいい……。ただそう思っただけだよ」

「おお、そうそう！ ヒジキがあったなあ……」

「お箸は？」

「スプーンで食べれば良いじゃん！ だってそうだろう？ お箸を出したら、また洗うの面倒くさいだろう？」

「ウン、そりゃ、そうだ！」

思いっきりテレビを見ながら、僕とゆーたの昼飯が始まった。

:.:.'° 。.:\*.'° ° '.:\*:.。.:\*.'° 。.:\*...\*:

食器洗いの報酬は「20円」ということになった。

魚の皮や油がこびりついたグリル等の「大物」がある時は、10円アップして30円にしてやる。

「違うよ、なぜるだけじゃなくって、スポンジで挟むの！」

「そうそう、特にお皿のへりには汚れがついてるからね」

「おお、うまくなったじゃん！」

ゴム手袋をはめたゆーたのすぐ横で、僕は次々と言葉をかける。

まだまだ危なっかしいところはあるが、それなりに注意をするようになってきている。

以前は、食器を洗っているとすぐに「水がもったいない！」とか「もっと少なく流さないといけない！」

と言ってきて、うるさいったら、ありやしなかった。

しかし皿洗いをやるようになってから、ある程度水を流さないと汚れが落ちない、と言う事を学習したようだ。

他にもお湯の方が水よりも汚れが落ちると言う事や、食べ終わったら油ものと水洗いだけですむものを、別々にしておく事や食器は水につけておいた方が、後々楽だと言う事等々。

勿論、食べ終わったら、すぐに立ち上がって、下に行ってしまうようになるのは、毎度の事だが。

:.:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:..。.:\*:・'° 。.:\*:...\*::

食事の後の片づけの時間は、20分ほどかかってしまう。

でも、いいんだろうな。時間はあるんだから。

ゆっくりとゆっくりとやればいいんだよな。

明日は、MOUSのエクセル2002上級の試験です。

「パパ、最近ガリ勉になった！」とはゆーたの言葉。(^^;

悔しいっ！ -2002/01/19(土) Vol.293-

いや、ホント悔しいったらありやしない。

思いの外時間がなくて、16問中、14問しかできなかった！

丁寧にやりすぎたんだろうなあ。時間の計算が甘かったと言う事。

問題的には、よくわからずに次へ進んだのは、一つくらいのものであったのになあ.....。

くっそおおおおおっ~!!!!!!

Excel2002 上級試験に合格「は」した。

しかし、試験には9項目のセクションがあり、それぞれ50%以上正解でないと、MOT(マイクロソフトオフィシャルトレーナー)の試験が受けられない。時間切れでできなかった影響で、一項目正答率0%ってのがあったのだ！

だから、MOTの資格を取るには、「Excel2002 一般」の試験ともう一度、上級の試験を受けないといけないのだった。(;\_;

:.:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:..。.:\*:・'° 。.:\*:...\*::

う~ん、もう一度、1万2千円払ってマイクロソフトをもうけさせるのか？

MOTの資格を取ったからと言って、それを生かした仕事を具体的に考えているわけではないのに、それでも取るのかなあ？

Wordはどうしよう？ 一太郎の方が絶対に使いやすいのになあ。

どうせ取るなら、エクセルもワードも取ってしまえ！ という思いもないではないけれど.....。

「アンタねえ、検定試験を受けるのは良いけれど、それを取って、次に繋がるの？」

と女房の鋭い指摘。

全く持ってその通り。(..)

:.:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:..。.:\*:・'° 。.:\*:...\*::

「時間がない」「対策用のテキストが出ていない」「試験問題に慣れていない」等と言ったところで、結局は自分の力が足りなかったということなのだ。

それに尽きるのだ。  
でも、でも、でも……。  
やっぱり悔しいんだ！！ (--;)

試験開始が30分遅れ。試験中もとっても緊張しました。  
あれ？ こんなにも本番に弱かったっけ？ と自分を疑ったり……。

まるお君 -2002/01/20(日) Vol.294-

「ホント最近、パパはガリ勉になったよねえ。まるお君みたいだ！」  
とゆーたに言われた。

「まるお君」って言うのは、「チビまる子」に出てくる、眼鏡をかけたガリ勉の学級委員。  
確かになあ、去年の暮れ辺りから、.comMaster や mous の試験に向けて、それなりに勉強はしている。  
また、「今、勉強してるんだから、後で！」と何度となく口にしている。  
ゆーたには、僕の口から「勉強」という言葉が出てくる事が、とてもおかしく思えたようだ。  
ん？ じゃあ、一体、ゆーたは僕の事をなんと思っているんだろう？ (--;)

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. .\*:.'° 。.:\*...\*:

「パパったら、パソコンに向かって『仕事、仕事』って言ってるけれど、トランプゲームばかりだにっ！」  
と女房によく報告する。

確かに、何かやっている時に、「スパイダーソリティア」が立ち上がっていることは多い。だが、それは息抜き用であって……とここで言い訳してどうすんだ！

まあ、ゆーたには「パソコン＝遊んでる」と言うイメージのようだ。  
たまに頼まれたパソコンを作っている時でも、それは、プラモデルでも作っているような感じで見ているのだった。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. .\*:.'° 。.:\*...\*:

ママは外でお金を稼いでくる。  
パパは、家でグタグタしている。  
自分と一緒にゲームをしたり、眠くなったら、ホットカーペットに寝っ転がっている「父親」の姿。恐らくお気楽なヤツだと、ゆーたなりに思っているんだろうなあ、と。  
そっ、お気楽なんだな。  
でも、色々とお気苦労は多いんだぞ！  
君が気がつかないだけなんだからな！

だいぶ身体がしぼれてきたゾ。でも、まだ重い (^^;  
3月10日に京都シティハーフマラソンにエントリー。う～む、大丈夫だろうか？

限界？ -2002/01/21(月) Vol.295-

今日もまたゆーたが吠えた。  
夕方おばあちゃんとおじいちゃんが食事に出かける時の事。  
僕も昼過ぎにその話を聞いたが、おばあちゃんはゆーたに、前もって伝えてなかったのだ。おばあちゃんが出かけるところを見つけたゆーたは、「どこへ行くんだ！」と。  
「今日はダメ！」とおばあちゃん。

このパターンだと、もう止まらない。

前もってゆーたの心の準備ができるような言い方をしておかずに、いざ、その場になって取り繕ろうとする。

「おばあちゃんは何度言ってもダメだ！ ちっとも変わらない！」

何とかなだめすかして、おばあちゃん達は出かけていった。

：\*：\*：\*。：\*：\*：\*。：\*：\*：\*。：\*：\*：\*。：\*：\*：\*：\*：

ゆーたが寝た後におばあちゃん達は帰ってきた。

下へ行って、二人と話をした。

「ゆーたはもう、限界かもしれない」「『ちっとも変わってくれないじゃないか』というあきらめの気持ちが強くなっている」

そして女房の3月の転勤を機会に引っ越し事を考えている、そう伝えた。

「我慢のできる子になって欲しい」「物事を聞き分けられるように……」

おじいちゃんやおばあちゃんの言う事は、正論だ。

だけれど、ゆーたはもっとその前の所で苦しんでいる。

「世間一般の常識とか、他の子ども達からゆーたを見るのではなくて、ゆーたの今の全てを、まず認めてあげて欲しい」

「まず、『そうだね』とゆーたの言動を素直に受け入れてあげて欲しい」

「ゆーたに何か言われてするのではなくて、ゆーたの気持ちを先読みしてあげて欲しい」

「僕やよしこに言うのではなく、ゆーたが納得するように、きちんと話をしてあげて欲しい」

「ゆーたが、おばあちゃんがどこかへ出かけようとするとな怒り出すのも、自分の事を見捨てられる、という思いが強いからだ」

……………

自分の親に向かって、「変わって欲しい！」と要求を突きつけるのは、何としんどいことだろうか？

「ゆーたに罪はないからね……」

二人はそう言ってくれたのがせめてもの救い。

しかし、いざ、ゆーたを前にすると、なかなか気持ちをくみ取るのは、難しい事だろう。この先、ゆーたが失望を繰り返す事のデメリットは、おばあちゃん達と別れて暮らすことによるデメリットよりも、大きいと感じる。

そんなぎりぎりの所に来ていると思う。

：\*：\*：\*。：\*：\*：\*。：\*：\*：\*。：\*：\*：\*。：\*：\*：\*：\*：

明日の朝、ゆーたがどんな態度で、おばあちゃん達に向かっていくか、とても気がかり。上辺だけでなく、心底ゆーたのために変わっていく、という気持ちが伝わると良いのだが……。

ゆーたが「変わらない」という裏には、僕の長年に渡る、お袋への思いが色濃く影響しているんだろうな。僕自身の考えを、まず変えなければ……。

変化 -2002/01/22(火) Vol.296-

「こっちからあ～しろ、こ～しろ、って言うよりも、まずゆーたに、『ありがとね』とか『助かったよ～』とか言ってやらんといかんだな」

夜、親父と二人で今朝の様子を聞いた時に、親父がそう言った。  
やはり昨夜のことがあり、ゆーたはいきなり、親父に当たっていったようだ。

「この間、ゆーたが手をキュッと引っ張ってくれたおかげで、痛かったけれど逆に良くなったみたいだよ。ありがとねえ」と親父が言うと、「そんなら治療費寄せ！」とゆーたが言い出した。もっとも「治療費」とか「賠償金」というのは何かにつけてゆーたが口にする言葉だが……。

「いくらだ？」

「一万円だ！」

「ええそんなに高いのか？ もっと安くしてくれよ～」

「8千円……」「5千円……」「千円……」「500円……」

「ゆーたが新聞取ってくるのが10円なんだろう？」

「う～ん、じゃあ、20円でいい！」

そんなやりとりがあったそうだ。

で、結局親父は30円、「治療代」として払ってあげたそうだ。

そんなやりとりを通して、ゆーたは次第に落ち着きを取り戻していった。

今日は、なかなか上に上がってこず、おじいちゃんと一緒に、プラモデルの塗装をやっていた。

.:\*.°。.:\*.°。°。!.:\*.。.:\*.°。.:\*.:\*:

ゆーたとのやりとりを話す親父の姿も、とても楽しそうだった。

僕の気持ちのどこかに、「ようやくわかってくれたのかなあ」と言う思いが全くなかったと言えは嘘になるが、それでも、「正論」ではなく、まずゆーたの気持ちを考えてくれた事が嬉しかった。

実際、親父の「正論」には、ゆーたもかなりうっとうしい、と思っていた事もあっただろうし、それが目に見えないプレッシャーとなって、ゆーたの心に重くのしかかっているのも事実だろう。

親父の方が、お袋に比べ柔軟性はある。

少なくとも、親父の小さな変化に、僕はかすかではあるが、手応えを感じた。

後はお袋だ、と……。お袋の方が、考え方を変えるのは容易な事ではないだろう。しかし、少なくともようやく親父には、こちらの言わんとすることが伝わり始めている。

これだけでも大きな「変化」だと思う。

まだまだ時間がかかるだろうが……。

正直、夜親父の所に話に行くのが気が重かった……。でも、まずは僕が変わろう……

物置 -2002/01/23(水) Vol.297-

ゆーたに自転車を買ってやろうと決めた時、併せて物置を購入した。

自転車が雨ざらしになっちゃいけないから、出発はそこだった。

ところがいつしか、その物置は、おじいちゃんのアルミ缶を入れる場所に変わり、ゆーただけでなく、僕たちのちょっとした物を出すのにも一苦労、という有様になってしまった。

これまで何度もゆーたは「おじいちゃんのガラクタで、自転車が出せない」と言ってきた。僕たちも「何とかして」と言ってきた。

そんなゆーたに対して、おばあちゃんも「ホントにどうしようもないね、おじいちゃんは」と言っていた。しかし、結局は「仕方がない」という所で終わっていた。

.:\*.°。.:\*.°。°。!.:\*.。.:\*.°。.:\*.:\*:

今日、書道教室へおばあちゃんが行く時、「一緒に付いていく」とゆーたは言い出した。しかも「教室の中に入りたい」と。「部屋が狭いから」「他にも練習している人がいるから」「迷惑になるから」ととにかく、おばあちゃんは「ダメ」を連発し、一人、自転車で出かけていった。

その後を追って、ゆーたも自転車を出そうとしたら、例によっておじいちゃんのアルミ缶で、自転車が出せない状態だった。ゆーたは怒った。

：\*：\*！° 。 .：\*：\*！° ° '！\*：\*.. .：\*：\*！° 。 .：\*：\*...\*：

ゆーたが寝静まった後、今夜も下に行って話をしてきた。

その時、僕が一番言いたかったのは、「物置を何とかして」と言い続けてきたゆーたに対して、「そうだね、しょうがないね」と相づちをうちながらも、結局、おじいちゃんの事を認めてきたおばあちゃんの行動は、ゆーたにしてみたら「拒否され続けてきた」と映るということだった。

ところが、おばあちゃんはそれがわからない。

「だって、ホントに物が多いんだから」

「いくら言ってもダメなんだから」

「あの物置は、私らとあんたらで出し合ったんだから」

と的はずれの事ばかり、言ってくる。

違うんだ、ゆーたの立場に立ったら、そんな事は関係ないんだ。余分な事はこの際どうでも良いんだ、と何度も繰り返した。

大事な所はなんなのか、という事がわからないために、ゆーたの言動に振り回されてしまっているおばあちゃん……。一時間以上、色々とうーたの気持ちを話したが、どの程度わかってもらえただろうか？

先は長い……。

いくら周りが「変われ」と言っても、本人が「変わろう」としない限り、決して変わる事はない。しかし、周りの働きかけも必要な事。要はどんな働きかけをするか……。

## 母の人生 -2002/01/24(木) Vol.298-

母は小さい頃に耳を患い、その後まともな治療も受けられず、長い間人の話がよく聞こえなかったという。母親から「何を言われても、じっと我慢するんだよ」と言われてきたとも。

父と結婚し、僕が生まれたのが昭和32年。

人の話がよく聞き取れない母は、自ずと外に出たり、人と接する事よりも、父や姉や僕達家族のためにこそ、自分の人生を捧げてきたようなものだったろう。耳のハンディ故に、辛酸をなめた事もたくさんあったろうと思う。

僕が母の耳のことははっきり聞いたのは、大学の時だった。

それも姉から……。

「お母さんはアンタの言ってる事をほとんど聞こえてなかったんだよ」と。

知らなかった。全然知らなかった。耳が悪い、ということは知っていたし、時々、何度も「あん？」と聞き返し、うっとうしくなった僕は「もう、いい！」と言って話をやめてしまった事は何度もあったが……。

：\*：\*！° 。 .：\*：\*！° ° '！\*：\*.. .：\*：\*！° 。 .：\*：\*...\*：

僕が浜松に帰ってきてからだから、10年ほど前、母はようやく耳の手術を受けた。片方の耳は相変わらずだったが、もう片方の耳は、補聴器をつけなくとも聞こえるようになった。

それからようやく母は、書道などの習い事をしに、外に出るようになった。



また、家にも古くからの友達が来るようになった。  
そうした変化に「随分と積極的になったよね」と女房と話をしたものだ。

長い間、それこそ50年近くも、外との繋がりを自分から断ってきていた母。  
自分の家族に愛情を注ぐ事を心のよりどころとしてきたのだと思う。

:.:.:'° 。.:.:.'° ° ' .:.'°. .:.'.'° 。.:.:.'.:':

もし、ゆーたと一緒に生活をする事がなければ、僕たち家族とも適度な距離を保ちながら、失われた時間をゆっくりと確かに取り戻せていたことだろう。

しかし、一緒に生活しているがために、70を過ぎた今になって、息子の僕から、変わる事を要求される。

僕の気持ちが揺れるのもそのところだ。

どこまで年老いた母に要求して良いものだろう.....。

静かにゆったりとした時間を過ごして欲しい、と思うのも、僕の正直な気持ちでもある.....。

重たい話になると、発行が一日ずれてしまいます。

その日のうちに書き殴ったり、ずうっと考えてみたりすると、どうしても翌日になってしましますね。でも、その日のことはしっかりと書き残したいと思っています。

## ダイヤモンド -2002/01/25(金) Vol.299-

いつ頃からか、ゆーたが「ダイヤモンドが欲しい」と言い出した。そして、せっせとお金を貯めてきた。正月のお年玉や沼津のおじいちゃんからもらうお小遣いやらで10万円のお金になった。

もっとも日常的には、おばあちゃんに、「換金」と称して20円と50円を換えてもらったり、詐欺まがい(笑)のことをしたりもしているが。

HPやYahoo!のオークションで、よくダイヤモンドの事を調べたりしてきた。

僕や女房が知らないようなことまで、実に情報を仕入れている。

女房は貴金属にはほとんど興味のない人間なので、僕たちは何が何だかわからない。

で、日曜日に女房と二人で、ダイヤモンドを買いに出かけるみたいだ。

「みたいだ」というのも、あくまでも僕には内緒で行こうとしている。

僕は常々、「ゆーたのお金だから、何に使うか決めるのはゆーただからね。

ただ、そのお金があったら、パパはゲームソフトをたくさん買うなぁ」とか

「ゆーたのパソコンを新しくするのも良いぞっ！」と言っているから、僕に知

られたくないのだろう。

:.:.:'° 。.:.:.'° ° ' .:.'°. .:.'.'° 。.:.:.'.:':

なぜ、ダイヤモンドなんだろう？

ゆーたの思考の中には、高価な物を持つことが自分の地位や力を高めるという思いがあるみたいだ。自分への自信のなさの現れなんだろう、と。また、「力」のないゆーたにとっては、「権威」の象徴なのかもしれない。

周りの人間から見れば、「もったいない」という事に尽きるだろうが、でも良い。

ゆーたにしる、大きな買い物だから、そんな簡単に答えを出すわけでもなかっただろうし.....。「そんなもの！」と思わない、口にしない事が一番大切な事だと思う。

：\*：\*！° 。：\*：\*！° ° '！\*：\*..：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

以前、チビまる子ちゃんを見て「お姉ちゃんがお年玉で7万円貯めたから、ゆーたも7万円貯める！」と言いだし、「7万円」に固執した事がある。「何のために」という事など関係なかったが、今回は少なくとも目的があった。

時間をかけてこだわってきた「ダイヤモンド」。

ダイヤモンドを手にした後、ゆーたは何を目的にするのだろうか？

明日は、MOUSのエクセルXP一般の検定試験です。

もし受かったら、次は、ワードです。でも、検定料が高いんだあ.....(;\_；)

## MOUS -2002/01/26(土) Vol.300-

今日、MOUS (Microsoft Office User Specialist) のエクセル一般試験を受けてきた。自分としては合格して当たり前と思っていたけれど、やはりホッとした。

その場で即座に結果がプリントアウトされるから、ヤキモキしない分だけ良いかもしれない。結果は以下の通り。

Microsoft Office XP Excel2002 Core < エクセル一般

最低合格点：640 あなたの得点：973 成績：合格

- ・セルとセルデータの操作.....100%
- ・ブックの管理.....100%
- ・ワークシートの書式設定と印刷.....100%
- ・ブックの変更.....100%
- ・数式の作成と変更.....100%
- ・画像の作成と変更..... 67%
- ・ワークグループでのグループ作業...100%

で、先週受けた上級の結果は次の通り。

Microsoft Office XP Excel2002 Expert < エクセル上級

最低合格点：690 あなたの得点：735 成績：合格

- ・データのインポートとエクスポート 100%
- ・ブックの管理.....100%
- ・数値の書式設定..... 67%
- ・セル範囲の操作..... 50%
- ・Excel のカスタマイズ..... 67%
- ・ワークシートの分析..... 60%
- ・データの集計.....100%
- ・データの分析..... 0% < ははは、これがすごい！
- ・ワークグループでのグループ作業... 80%

：\*：\*！° 。：\*：\*！° ° '！\*：\*..：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

静岡に出かけていた女房を迎えに浜松駅まで行った帰り、試験の事に話があった。

「で、後、どんな試験を受けるの？」「その試験に受かったら、どうなるの？」

「で、いくらかかるの？」etcetc.....。

「MOT(トレーナー)の資格を得るには、後、エクセル上級をもう一回、受けて、更に『essential』つ  
て言う試験を受けて、それから東京かどっかで、実地の講習会を二日くらい受けて……」

「……一体、いくらかかるのよっ?！」

「私が検定料、出してやってるんだからねっ！」

……「出してやってる」。確かに出してもらってるのは事実だが、なんかすごい抵抗感を感じてしまった。  
ゆーたとの事を最優先する状況の中、僕には「定職に就く」などは全く不可能。

自由な時間の中で、やりくりできる仕事を探していかないといけないのだが、今のご時世の中、そんな都  
合のいい話はない。

だからこそ、自分としては「スキルアップをしていきたい」という所なのだが、その先は、まだまだ暗中  
模索状態。

まだまだ手探り状態は続きそうだ。

一緒に迎えに行ったゆーたは、そんな僕と女房のやりとりを、どんな風にとらえていたのだろう……?  
それとも明日見に行く、ダイヤモンドの事で、頭が一杯だったのだろうか……?

今度の土曜日は、ワードの一般を受けてみます。一太郎ばかり使っているので正直、ワードは全  
然わからん! 苦戦しそうだ……(--;) )

## ダイヤモンド2 -2002/01/27(日) Vol.301-

今朝はいつもタラタラしているゆーたの行動の素早い事と言ったらなかった。

10時開店のお店に行くために、9時35分には家を出るのだ、とはりきっていた。もう、楽しみで楽し  
みで仕方がないのだろう。

小さなバッグに、ゆーたなりに取りそろえた資料を詰め込んで、出かける時間を待ちわびていた。

昨夜、僕がパソコンを教えている人に、宝石店を紹介してもらえないか、と電話を入れたところ、直ぐ  
に、そのお店の店長さんに電話を入れてくれた。

女房とゆーたが出かけたところ、「鈴木さんですね、お話は聞いてます」と丁寧に出迎えてくれたそうだ。

:.:.'° 。.:\*.'° °.'\*:.。.:\*.'° 。.:\*:.:\*

僕はスポーツジムで汗を流して、昼頃、女房に電話を入れた。

とにかくゆーたが満足できたかどうか、きがかかりでしょうがなかった。

「もし、お店でイヤな思いをしたり、ゆーたの抱いているイメージが壊されてしまうことがあったら……」  
と。

「色々話を聞かせてもらった」という返事。

ホッとして家に帰り、ゆっくりと話を聞いた。

結局、将来の事を考えと(結婚指輪とかに使ったり)もう少し大きめの方が何かと良い、とのことだっ  
た。しかし、そうなるとうーたの今の予算では、足りないとの事。

「1000円、2000円の金額じゃないからねえ……」

「まだこの先、ゆーたは待てるのかしら……?」

と女房が言う。

「でも、今日はお出かけて行って、色々話を聞く事ができて、満足みたいよ」とも……。

さてさて、ゆーたのダイヤモンド購入は、この先どう進展するんだろうか？

「6年の科学」にダイヤモンドの記事が載っていたのが、興味を持つきっかけだったみたいです。バックの中に、しっかりと入ってます。

徹底 -2002/01/28(月) Vol.302-

「おかしいよねえ、これ！」

とニュースを見ていた女房が言った。

中学生達がホームレスの男性を殺した事件のことだ。

「校長会を開き、命の尊さをよく教えるように徹底する」というようなことが伝えられた時だった。

「ものすごく、変だと思わない？」としきりに僕に同意を求めてきた。

僕は換気扇の下でタバコを吸いながら、ニュースに耳をやっていました。

命の尊さは「教え」たり「徹底」するものなんだろうか？

僕も、同じ事を思った。

こういう時に登場するのは、決まって「生徒指導主事」とかで、全校集会などが開かれるんだろうなあ、と。

でも、違うんじゃない？

その前に、各学校や地域で、教師や大人達が子ども達の命を大切にしているのかということ、まずやるべきではないのだろうか？ そう思った。

何か事件があると、それを教訓にして壇上から「教え込む」というパターンから、いつになったら抜け出せるのだろうか、と。

朝日新聞のサイトでこの事件に関する記事を見ていたら、その直ぐ上に、「中学校教諭が教え子にわいせつ行為の疑い、逮捕 埼玉(22:33)」というニュースが掲載されていた。

「弱者と強者」……最近、よく耳にする言葉。イヤな言葉ですね。

散髪 -2002/01/29(火) Vol.303-

昨日の午後、おばあちゃんに髪の毛を切ってもらった。

床屋の4500円はやっぱり痛い！ そんな事から、去年の暮れ、女房に髪の毛を切ってもらった。女房は人の髪の毛を切るのが初めてで、結構面白かったらしく、「また、私がやってやるよ！」等と言っていた。

しかし、最近、僕の髪の毛を切るゆとりがないらしく、「髪の毛切ってよぉ」と言っても、「今度、今度」で先延ばしにされてきた。そうこうしている内にさすがに髪の毛がうっとうしくてたまらなくなった。

床屋に行こうかとも思ったが、最近仕事もとんとなく、検定試験も受けているので経済的に余裕は全くない。

そこで、おばあちゃんとのコミュニケーションも兼ねて(笑) 髪の毛を切ってもらう事にした。

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

頭に手術の跡もあり、ゆーたは生まれてこの方、床屋に行った事はなく、おじいちゃんにずっと切ってもらっている。そしておじいちゃんの髪の毛は、おばあちゃんが切っている。

昨日の朝、「今日の午後、髪の毛切ってくれる？」と頼むと、二つ返事で「いいよ」という答えが返ってきた。「下手だよ、いいの？」「構わん、構わん！」

僕が髪の毛を切ってもらっている時、炬燵に横になって時々こちらをチラチラ見ているゆーた。この間、ゆーたの事でおばあちゃんと何度もやりあっているのを見ているだけに、僕たちの間の事を、ゆーたなりに気にしているんだろうなあ、髪の毛を切ってもらいながら、そう思った。

:.:.:'° 。 .:.:'° ° ' .:.:.. .:.:'° 。 .:.:...'°:

おばあちゃんのおかげで、非常にさっぱりした。  
帰ってきた女房が、「あ、さっぱりしたジャン！ おばあちゃんとのコミュニケーションにもなって、良かったねえ～」と笑った。

気がついてみれば、1月ももうじきお終い。今年も後1ヶ月だ！（笑）  
この「ぼちぼち……」も気がついたら、300号を越えていた。  
う～ん、今年はおちつと頑張るか！

頑張る（笑） -2002/01/30(水) Vol.304-

むやみやたらと頑張るのは良くない。  
また、頑張らせるのもあまり良い事ではないと思う。  
でも、時として頑張る時はあるし、必要だ。  
この1月、自分でも感心するくらいに「頑張って」いる。  
おばあちゃんやおじいちゃんとのこと、体力づくり、検定試験、そしてこのメールマガジン。

:.:.:'° 。 .:.:'° ° ' .:.:.. .:.:'° 。 .:.:...'°:

「この3月に引っ越すつもりで考えている」

そう、みんなにはっきり言ってから、おばあちゃん達との関係づくりに、それなりの努力を払うようになった。以前のまま、言いたい事も伝えずに、ただ引っ越しをするとしたら、きっとゆーたを始め、みんなの気持ちに良い影響は与えないだろう、そう思った。そして、腹を決めた途端に、頑張る事が少し、苦痛ではなくなった。

:.:.:'° 。 .:.:'° ° ' .:.:.. .:.:'° 。 .:.:...'°:

3月10日に、京都シティハーフマラソンに参加する。  
この大会は、希望者が多く抽選に当たらないと参加できない。  
僕の好きな京都を走る事ができる、ということでエントリーしたら、当選した。ところがこの大会は、途中5カ所の関門があり、とてもきつい。  
太った身体では、とてもとても。やっぱ、辞退しようかな、等と弱気な気持ちもチラホラと……。しかし、Niftyのランニングフォーラムでは、「抽選外れて残念！」という仲間の発言を読んでいる内に、このままだらりでは、自分が許せないなあ、と思った。  
毎日1時間から1時間半は、しっかり身体を動かすようにして、3週間が過ぎ、4週目に入った。身体も随分と楽になってきた。2月に入ったら、ランニングの距離を増やそうと思う。

:.:.:'° 。 .:.:'° ° ' .:.:.. .:.:'° 。 .:.:...'°:

今週末は、MOUSのワード2002一般の検定試験。  
これで3週間続けての検定試験。

「この資格をとってどうすんだ？」ということに対する答えは見つかってないが、毎日毎日、きちんと勉強している。ワードもワードで「食わず嫌い」の所もあったなあ、と思ったり。

きちんと勉強すると、そこからまた、新しい発見や、次のイメージが湧いてくる。

：\*：\*！° 。：\*：\*！° ° '！\*：\*..。：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

メールマガジンを発行するというよりも、自分自身の心の記録をきちんとつけよう、という事が大切だと思った。

高校、大学、教員時代と続いていた「紙と鉛筆」が「パソコン」に変わったわけだが、その時々自分をきっちりと記していく事が、今、何よりも必要だと思った。

どこまで続くかわからないけれど、ある程度続ける事によって見えてくる事があるだろう、そんな気がする。

：\*：\*！° 。：\*：\*！° ° '！\*：\*..。：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

頑張っていると疲れる時がある。

疲れた時に、どれだけ力を抜くことができるか、そして、頑張るのをやめる事ができるかできないかを見定める事、それが大切なんだろうな.....。

「気分は行動についてくる」.....その、むか~し、女房が僕に渡してくれた新聞の切り抜き記事のタイトル。最近、そのことをフト思い出した。

## ご馳走 -2002/01/31(木) Vol.305-

明後日は女房の学校のマラソン大会。そして午後は、体育科で民宿へ行ってお昼を食べ、お風呂に入ってくるのだそうだ。

3月にもなれば、学年の一泊旅行、送別会。他にもきっと教科だとか、分掌だとかで色々出かけることになるだろう。

つい最近もゆーたと女房は二人でランチバイキングに出かけていった。

僕はと言えば、この一ヶ月間で外食したのは一度だけ。

先週の日曜日。女房とゆーたがダイヤモンドを見に行った時、一人で漫画喫茶に入って食べたランチだけ。

平日は勿論、ゆーたと一緒に、例の「おもいきりテレビ」を見ながらの食事。

「ご馳走が食べたい！」

と今日は何度も叫んでいた。

：\*：\*！° 。：\*：\*！° ° '！\*：\*..。：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

「ゆーたと一緒にランチにでも行ってくればいいじゃん！」

女房はあっさりと言う。

う~ん、行こうかなあ、と思わない訳ではないが、どうしても「お金」の事が頭をよぎる。ここ3週間は毎週、MOUSの検定試験を受けているしなあ、と.....。ゆーたも僕と出かけるよりも、女房と出かける事の方が喜ぶし.....。

それ以上に、女房に「出してもらって」出かけるというのも、何となく癪にさわる。そりゃあ、女房が我が家の経済的支柱であることには変わらないが、どうも「出してやってる」という態度がイヤだ。(--;) )

あぁ、せいせいとご馳走が食べたい！  
でも、食べに行く金もないし、一緒に行く人がいるわけでもない。  
ブツブツ言いながら、結局は漫画喫茶に出かけるんだろうなぁ……（笑）

右手の小指のギブスははずしました。何とか動くようになりましたが、エンターキーを押すのは、どうしても薬指になってしまいます。

## 2002年2月

二転三転 -2002/02/01(金) Vol.306-

ゆーたは納豆が嫌いだ。臭いがたまらないそうだ。

だから僕はゆーたのいない時に、こっそりと食べる。下でもおじいちゃんが食べたりすると、ゆーたは二階に上がってくる。

所が今朝は違った。朝食の時間になってもなかなか二階に上がってこないのだ。下に呼びに行くと、おじいちゃんが納豆を食べ始めるといきなり怒りだしたようだ。

「納豆は食べちゃいかん、って言ってるだろう！」と。

おじいちゃんたちは、いつもと違うゆーたの反応に戸惑いながらも、懸命になだめようとするおじいちゃん達。一端僕は二階に上がった。

けれど、一向にゆーたの怒りは収まらない。しまいには、「人の人生を滅茶苦茶にしておいて、なんだぁ」とお決まりの文句が出てくる始末。

ゆーたの一際大きな声が聞こえたので、二階に連れてきた。

∴∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴∴

「もう、一緒に暮らせないね。3月から別々に暮らすためにも、その前に一切下に行かないような生活しよう。下にあるゆーたのおもちゃや本も全部、今から二階に上げてくるから！」

そう言って、僕は二階の片づけを始めた。

そろそろ下に行ってゆーたのモノを全部あげようかという時、おばあちゃんが、ゆーた宛の宅急便を持ってきてくれた。

ロシアのスキー社と所が作っている戦車のプラモデルだった。

外国のプラモデルの輸入業者から、在庫があったと言う連絡があり、ついこの間、お金を振り込んだところだった。

ここ数日「今日くらいには届くかねえ？」とそればかり口にしていた。

待ちに待ったプラモデルが来たのはいいが、ゆーたは困った顔をした。

このプラモデルは、説明書もロシア語でとてもゆーたの手に負えるモノではない。だから、おじいちゃんに手伝ってもらう、と言う事になっていたのだ。

「ゆーた、困るでしょ？ おじいちゃんに助けてもらう事だってあるでしょ？」

「……」

「下に行きづらいんでしょ？ 一緒に行って、おじいちゃんに頼んであげるから、下に行こうか？」

僕がそう言うと、ゆーたは嬉しそうについてきた。

朝の一件はどこへやら、いきなり「素直なよい子」に変身した。

「毎日、1時間半くらいかなぁ、制作時間は……」等と口にしたり……。

お昼ごはんを食べると、急いで下に降りていってしまった。

:\*:・!° 。.:\*:・!° ° !・\*:.. .!:\*:・!° 。.:\*:...\*::

夜、また、ゆーたの大きな声が下から聞こえてきて、おばあちゃんが女房を呼んだ。

9時少し前、二階に上がってきた女房がため息をつきながら言った。

「ホントにどうしようもないわ！ おじいちゃんが鎌倉彫に出かけている間、プラモデルを作っていたら、小さな部品をなくしたんだって。いくら探しても見つからないんだけど、『おじいちゃんが出かけていったからいけないんだ』って怒りだしてるんだもの。もう言ってる事が、滅茶苦茶！」

二階に上がってきても、女房に当たり散らすゆーたに僕もいささか頭に来てしまった。

「もう、うっさい！ 少しは黙ってる！」と。

ゆーたもわかってるんだろう。

このプラモデルは、輸入品だから、パーツがなくなったらどうしようもないということ。そして、それが誰のせいでもなく自分のせいだということも。

あんなに楽しみにしていて、ようやく届いたモノだけに、ショックが大きかったんだろう。「自分のせいだ」と受け入れるしかないとわかっているけど、受け入れられないがために、誰かに当たってしまう。当たり散らす自分自信に対して、ますますイヤになっていく。

こうした事柄を、スッと受け入れられるようになれば、ゆーたも随分と楽になるのに.....。

夜、ビデオテープを下に持っていきがてら、おじいちゃん達と話をしました。  
この話の続きは、また明日.....。

## ビデオ -2002/02/02(土) Vol.307-

毎晩、ゆーたが寝た後に、僕は「ほんまもん」の録画ビデオを持って下に降りて行く。全く理不尽なことではあるが、ゆーたがおじいちゃん達に「『ほんまもん』なんか見ちゃいかん！」と怒るからだ。

「見ちゃいかん」と言われて、ついついムキになって言い返すと、ますますゆーたは怒ったりする。そこで、僕が毎日録画をしてそのテープを持っていく事にしたのだった。

ホント申し訳ないと思うが、all-or-nothing ではなく、少しでもつまらないトラブルを避けるための「策」でもある。

そして、この一時が、僕とおじいちゃん達との情報交換の場に、なりつつある。

:\*:・!° 。.:\*:・!° ° !・\*:.. .!:\*:・!° 。.:\*:...\*::

昨日の朝、ゆーたがいきなり怒りだした、と言うが、それには訳がある。

少し前、おばあちゃんが、ゆーたに食事に出かける事をきちんと言わなかった。その事に対して、きちんとゆーたは謝ってもらってない、と言うのだ。

「おばあちゃんは自分が悪い事をして、全然謝ろうとしない。それどころかごまかそうとする！」と。

その話をおばあちゃんに伝えたら、

「なに、その事だったの？ 全然わからなかった！」と言った。

謝ってもらってない、と訴えるゆーたと、何を謝れ、と言われているのが全然わからないおばあちゃん。このズレがゆーたをイライラさせていたのだった。



:\*:.'° 。.:\*:.'° ° '.:\*:.。.:\*:.'° 。.:\*:.:.\*:

部品をなくしてしまったゆーたに対しておじいちゃんは、「朝までにちゃんと作っておいてやるでね」と言って、ようやくなだめた。おじいちゃんはメヌエル氏病を持っている。性格もあるだろうが、とても器用で、細かい事をきっちりとやらなければ気が済まないから、余計にやっかいだ。

おじいちゃんの身体の事を考えれば、プラモデルなんか作らなくて良い、と言うべき所だろうが.....。「ゆーたはおじいちゃんと戦車を作るのを楽しみにしているし、自分一人じゃ今度のヤツは手に負えないから、時間を決めて、一緒にやってあげて！」

そう頼んだ。

そして、ゆーたが「今日は.....」と言い出す前に、おじいちゃんの方から、「今日はいつかが空いているから、その時間でどうだい？」と先に切り出してくれるように頼んだ。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° '.:\*:.。.:\*:.'° 。.:\*:.:.\*:

ほんの短い時間だが、この先、もっともっと大切になっていくんだろうな。

でも、本当なら、ビデオなんかなくても、そうした事をやっていかないといけないんだろうになあ.....。

今日はおじいちゃんがきちんと作ってくれたおかげで、上機嫌だったゆーた君でした。(^^;)

お客さん -2002/02/03(日) Vol.308-

友達.....と言うには、彼はあまりにも歳がかけ離れている。  
ともあれ、今日、ゆーたの所に久しぶりに人が訪ねてきた。

彼は、二十歳前後。何をしているのか僕たちもよく知らない。  
去年、我が家でフリーマーケットに出展した時に知り合ったのだ。  
「遊戯王」カードにかなり詳しく、またレアカードもたくさん持っている。フリーマーケットの当日も、カバンの中にたくさんのカードを持ってきていた。ゆーたの色々な質問にも即座に答えてくれて、ゆーたはとっても喜んだ。

二回目に出展した時も、彼と出会った。  
こうしたフリーマーケットで、時々珍しいカードもあるらしく、フリーマーケットがある度に足を運ぶのだそうだ。その時もゆーたの話に長い時間、つきあってくれた。  
「今度、フリーマーケットがある時は、会場で会おうよ！」等ということになった。その時に、こちらの連絡先も教えておいた。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° '.:\*:.。.:\*:.'° 。.:\*:.:.\*:

昼過ぎ、僕が家に戻ってきたら、丁度、彼が家にくるところだった。  
近くのフリーマーケットに来たから、電話をしてみたのだ、と。  
そして、昼過ぎから夕方まで、ゆーたと一緒に「遊戯王」カードの話、更には「デュエル(対戦)」をずっとしていた。

.....「対戦」と言っても、ゆーたは知識があるだけで、実際に誰かと「対戦」をしたことなどない。最初は、彼が「対戦しようよ」と言っても、なかなかゆーたは「ウン」と言わなかったが、「そんなの人とやってみて、初めて自分のカードがわかるんだよ」と言われ、ようやく「対戦」を始めた。

すぐさまゆーたの「実力」がわかったのだろう。彼はゆーたの話にあわせながらも、一つ一つ丁寧に教え

てくれていた。ゆーたもトンチンカンな事を言いつつも、色々な事を覚えたみたいだった。

：\*：\*！° 。..\*：\*！° ° '！\*：\*..。..\*：\*！° 。..\*：\*...\*：

途中本屋に出かけ、僕が戻ってきたのが、5時過ぎ。

食卓の上に広げられていたカードが、今度はホットカーペットの上に、場所を移していた。

既に外は暗くなっている。「終わりにしないと！」と声をかけなければ、一向に終わりそうもない雰囲気だった。

6時前、彼は帰っていった。

まさか我が家にまでやって来るとは思ってもいなかったので、僕らもちょっとドキドキしたりして.....でも、僕たち家族以外の人と、楽しそうな一時を過ごしているゆーたの姿を見るのは、嬉しかった。

「ネコ、たくさん家にいても良いなあ」と突然女房が言った。  
今日もミュウは寝室にちょっと入った際に布団でおシッコをした。(--;)

## エコグラム -2002/02/04(月) Vol.309-

友人から「会社のインターネット利用のアドバイスをして欲しい」ということで沼津まで行って来た。その後、以前職場でお世話になった人の所にも顔を出してきた。

結局、朝出て帰ってきたのが夕方。何か久しぶりだ...!

食事をして、走りに行ったらゆーたは寝てしまっていた(笑)

でも、ゆーたは戦車のプラモデルづくりに夢中みたいで、今日は別段、何もなかったみたいだ。

う~ん、平和だ!

こんな時はやはり精神的なゆとりが生まれる。

友人のHPに「エコグラムによる性格診断」のリンクが貼ってあった。

試しにやってみたら、思わず笑ってしまった!

：\*：\*！° 。..\*：\*！° ° '！\*：\*..。..\*：\*！° 。..\*：\*...\*：

### 「エコグラムによるあなたの性格診断結果」

#### 性格

かなり合理的な、ものの考え方をするタイプで、判断力もしっかりしているのですが、何しろ愛情が濃やかな上に、湧き立つほど感情量が豊富で、好奇心も旺盛な為に、心の三要素である(意)(情)(知)の内の(情)の部分の部分が他の二要素を圧倒凌駕して、ギャンブルや男女の情交、酒、麻薬など、人が最も理性を失い易い領域で狂気や情熱が燃え盛り易く、生活の場を突き崩すほど、大暴れする危険性を秘めているタイプです。十二分の自制を心掛けるべきでしょう。

#### 恋愛・結婚

貴方を恋人や配偶者として眺めた場合、非常に楽しく面白い相手ですが、世間や自分と云うものを十分に識っていながら、我儘で気儘で、いつ火遊びに走るか判らない危惧を抱かせるタイプです。貴方はこれ以上刺激を求めなくても、十分過ぎる程、個性的であり、且つ魅力的な性格をしている訳ですから、後はなるべく、平凡な生き方を心掛ける事が、バランスの取れたライフ・スタイルを作り出せる方法だと思います。

#### 職業適性

判断力が高く探求心も旺盛で、自分の遣りたいように遣るタイプなので、活躍の場さえ十分に与えられれば、かなりの仕事を巾広くこなす事が出来るタイプです。但し、協調性に乏しいタイプなので、個人プレーが主体となっている職場や職種でないと、はみ出してしまふ恐れが十分有りそうです。

#### 対人関係

家族をはじめ、周囲の人々に対して、十分の心配りが行き届く様な、生活態度になって来た時の貴方は、満点に近い性格と言えるようになるでしょう。努力次第では、決して夢では有りません。

:.\*. '° 。 .:\*. '° ° ' .:\*. :。 .:\*. '° 。 .:\*. :. :\*:

だそうだ！

どこの部分で、笑ったのかは、ナイショ……

エコグラムのHPはこちらです。

<http://www.taisei-e.co.jp/seikaku/index.shtml>

今日、留守中に6年生の時の担任だった山本先生が、遊びに来てくれた。  
ホントにありがたいと思う……。

#### 素直 -2002/02/05(火) Vol.310-

「今日、午後パパは病院に行きたいから、おじいちゃんに『いつから』『どのくらい』戦車づくり、手伝ってくれるか聞いておいで！」

食事が終わったゆーたにそう言った。

僕が外出する時は、二階にいて電話番とかをするのが、ゆーたの「仕事」の一つ。50円/30分だから、結構な稼ぎになる。だから、僕が外へ出かける時と、おじいちゃんと戦車づくりをする時間が、バッティングするとゆーたには痛手となるのだった。

以前、僕の外出と、おじいちゃんに外に連れて行ってもらう時間が重なって一悶着したことが、僕の頭の中にはあったのだった。

「直ぐに来てよ！」と言ったのだが、下に降りていったきりあがってこない。

僕も時間がなかったので、下に様子を見に行った。

:.\*. '° 。 .:\*. '° ° ' .:\*. :。 .:\*. '° 。 .:\*. :. :\*:

「おじいちゃん、寝ちゃってる……」小さな声で僕を振り返って、ゆーたが言った。

コタツの中でゴロンとしているおじいちゃんの横に、ゆーたも潜り込んでいた。

「……疲れてるみたいだね。毎晩、遅くまで戦車、やってるからだろうね」

「そーだねえ。疲れてるんだね」

「ゆーた、おじいちゃんに、頭、あがんないなあ(笑)」

「そーだねえ。ホントだねえ……」と神妙な顔をして答える。

ゆーたにもわかっているのだ。

次の日の朝になると、昨日の段階よりも、少しずつではあるが、確実に手が加えられている事を……。

:.\*. '° 。 .:\*. '° ° ' .:\*. :。 .:\*. '° 。 .:\*. :. :\*:

「ほんまもん」のビデオを渡しに言ったついでに、今日の昼間の話をした。  
おじいちゃんは、目を細めて聞いていた。

こちらが「よかれ」と思ってしてあげたことでも、ゆーたが心から欲する事と合致しないと、相手には気持ち伝わらないんだなあ、と改めて思った。

とかく、「ゆーたのため」と先走りしてしまう事が多いんだなあ、と。

そして、おばあちゃんの事を考えた。

おばあちゃんのお気持ちが、なかなか伝わらないのも、この辺りにあるのではないだろうか.....と。

「エコグラム」じゃなくって、「エゴグラム」って言うのよ！ 恥ずかしいわねえ.....と女房のチェックが入りました。(..)

1分50円 -2002/02/06(水) Vol.311-

元々は、下にいれば何かとぶつかるゆーたとおばあちゃんを、引き離すのが目的だった。ただ二階にいて、下の物音に聞き耳を立てている毎日は、僕の方もストレスがたまりまくる。一方、やむを得ず外出したらしたで、気が気ではなかった。

そこで考え出したのが、「二階の留守番、30分50円」というもの。

「留守番」と言っても、そんなにかかってくる事のない電話番号程度だし、留守電にした方が、確かではあるが.....。

それでもゆーたにしてみれば、何かしら役に立っている、と言う気持ちと実利(こちらの方が大きいのだろうか)とが絡んで、「出かけてくるぞ」と言うと、「ハイ、時分スタートね!」とカレンダーに記入している。

そして、僕が出かけるとゆーたは玄関にカギをかける。少しでも時間をロスさせようという魂胆だ。(--;)

僕とゆーたとの50円をめぐる攻防が繰り広げられる。

:\*:~!° 。.:\*:~!° ° !~\*:~!° .:~\*:~!° 。.:~\*:~!~\*:~!°

佐鳴湖を走り終え、時計を見て焦った。

このままでは、3時間と数分になってしまう! 間に合いそうもない!

あきらめ半分、車を走らせていると、信号をスムーズにクリアできた。

「これはもしかしたら.....?」

ちょっぴり色気が出てきた。切れたタバコの補充を後回しにして、時計に何度も目をやる。

家に着いたのが、12時1分。出発は9時3分!

こういう時は、玄関のカギがうっとうしい。

ゆーたはゆーたで車の音がすると時計を確認し始める。

カギを開け、ダッシュで階段を上る。時計を見る。

「やったあつ! 12時2分! 2時間59分ね!」

ハアハア言いながら、そういう僕に、ゆーたも「やられた!」と.....。

:\*:~!° 。.:\*:~!° ° !~\*:~!° .:~\*:~!° 。.:~\*:~!~\*:~!°

明日は人と会うため、お昼はおばあちゃんに頼んだ。

「二階の留守番の時間は、自分で計算しておきなよ!」

留守番は、僕とゆーたのささやかなゲームになっている。  
でも、小銭ではあるが、このジャブはなかなかきついものがある……。(;\_;)

「ためしてガッテン」でタバコのことをやっていた。  
身体の酸欠状態は一週間で回復する……。真剣に見てしまった。

## 方向性 -2002/02/07(水) Vol.312-

「よっぽどゆーた君は、おじいちゃんが一緒にプラモデルを作ってくれることが嬉しいんでしょうね」  
そう、カウンセラーのNさんが言った。  
今日のカウンセリングの40分程、ゆーたの話は「戦車」のことばかりだったと言う。  
おじいちゃんが確実に変わってきてくれていると思う。

ゆーた台風が吹き荒れない我が家は、すごぶる平和。  
今は、完成の日が一日でも遅い事を祈るだけか？（笑）

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.'° .:\*.:'° 。.:\*...\*:

最近自分の考え方の変化に気付く。  
ゆーたがどう転ぶかわからないから、なかなか僕自身がやる事が定まらない……。そう考えていた。今は違う。  
ゆーたがどういう方向に行こうか、どんな風になろうか、それに左右されない自分を作り上げよう、そう考えている自分に気がついた。ここ何年か、ウダウダするだけで、先に進めなかった。しかし、ようやくその「ウダウダのトンネル」の出口が見つかったかな、と。  
勿論、具体的な「何」が形になってきたわけではないが、進むべき方向の視点が定まった事は大きい。後は、一步一步、足を出していくだけだ。

今日、東京の友人が広島に行く途中、浜松に立ち寄ってくれました。  
2年ぶりでしょうか？ 色々な話ができました。今度、東京に出かけてきます。

## 伊勢エビ -2002/02/08(金) Vol.313-

「今年は、どこも行けないねえ～」と女房。  
去年、一昨年は冬休みや2月の連休を使って、雪遊びに出かけた。  
その前は、何年か続けてディズニーランドに出かけていた。  
しかし、去年は、家の壁の塗り替えをやったため、大きな出費があり、我が家の家計は「超緊縮財政」に入っていたのだ。

「やっぱ、どっかへ行こうよ！」と女房が言い出した。  
ま、どんな結論になるにせよ、そうした事を言い出すのも女房であれば、決めるのも女房だ。  
「伊勢エビを食べたい！」と言いだし、「伊勢エビ」をキーワードにインターネットを調べ始めたのが、先週前半。やっと民宿を見つけ、一泊旅行と言う事になった。

女房は高校三年生の担任だから、今、クラスの生徒達は、卒業式までは「家庭学習」に入っており、暇と言えば暇なのだ。「卒業学年」を担当した教員が一番、ホッとする季節でもある。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.'° .:\*.:'° 。.:\*...\*:

女房が午前中で年休を取って、午後1時半前に浜松を出発。  
西伊豆の雲見海岸の民宿に着いたのが、夕方の5時半。  
着いて一息つくかつかないかの内に夕食。

.....出てくるわ、出てくるわ！ 食卓の上、所狭しと並べられる夕食。  
「貧乏食」(ゆーた言)ではないのだ。おかずがたくさんあるのだった！  
そしてトドメは、刺身の舟盛り。  
「うおおおお～っ！ 伊勢エビが動いているう～！」

「お客さんがお見えになってからさばくんですよ」とは仲居さんの弁。  
サザエ、アワビ、カツオ、鯛、イカ、甘エビ、タコetcetc.....。

う～ん、お腹一杯！  
さすがのゆーたもおかずを残したりして.....。

ゆっくりおいしいモノを食べる、良いですね。  
お腹も一杯。しあわせ一杯です。

## 河津ざくら -2002/02/09(土) Vol.314-

川沿いの土手を馬車に揺られ、ゆっくりと景色を眺める。  
六分咲きの桜と菜の花のコントラスト。  
風は強かったけれど、一足早い「春」を満喫してきた。

「伊勢エビ」と「河津桜」が今回の一泊二日の小旅行の目玉(女房にとって)だった。  
加茂郡河津町では、早咲きの桜「河津桜」が町の観光の目玉になっている。  
丁度、明日2月10日から、河津町役場周辺で「桜まつり」が開催される。

僕たちが行ったところは、更に南、南伊豆町。  
ここでは、「菜の花と河津桜」をテーマに、青野川流域でイベントを繰り広げている。本家の河津町の祭りに比べれば、小さなモノだが、それでもそこそこに「春」を感じさせてくれる。

海岸線を走らせる車から見える海がとてもきれいだった。

:\*:・!° 。.:\*:・!° ° !・\*:.. .!:\*:・!° 。.:\*:...\*::

「どこに行きたい？」と女房がこうした旅行の時には、必ず聞く。  
ゆーたは別段、これ、といったモノがあるわけではない。  
僕は行きたいところがあっても、「却下」されるとわかっているので、何も言わない。  
下田近辺だったら、行きたいところ、ゆっくり回りたいところはたくさんあるのだが.....。

「どこに行きたい、って言わないくせに、そのくせ文句だけは言う」と時々女房は怒ることがある。しかし、大体は、僕もゆーたもそれなりに満足する事が多いのも事実。  
でも、結局は女房の行きたいところに、僕とゆーたがくっついていく、というパターンが多いんだけどなあ.....。

でも、今回は良かった！  
満足、満足！  
ゆーたは.....???? それなりに喜んでた。(^^ゞ

河津町のHPはこちらです。  
<http://www2.shizuokanet.ne.jp/kawazu/index1.htm>  
今年は例年に比べ、2週間ほど桜の開花が早いそうです。

## 戸惑い -2002/02/10(日) Vol.315-

今朝、女房とゆーたは図書館へ、僕はランニングに出かけようとしていた時だった。電話がなった。  
「ゆーた君、いますか？」

なんと、先週の日曜日に我が家にやってきた、S君からだった。

僕と女房は顔を見合わせた。恐らく、また家に来る、と言う事だろうという思いがよぎった。案の定、今日、フリーマーケットがあるから、一緒に行かないか？ という誘いの電話だった。もし僕達の都合が悪ければ、家までゆーたを迎えに行ってもよい、という風だった。

結局、駅の側のフリーマーケット会場で待ち合わせる事にした。

:.:.:'° 。 .:.\*:.'° ° ' .:.\*:.. .:.\*:.'° 。 .:.\*:..:.\*:

会場には、遊戯王のカードなど見あたらなかった。二人は、イトーヨーカドーでカードを選び、その後、色々なトレーディングカードが置いてある「コレクターの店」に行くことになった。その間、僕は近くのパソコンショップに行っており、女房が一緒についていた。

携帯電話が鳴った。我が家に来て、カードで遊ぶ事になった、と。

ケンタッキーに入り、軽く食事を済ませ、我が家に向かい、ゆーたとS君は早速カードを広げ始めた。僕は、レースが再来週に迫っている事もあり、走りに出かけた。

5時半、彼は帰っていった。

:.:.:'° 。 .:.\*:.'° ° ' .:.\*:.. .:.\*:.'° 。 .:.\*:..:.\*:

彼が帰り、ゆーたが下に行っている間、女房と二人で彼の話になった。

彼は今日、お菓子を持ってきていた。

イトーヨーカドーで、女房にいきなり「これ」と言って、お菓子を手渡したそう。きっと彼は最初から、家に来るつもりだったのだろう。でも、彼は自分で買ってきた.....？ それとも親御さんが.....？  
う～んよくわからない.....。

F市に親御さんと一緒に住んでいて、電機関連の工場で働いているということは、女房が聞いてわかったこと。

それ以外の事は、まるっきり「？」だ。

ただ、先週、今週と彼と接してみて、決してゆーたに「危害」を加えたり、「悪意」を持っているわけではない、ということは何となくわかる。

どうしてゆーたの相手をしてくれるんだろう？

友達はいないのだろうか？

ゆーたと波長があうのかなあ？

二人して「ふ～む」と何度も顔を見合わせた。

ま、いっか！

悪い人ではなさそうだし、ゆーたも色々と教えてもらって喜んでいるし。

それが一番かな.....???

今日、ゆーたは「フリーマーケットに行くから、援助して～」とおばあちゃんから500円、お小遣いをもらった。そして女房からもちゃっかり200円もらった。でもって、キャツは何も買わなかった.....。(^^;

## 畑仕事 -2002/02/11(月) Vol.316-

車を走らせる事40分程。女房の同僚の先生が持っている畑に着く。

その先生は、来年定年退職。その後はゆっくり農業をやっていくつもりだそうだ。勿論、女房と話題があう。

今日はジャガイモを植えに来た。

僕はほとんど畑仕事はやったことはない。

言われるがままに土を起こし、畝をつくり、肥料を巻き、種芋を置く。そして土をかぶせる.....。

時間にして2時間ほどの作業。

ゆーたと女房は、「モグラのミイラ」があるということで、お宅の方へ探しに行ってしまう、僕一人の作業になった。

足腰がしんどい！

しばらくすると女房達が戻ってきた。

汗を流している僕を見て、

「スポーツジムへ行って、エネルギーを消費するよりも、こうした作業をしてエネルギーを他のモノに還元させることの方が、よっぽど良いと思うよ！」

とおっしゃった。確かに、そりゃそうだなあ.....。

「私出来上がったモノを加工するから、力仕事はパパね！」とも。

.....

小高い丘の上にあるその畑は、日当たりもよく、北側に茂っている木のおかげで風も当たらない。

簡単な「野外食(ゆーた言)」を食べながら、

「ああ、ここは本当にのどかで、のんびりしていて良いなあ～、そう思わない？ ゆーた？」

と聞くと、

「じゃあ、今住んでいるところは、のんびりしてない、のどかじゃないって思ってるんだね、パパは！」

そう、突っ込まれてしまい、ちょっと言葉に詰まってしまった！ f(^^;

自分たちの食べるものは、自分たちでつくる。良いですよ、確かに。

でも、それで生活をする、となると全く別の話になるんですよ.....。



## 禁煙 -2002/02/12(火) Vol.317-

日曜日の朝から、タバコをやめた。  
2002年度、第一回目の禁煙という事になる。  
いつぞやの「ためしてガッテン」が非常に良かった。

「慢性酸欠状態から抜け出すには、1週間、タバコをやめればよい！」

これはホントにすばらしい！

最近、走っていてスピードを上げると胸が苦しくなってくる。そして、走るたびに「タバコをやめるぞお！」と思うのだが、帰り道には、タバコを吸いながら「明日からやめよう」と呟いている。

そっか、ずっとやめなくても、1週間前、いや、10日前にやめれば良いという事なんだ。  
24日のレースが終わったら、次は3月10日。  
その次は、3月21日。  
うん、10日前禁煙、というのも良いのかもしれない。  
そのうち、本当にタバコがやめられれば、もっと良いかもしれない。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° '.:\*:.. .:\*.:'° 。.:\*...:\*

タバコを吸わなくなると、途端に口が寂しくなる。  
ついつい何かをつまみたくなる。  
口に入れる。ますますタバコが吸いたくなる……。悪循環！  
ニコチンが切れると、やはりイライラする。  
ゆーたに対しても、ついついイライラしてしまう。  
……これは最悪！ 何とかしなくっちゃ！ (--;)

とりあえずの目標は、2月24日までです。  
それ以降は、成り行き次第ですね。(笑)

## 時間つぶし -2002/02/13(水) Vol.318-

毎週水曜日の午後は、ゆーたとアチコチのお店を回る。

今日も、遊戯王のカードが置いてあるゲーム屋、静岡銀行、郵便局、本屋、パソコンショップ……、と言ったところを回ってきた。

時には、ホームセンターに行って、猫'sのエサを買ってきたり、と。

毎週水曜日は、おばあちゃんが書道教室の先生の所に3時頃出かける。  
ゆーたはおばあちゃんが出かける事に対して、自分もついていく、という。  
それがかなわない時は、出かせせないようにする。

ゆーたは水曜日が書道の日だと言う事を、わかっているのだろうか？  
家に帰ってきた時、おばあちゃんがいる事を、まず最初に確認する。

なぜ、おばあちゃんに対して、あそこまでムキになるのだろうか？

「おばあちゃんの外出」に対して、異常なほどの執着を見せる。  
ともかく、2時半頃から3時半頃までは、アチコチ出かけるようにしている。

.:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. .:\*.:'° 。.:\*...\*:

でも、今日辺りも、だいぶ「ネタ切れ」になってきている感じはする。  
「市場調査」なんて言って出かけてみたって、そんなに中古ソフトの値段が下がっているわけでもないし、  
お金がたっぷりあって、買い物を楽しむこともない。ただ、いろんなお店で「あれ、欲しいなあ」と二人で  
呟いているのだから。

「漫画喫茶って知ってるか？」とゆーたに聞いた事がある。  
時間つぶしに「漫画喫茶」ってのも頭をよぎるが、う～ん、あの世界は僕一人で行きたいモノだ……。

そう言えば最近、漫画喫茶にも行ってない。  
時間がもったいない、そんな事を時々思うようになった。

歯医者 -2002/02/14(木) Vol.319-

もっと治療をしながら、お喋りをして欲しいと思う。  
こちらは口を開けて、ただ、ゴリゴリやられて、顔をしかめる事くらいしかできないのだから。

「ハイ、開けて～」  
……キューーン、チュイーン、ゴゴゴゴゴッ……  
「ハイ、それでは来週！」  
この間、もう少し、こちらの気持ちを和ませるような、ウィットに富んだ会話ができないものだろうか  
……？

小さい頃、麻酔がうまく効かず、突然襲いかかる激痛の記憶が、治療中、絶えずこちらを見ている。

「はい、今、神経を抜いてますからねえ～。後、少しですよ」  
「ちょっと歯を削りますね。」このゴリゴリ言う音は、してるんですよ」  
「ちょっとチクッとされるけれど、直ぐに麻酔が効いてきますからね～」  
そのくらいしゃべってよ！ と思う。

治療が終わるたび、汗がひいていくのがわかる。  
そして、今日もまた、「なんだ！ そんなに怖がる事、ないじゃんか！」と強がってはみるが、それでも  
やっぱり歯医者は怖い！

自分が何をされているのか全くわからない、という恐怖感なんだろうなあ。  
きちんと治療の手順を知って、次に何をするのかという予想が立てば、心の準備ができるのに……。  
見通しがもてないと、ホントに不安なんだよなあ。

自分のこれからみたいだ、と口を思いっきりあけながら、思った……。

麻酔が切れた後が、また、大変。禁煙ガムを噛みたくても、うまく噛めない。  
タバコが吸いたい！ 歯が痛い！ 最悪～！（;\_;）

## けち -2002/02/15(金) Vol.320-

ゆーたは人に何かしてあげる、という気持ちが少ない。  
ほとんどない、と言っても良いかもしれない。  
いや、そういう気持ちはあるのだが、表し方を知らない事と、その前に自分の気持ちの方が優先されてしまうからだろう。  
特に自分のお金を出して家族に何かを買ってあげる、なんて言う事は、ほとんどなかった。

それが最近、少し変わった。  
今日、プーニャとミュウの餌代ということで、500円出したのだ！

留守番代が結構な収入になって、自分の財布が潤っているからかもしれないが、「三桁までだったら、出しても良いよ！」と最近、言うようになったのだ。  
四桁.....つまり、千円以上になったら、銀行に行って貯金するから、それ以下だったら、お金を出す、と言うのだ。

「お前はホントにケチだなあ〜」とよくからかう。  
僕の貯金通帳よりも、ゆーたの通帳の方が、たくさんお金が入っている。  
「金がない者から、お前はお金を取るのか？」とか、「パパは最近、仕事がないから、貧乏なんだ！」とか言い続けているからだろうか.....？

これだろう、というのはわからないが、少なくとも、ゆーたの心が少〜しだけれど広がってきたような感じがする。

「もう、留守番代はいらないよ！」  
そう言ってくれる日が来る事を、夢に見ている。

明日はMOUSのワード上級の試験です。  
多分、大丈夫だとは思うけれど、その次はどうしようか.....？

## 迷惑メール -2002/02/16(土) Vol.321-

総務省が迷惑メール対策に法律改正をして、件名に「！広告！」の表示義務をしなければいけなくなったが、逆にそれさえ記述されていればOK！ という考えなのだろうか、ここ数日、もの凄い数で、迷惑メールが届くようになってきた。  
頭に来て、メールアドレスを変更した。

DoCoMoの迷惑メールの対応にしても、全く不十分。  
実質的にはメールアドレスを変更するか、i-modeのメールそのものを使わないようにするしかない。

メールの中身もさることながら、一方的に送りつけられるというこの不快感。  
しかも相手は、どこの誰だかもわからない。  
少なくとも、受け取る側の気持ちなんぞは、全く意に介さない連中だ、ということだけはわかる。

:.:.'° 。.:\*.'° ° '.:\*:. .:\*.'° 。.:\*:.:.\*:

こうした相手の見えないコミュニケーションが、どんどん増えている。

そしてそれが当たり前のことのような風潮さえも……。

こうした携帯や、モバイルグッズ、パソコンと言った便利さ、物珍しさは、僕も大好きだ。けれど最後の所は、「面つき合わせて」という所に落ち着く。

これからの時代、ますますコミュニケーションが難しい時代になっていくんだろうなあ……。

## 人生の河 -2002/02/17(日) Vol.322-

夜中テレビをつけたら、豊島の産業廃棄物問題のドキュメンタリーを放映していた。見終わったのが2時30分。ニュースなどで、断片的に知っていた事だったが、島の人たちの思いが至るところにあふれ出ていた。

「産廃問題に取り組んで25年。ようやく始まった処理に15年。結局40年の歳月がかかる……。  
自分たちの代では、きれいな島は見られないかもしれない。しかし、孫子の代には……」

住民運動の途中、亡くなったお年寄りが達。

「いつ死んだってええだで。ただ、きれいな島になって欲しい、それだけだで」

：\*：\*！° 。：\*：\*！° ° '！\*：\*..。：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

「人生の河はゆっくりと渡らないと

子孫のことが見えなくなる」（イロコイ族の人の言葉 1990.1.1）

昔、ノートに記した言葉を思い出し、古い日記を引っ張り出した。

日付は1990年の正月。確かテレビ番組の中で流された言葉だったように記憶している。

僕は今、ゆっくり渡っているのだろうか……？

廃棄物対策豊島住民会議 の公式HPは です。  
<http://www.teshima.ne.jp/index-1.htm>

## 嘔吐 -2002/02/22(金) Vol.323-

月曜日の夜、出先からの帰り寒気がした。

家に帰ってから、どうも胃の辺りがムカムカする。

ファンヒーターで身体を温め布団に入ったのだが、なかなか寝付かれない。

胃の痛みはだんだんと激しくなってくる。

何度かトイレにかけこむ。

指を口に突っ込んでみても、何も出てこない……。

布団の中でうつらうつらするうちに朝になってしまった。

：\*：\*！° 。：\*：\*！° ° '！\*：\*..。：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

火曜日、水曜日は完全にダウン。

一日中布団に入り眠りこける。よくも寝られるモノだと感心するくらい。

目が覚めて、女房が作ってくれた粥を食べて、また布団に。

コナンの単行本や、パソコンの本を読んでいると、また眠くなってくる。

吐き気と下痢のダブルパンチに見舞われ、久方ぶりに健康の有り難みを感じたモノだった。  
しかし、病気になると女房もゆーたも、ちょっとだけやさしくなるから、これはこれで良いモンだと思ったりして。(笑)

とっても暖かく、15 kmほど走ってきました。半袖のTシャツで。  
佐鳴湖のあちらこちらに「春」を感じてきました。

## 早寝早起き -2002/02/23(土) Vol.324-

昨日、一昨日と夜の9時には布団に入って寝た。夜が早いから、朝も早くなる。朝の5時過ぎにはゆーたの目覚まし鳴り始め、それでこっちも目を覚ます。いつもなら、目覚ましの音など、全然気にもならないのに。

その目覚ましの音がまた、しつこい！  
「ピヨオンッ！ 時、分です！」と喋る。  
次に鳥の鳴き声が聞こえる。「ピヨピヨピヨピヨピヨピヨ.....」  
鳴き声が止まる。5分後、再び「時 分です！」が始まる。  
そう、5分間隔で30分間、延々と目覚ましは鳴っているのだった。

この朝の「目覚まし」、ゆーたは5時20分にセットしてある。  
月曜日から金曜日、5時半から始まる「ズームインスーパー」を最初から見ないと気がすまないのだ。ここら辺のこだわりは、何とかならないものか、と思ってしまうが、いつもと同じ事の繰り返しでないと、ゆーたは不安になってしまうから、仕方がない。

今朝も、目覚ましの音と同時に起きだした。  
僕も寝てはられない。6時前にはしっかりと目を覚まし、パソコンの電源を入れていた。

:.:.\*.° 。.:.\*.° ° .:.\*:。.:.\*.° 。.:.\*:.\*:.

9時に寝て6時前に起きる。  
こんな生活を女房とゆーたはずうっと続けている。  
「私が健康なのは、しっかり寝ているからよ！」と女房は言う。  
その言葉通り、よほどの事がない限り、ゆーたと布団に入った後、起きてくる事などまずない。

年のせいだろう、授業で生徒達と一緒に動くのがしんどくなっているようだが、これだけしっかり寝ていれば、まだまだ大丈夫だろう、等と思ってしまう。

でも、早寝早起きも良いモンだ、と少し思ったりして.....。(笑)

明日は「天竜杉の里」ロードレース21 km。  
一昨年、初めてマラソンのレースに出たのがこの大会。その時は5 km。あれから2年かぁ.....、と。

## 完走！ -2002/02/24(日) Vol.325-

久しぶり、そう、本当に久しぶりの感覚だった。  
レース自体も去年の9月末に芦の湖スカイラインで行われたハーフ以来だけれど、「ああ、走り終えた！」

とさわやかな気持ちになったのは、久方ぶりの事。

Start ~ 5km 27'06 (27'06) ...5'26/1km  
5km ~ 10km 53'02 (25'56) ...5'12/1km  
10km ~ 15km 1:19'28 (26'26) ...5'18/1km  
15km ~ 20km 1:45'53 (26'25) ...5'17/1km  
20km ~ 21.7 1:53'56 ( 8'03) ...4'45/1km

最初の5 kmは、もうおっかなびっくり！ 6分/1kmくらいのゆっくりペースでいこうと思っていたのに、意外と早くなってしまって焦ってしまった。

「このままじゃ、後半絶対に脚がおかしくなるぞ！」

と思いつつも、それでもペースがあがっていく。

途中、脚がつりそうになると、秘蔵の「梅干し」を口に含むと、不思議と疲れが取れていく。

ま、いいや！ とそのままのペースで更に走り続ける。

:.:.:'° 。:.:.:'° ° ' .:\*.:.。:.:.:'° 。:.:.:'.:.:\*

5 km過ぎたあたりから、視覚障害のランナーと伴走者が目に入った。

丁度同じくらいのペース。ずっと後をついていった。

僕ももっと走れるようになって、「伴走」ができるようになりたい、と改めて思った。

13kmから1.5kmほど上り坂が続く。去年は、「うわぁ～、たまらん！」と思った。でも、今年はどうってことなかった。この一年間で、それ以上のアップダウンを経験したからだった。

あれほど怖かった下り坂も、この間の筋力トレーニングの成果か、いつも以上にペースをあげていけた。おかげで大きな血マメが二つ、足の裏にできた。

17km過ぎの上り坂、どこかで見覚えのあるランナーが歩いている。

なんと、ゆーたと保育園が一緒だったRちゃんのお父さんではないか！

「さん？」

「あれ～、久しぶり～！」

二人で一緒に走り出した。お喋りをしながら.....

それでもペースが下がらなかったのは、随分と心肺機能が高くなったのだと思った。これも禁煙の成果だと確信した！

:.:.:'° 。:.:.:'° ° ' .:\*.:.。:.:.:'° 。:.:.:'.:.:\*

ラスト1 km、ペースをあげてみる。後からラップを見たら、なんと5分/km切っているではないか！自分でも感心！

足に変な痛みも出ず、胸が苦しくてたまらない、というわけでもない。

余力を残してゴール！ こんなに気持ちのいい事はない。

ただ、走り切れた、というよりも、今年になってから、自分なりに計画を立てそれなりに頑張ってきた結果が嬉しかった。

やっぱり走るって、楽しい！

いよいよ3月10日は京都シティハーフマラソンです。

閨門が厳しく、突破できるかわかりませんが、楽しんでこれそうです。

## イチゴ大会 -2002/02/25(月) Vol.326-

一つのお皿に無造作に入れられたイチゴ。

みんなフォークを一本ずつ持って女房の合図を待つ。

「まだだよ、まだ！」

女房の声がフライングしそうなゆーたを制止する。

「.....はい、じゃあ良い、良い？ 始めるよ！ よーい、スタート！」

フォークにイチゴは一つしか刺してはいけない。

人がイチゴをとるのを邪魔してはいけない。

ルールはそれだけだ。

お皿のイチゴは、あっという間になくなる。

これを我が家では、夕食後の「イチゴ大会」と称している。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. .:\*.:'° 。.:\*...\*:

我が家から車で一時間ほど走らせると、大東町という所につく。

そこでは、イチゴ狩りや、トマト狩り、他にもメロン栽培、キウイ農家、ブルーベリーの郷etcetc、が点在している。

以前はイチゴ狩りにも出かけたが、2000円の入場料×3人分払うならば、その分イチゴを買ってきて、家で食べた方が、どれほどたくさん食べられるか！

ということで、以来イチゴ狩りには出かけていない。

先週の土曜日、ブルーベリーとトマト、イチゴをしこたま買ってきた。

そして以来、我が家では「イチゴ大会」が開催されているのだった

ゆーたは直ぐに人の邪魔をしようとする。

ヤツは知らないのだ！

人の邪魔をしていると、結局は自分が食べられる数が少なくなるという事を。

また、ゆーたは笑い出すと止まらなくなる。

僕も女房もゆーたも笑い転げながら、イチゴに向かう。

いずれにせよ、一番イチゴの数が少ないのはゆーたであることは間違いない。

今日、京都シティハーフマラソンのナンバーカードが届いた。

いよいよだなあ。前日から京都泊。月真院という宿坊に泊まる。

1泊素泊まり3000円。どんなところだろ？

## 必要なモノ -2002/02/26(火) Vol.327-

おじいちゃん、おばあちゃんに持っていく、「ほんまもん」のビデオ。

最近、すっかり女房も録画を楽しみにするようになっている。

特にここ1、2週間は、廃校を使っの料理店だとか、自然食だとかが出てくるモノだから、余計に興味

がわくのだろう(笑) 食事が終わった後の、くつろぎタイムにかかせないモノとなってきた。

僕は朝の内に一度見てはいるが、「復習」兼ねてもう一度見直したり、「ほんまもん」を見ている女房を見ていたり.....、と。

:\*:~!° 。.:\*:~!° ° !~\*:~.。.:\*:~!° 。.:\*:~!~\*:

「こうやって自然の中にいると、本当に必要なモノは、意外と少ないモンなんです」今日の番組の中で出てきた言葉。

今、僕が欲しいモノは.....。

お金が欲しい!

田舎に家と土地が欲しい。

どんな悪路でもバンバン走っていく事のできる4WD車が欲しい。

シーカヤックが欲しい。

パソコンやデジカメ、デジタルビデオが欲しい。

マラソン用のウェアからシューズから、ダイバックが欲しい。

世界のあちこちのレースに出てみたい。

本が欲しい。

ゲームソフトが欲しい。ゲームキューブが欲しい、X boxも欲しい。

それから、それから.....??????

こうやって考えていく内に、欲しいモノが、本当に欲しいのか、あればあった方が良い程度なのか段々とわからなくなってくる。

逆に、絶対になくしたくない物は何なのか.....?

う~ん、家族、友人、仲間、知人を初めとした人の繋がり、かな?

明日、東京に出かけてきます。

何しに行ったかは、また、後日のお話です.....。

図に乗る -2002/02/27(水) Vol.328-

朝、下からゆーたの大きな声が聞こえてきた。

「何か、言ってるみたい.....」と女房が言う。

そのうち、おばあちゃんが

「ちょっとママ、来て!」

と女房を呼んだ。そう、最近、僕ではなく女房を呼ぶ事が多くなってきた。僕を呼ぶとゆーたが一層怒り出すからだろうか?

女房が下に行った。僕はテレビを消し、下の音に聞き耳を立てた。

ゆーたもおばあちゃんも、そしておじいちゃんもかなり興奮している様子だ。

そのうち、女房が上がってきて、ちょっと来て、と言う。

下に行くと、ゆーたが怒っている。

もう、こうなるとわけがわからない。きっかけはほんの些細な事なんだろうが、たまっていたものが一気に噴き出すような感じだ。



:.:.:'° 。 .:\*.:'° ° ' .:\*.:. .:\*.:'° 。 .:\*.:.:\*.:

「手を洗っておいで、と言ったら怒りだした」

「いただきますを言いな、と言ったら怒り出した」等々……。

ゆーたはゆーたで、「おばあちゃんは、口だけだ!」「何でもかんでも悪いのはこっちなんだ!」と。  
とにかくおばあちゃんは、ゆーたに負けまいとする。

「そんな言い方しなくたっていいじゃない! おばあちゃんの言い方もきついんだから」

そう僕が言った時だった。

「アンタがそんな風にするから、この子は図に乗るんだ!」

とおばあちゃんは言った。

:.:.:'° 。 .:\*.:'° ° ' .:\*.:. .:\*.:'° 。 .:\*.:.:\*.:

以前、ゆーたの前でおばあちゃんを激しく怒った事があったが、それはそれでゆーたにとってはショック  
みたいだったので、僕はそれ以上言葉を出す事はしなかった。

いや、それ以上、何も言いたくない、という気持ちの方が強かったかもしれない。

おばあちゃんは、ゆーたのことをやっぱり理解できないんだなあ、と。

ゆーたが障害を持っているということがわからないんだ。

「図に乗る」という言葉に、はっきりと表れていると思った。

ゆーたが可愛そうだと思った。

以前は、おばあちゃんと別れて暮らすデメリットを考える事が多かったが、最近、おばあちゃんと暮らす  
事によって、かえって悪影響を及ぼしているのではないかと思うようになってきた。

「いくら言っても変わらないよ」「全然気持ちをわかってくれようとしな」とゆーたがあきらめてしまうこ  
とが怖いと思う。

インターネットを使った学校アットマーケティングを作った、日野さんという方とお会いしてき  
ました。とっても面白い話がありました。一時、東京行きは断念か、と思うほどでしたが……。

## ホームレス -2002/02/28(木) Vol.329-

恵比寿に向かう山手線に乗り込んで、強烈な異臭が鼻についた。

ホームレス(?)の男性。

彼の周りだけが、ぽっかりと空間が空いている。

僕はチラッと横目で彼を見、そして少しでも臭いの届かないところに移動していった。

行き場を奪われるホームレスの人たちのニュース。

中学生による殺人事件……。

様々な理由でホームレスになった人たちに対する、行政や社会の仕打ちについては、憤りを感じる。

しかし、同じ車両の中で、気持ち悪くなるほどの異臭を放つ男性を目の前にした時、わけがわからなくな  
った。

所詮はブラウン管の向こうの話だったのだろうか、と。

：\*：\*！° 。：\*：\*！° ° '！\*：\*..。：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

うまく気持ちが整理できない.....。  
この気持ちを表現できる言葉が見つからない。

ただ、その男の人と、ゆーたの姿が、どこかしら重なって見えてしまったのだった。

いよいよ今日で、2月もお終い。3月です。  
明日は、女房の学校の卒業式。今の学校に勤めて、2回目の卒業生達。お疲れ様！

## 2002年3月

あやまる -2002/03/01(金) Vol.330-

先だっの「図に乗る」というおふくろの言葉に、腹を立てて以来、僕はまともに口をきいていない。  
「もう、ゆーたの世話をやかないでいいから！」  
「そんなに言うなら、もう、しないよ！」  
「ホントにしないでよ！ いいね！」  
とその時に、念を押したのだが(つもりだが) おふくろは女房の旅行中の食事の事とかを気にしているようだ。

いい加減、放っておいてくれ！

：\*：\*！° 。：\*：\*！° ° '！\*：\*..。：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

結局、おふくろにとっては、一時的な感情の爆発でしかなく、ゆーたの心をどれだけ傷つけているのか、ということに全く目がいていない、ということなのだ。

以前、ゆーたを交えて色々話した時にも感じたが、  
「ゆーた、ごめんね。でも、ゆーたも直さないといけないところは.....」  
なんて言っていた。

車を自分からぶつけて、申し訳ないと言いながらも、雨のせいや、道路のせい、果ては相手の運転技術まで云々するような.....そんな感じだ。

どうしてゆーたが「おばあちゃんはわかってくれない」と何度も言われるのか、それがわからない限りは、同じ事の繰り返しで、そのたびにゆーたは傷ついていくのだろう。  
おばあちゃんの「あやまる」は、ゆーたとの関係を取り繕うためでしかないのだ。

おばあちゃんがあることに、気がつくまで、下とは関わりを持たない！ そう決めた。  
僕たちも今まで、おばあちゃんに都合のいい時だけ頼ってきたけれど、それともきちっと別れを告げなければいけない！

明日、明後日と女房は学年の職員旅行。また、16、17日は体育科の旅行。  
どちらも行き先、料理共々、女房の意向が強く働いているようで.....。

回転寿司 -2002/03/02(土) Vol.331-

今日、明日と女房は3年部の職員で、「ご苦労さん」の一泊旅行に出かけていった。

僕とゆーたは

「自分だけ、豪勢な旅行に行くのはずるい！」とブーイング！

夕食を「豪勢」にすることで許してあげた（笑）

他にもゆーたは「留守番代」と称して500円の小遣いをもらった（笑）

:.:.:'° 。 .:.:.:'° ° ' .:.:'. .:.:.:'° 。 .:.:'.:.:':

鰻にするか、回転寿司にするかで迷った。

ゆーたは回転寿司に出かけ、一番高いお皿を頼みたいのだ。

「一皿だけだぞ！」

そう言って回転寿司に出かけた。

ボタンえび、トロ、生カニ、うに.....一皿500円。

これらが、一番高い寿司だった！

「いいよ、何でも頼みなよ。自分で言いなよ！」

「すみません...」

ちょっと声が届かない。

「すみません～」と僕。こっちに気がついてくれた。

「トロお願いします」ちょっと小さな声だったが、何とか伝わったようだ。

回っているお皿とはひと味違う、金ぴかのお皿に乗った、「トロ」がゆーたの前に出てきた。

僕の前には、130円とか、180円のお皿が積み重ねられていった。

「ウニとか、ボタンえびとか頼む？」

「ボタンえびって何？」

「ホラホラ、今、回っているヤツだよ！」

ゆーたはボタンえびを手にした。( ^\_^ ;

:.:.:'° 。 .:.:.:'° ° ' .:.:'. .:.:.:'° 。 .:.:'.:.:':

4800円也。

二人で、お腹いっぱいになったねえ、と言いながら、回転寿司を後にした。

「パパ、1800円も持ち出しちゃったねえ～」とゆーた。

そう、女房に夕食代金として3000円もらった。

ロッセリアで安上がりに食事をして、小遣いにする、という手もないわけではなかったが、やっぱ、あまりにもせこいかな？ と.....。(^^ゞ

今日は、9時には布団に入ります。たくさん寝られそう！

明日の昼は、ロッセリアの予定。

意固地 -2002/03/03(日) Vol.332-

朝、ゆーたと「ぼつぼつ食事にしようか？」などと話をしている時、おばあちゃんが二階に上がってき

た。手にみそ汁の鍋を持って。

「いらんって言ったでしょ？」そう言う僕に対して「意固地にならんでも良いじゃない」と言って、何度「いらん」と言ってもそのまま、机の上に置いていった。

ゆーたは、そんな僕とおばあちゃんとのやりとりを横目で見ていた。  
内容よりも、そのみそ汁が飲みたかった、というのがあって、どうなってしまうのかが気がかりだったようだ。

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

結局、僕は手をつけず、ゆーたがみそ汁を全部飲んだ。  
そして昼間、おばあちゃん達が出かけている間に、鍋は洗って返しておいた。

先だっの「図に乗る」と言い、今回の「意固地」と言い、全くわかっていないんだなあ……。  
自分の感覚が、全くの押しつけであって、人の気持ちを一向に理解していない、と言う事に気がついていないから、やっかいだ。

半分、お手上げ状態。  
僕は、ますます「意固地」になってしまう。(--;)

今日の日曜日は、京都です。今日、午後走ってきました。  
煙草を吸っていないせいか、随分と呼吸が楽です。すごい！

## クッキングスクール -2002/03/04(月) Vol.333-

石釜でパンやピザを作りたい、と考え出した女房殿。  
最近、ちょくちょくクッキングスクールに出かけて、パンづくりを習っている。  
先だっはチョコチップパン、今日はアーモンドパンを持って帰ってきた。

味の方はなかなかのモン。  
別に女房の腕がどうのというよりも誰でもがレシピに則って作れば、できるのだろう。ただ、それをやるかやらないか、そうした料理が好きか嫌いか、という事なんだろうと思う。

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

「ねえ、クッキングスクールって一体いくらかかるの？」  
「まあ、一回、パパのレース代金くらいよ」  
「一回ずつなの？」  
「ウウン、コースがあって、一括で払うの」  
「いくら？」  
「言わない！」  
.....教えてくれないから、インターネットで調べてやった。

「BreadCourse の 基礎Aクラス 全7回 27,000円」

一回のレースは大体3,000円前後だぞ！ (--;)

Aクラスが終わったら、その時にB、Cクラスも考えるとのこと。

Bクラスは30,000円、Cクラスは55,000円かかる。

でも、お金がいくらかかろうが、その時になったら女房は自分で判断するだろう。毎度の事ながら、レース一つ参加するのに、まずお金の心配をして、女房に許可を得なければいけない僕とは、大違いだ。

よし！ この値段を元に、週末の京都マラソンの交渉に入ろう！ (^)v

僕は下には一向に顔を出してません。勿論、まともな会話もなしです。

## 京都 -2002/03/05(火) Vol.334-

本屋で「るるぶ」の「京都を歩こう」を買ってきた。

パラパラとページをめくりながら、「あ、ここ行ったんだ！」なんて……。

土曜日の午前中には京都についてレースの受付。夜はfrunの人たちで湯豆腐のオフ会。でも、それ以外は時間が空いている。

どこを歩こうか？ 天気も良さそうだし……。

宿泊場所は「月真院」という宿坊。

2, 3冊京都の本を探したが、このお寺の名前は出てこない。

豊臣秀吉を弔うために、秀吉の奥さん、北政所ねねさんが建てた高台寺の一角にあるのだった。地図で探すのに、ホント一苦労！

でも、ここはなんてたって「安い」のだった。一泊素泊まりで¥3,000は、何とも魅力的。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° '.:\*:. .:\*.:'° 。.:\*:.:\*.:

近くには、坂本龍馬の墓がある。清水寺へも近い。

清水へ 祇園をよぎる おぼろ月夜 今宵逢ふ人 みな美しき

与謝野晶子の歌を思い出すのなんて、何年ぶりだろう。

「きれいだね」と言って、「そうね」とうなずいてくれる人がいないのが寂しい限りだが(笑)。

京都のどこに心惹かれるんだろうか？

よくわからない。そんなに何度も足を運んだわけではないが、僕は京都が好きだ……。

修学旅行前みたいです。

もう少し時期がずれていれば、桜がきれいだったんでしょうけれど。

## 転勤話 -2002/03/06(水) Vol.335-

「転勤の可能性はほぼ0%だと思ってください」

そう校長に言われたそう。

高校と養護学校との交流は、人数も限られており、しかも教科の関係もある。年齢的な事も……。ま、よくわからないが、転勤話は「なし」になりそう。

「もう、今年が最後だと思って、せいせいとした気分でしたのに、もう一年やらないといけないのかぁ……」

とため息混じりに女房は言う。

でも、ゆーたは何かしらホッとしているみたいだ。

ゆーたにとってにしてみたら、転勤 引越 という事がイヤなのだろう。

：\*：・'° 。：\*：・'° ° '・\*：..。：\*：・'° 。：\*：...\*：

先週のおばあちゃんとの諍い以来、僕はほとんど話をしていないし、下に顔を出す事もない。それこそ、おじいちゃんに「車を動かしてくれ」くらい。

ゆーたはゆーたで必要な物を取りに行く以外は、下に行く事もなく、二階でゴロゴロしている。

下に行きたい、おばあちゃんの側にいたい、という気持ちはありつつも、「また、同じ事の繰り返しだよ」という事もわかるのだろう。

でも、おばあちゃんべったりの生活から、少しずつ脱しつつあるようにも感じる。これは決して悪い事ではないなあ、と。

最近、ミュウがあちこちでオシッコ（スプレー？）をします。

特に洗濯物の上で。汗を拭くとき、何かしらオシッコ臭いことも...（笑）

## ブーイング -2002/03/07(木) Vol.336-

ゆーたが下にほとんど行かなくなってから、1週間以上になる。

本当は気になって仕方がなく、時々、チョロ、チョロっと下に顔を出し、何かをとって来たり、と.....。

でも、何でもかんでもおばあちゃんにやってもらっていた時に比べ、僕になんじゃかんじゃと言われながらも、自分でやろうとしているのは、やっぱり良い事だ！

今まで女房がおばあちゃんと一緒に入っていたお風呂も、

「シャワーで汗流すだけでいいから、チャーツと行って来ちゃいな！」

と言うと、「そだね！」と一人で入るようになった。

食べ終わるとそのままにしていた食器の片づけも、ブーブー言えば、それなりに片づけるようになってきた。

：\*：・'° 。：\*：・'° ° '・\*：..。：\*：・'° 。：\*：...\*：

しかし、そうは言っても、なかなかずっと動けるわけではない。

ゆーたにギャーギャー言っている僕。

なかなか動こうとしないゆーた。

そんな二人を見て、女房が横から口を出す。

「ブーイングの嵐いっ！」と。

一対一だと、どうしても険悪になってしまいがちな言い合いも、女房の一言で笑いが生まれる。

いつしかゆーたも僕と女房がちょっとした言い合いをしていると「おっ！ ブーイングの嵐だ！」などと言ったりするようになった。

今日も、我が家では、アチコチで「ブーイング」が吹き荒れている。（笑）

ギャッ！締切が迫っていた！ 一つは確定申告。もう一つは原稿……。  
京都行きに心を奪われていて、すっかり頭から飛んでいた！（^\_^）

## プーとミュウ -2002/03/08(金) Vol.337-

我が家にミュウがやってきて、まもなく5ヶ月になる。

ミュウも8ヶ月。我が家にやってきた当初は、まだまだ小さく、いつもプーニャに押さえつけられて、「ミャン！」と鳴いていた。それがどうだろう、今ではすっかりプーニャよりも大きくなり、立場は逆転してしまった。

「猫は飼い主に似るみたいだね」

女房が言った。

「落ち着いた家庭で育った猫は、静かでおとなしくなるみたいだけれど、ウチじゃあだめだよ」と。

どこで仕入れた話かしらないが、思わずうなずいてしまう。

昼日中から、ゲームに興ずる父と息子。

絶える事のない大きな声や馬鹿笑い。

きれいに片づいている状態とは、程遠い部屋の中。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. .\*:.'° 。.:\*...\*:

しかし、最近、ミュウのオシッコ(スプレー?)攻撃に、我が家は見舞われている。とにかく床の上に置いてある、洗濯物にやたらオシッコをかけるのだ。

朝と言わず、夜と言わず、机やイスの上のモノではなく、「床の上」なのだ。

自分の臭いをアチコチにつけたいのだろうか？ 今日僕がいつもマラソンのレースの時に使っている、デイバックにオシッコをした。いや正確には、デイバックに入っているTシャツの上にしたのだ。

ついうっかりして、バックのチャックを開けていたのがいけなかった。しっかり中に入り込んでいた。  
(;\_;) )

行動パターンがまだ、読めなくて何とも言えないが、少なくともミュウのおかげで我が家の床の上が、以前よりはずっと早く片づけられるようになってきた。

「早くしないと、また、やられるよ~！」と。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. .\*:.'° 。.:\*...\*:

雄猫のスプレー行為は、去勢する事によって随分となくなると言われるけれど、我が家はプーとミュウの結婚があるので、今しばらくは、我慢しなくてはならない。

う~ん、ゆーたの性的な目覚めと併せて、果たして、プーとミュウは性教育の材料になるのだろうか？

早く寝ないといけないんですが、なかなか寝られなくて……(笑)

でも、京都まで浜松から1時間ちょっとで行ってしまうんですね。すごい！

## 媚び -2002/03/09(土) Vol.338-

京都に来るのは2年ぶりかな？

指定席をとるまでもないかな？ と思ったら甘かった！ 9時17分のひかりの自由席は満席。立っている人が一杯。名古屋でやつのこと座る事ができた。

京都には、10時半には着いていた。

ゆっくりと歩きたくなる天気だった。

とりあえず宿坊に荷物を置いて、レースの受付会場である、平安神宮方面へ向かう。途中、円山公園を抜ける。

ん？ 人力車だ！

ふと、毎週土曜日に放映している「人生の楽園」という番組で、萩に移り住み、人力車夫になった人の事を思い出した。

あらら？ どうも台数が多いぞ！ しかもみんな学生さんみたいに若いのばかり……。特に声をかけるのは、女性の二人連れ旅行者。僕みたいな男の一人で歩いているのに、声をかけてくるのは、まずいない。

：\*：\*° 。：\*：\*° ° '：\*：\*。：\*：\*° 。：\*：\*：\*：\*：

宿坊の隣には、「ねね」の高台寺があるのだが、その通りが石畳が敷かれて、とてもきれいに整備されていた。でも、きれいに整いすぎている感じがした。

町並みもそうだ。

う～ん、何か違うよなあ……。

人力車と言い、きれいすぎる町並みと言い、京都が観光客に「媚びている」ように感じてしまった。媚びないで欲しいなあ……なんてのは、一方的な思いこみだろうか？

媚びない、奢らない！ これって大事なんだよな。（..）

京都では色々な事を考えました。夏休みの日記みたいな感じもしないではないですが、毎日きちんとメモだけはつけてましたので……。（笑）

京都シティ -2002/03/10(日) Vol.339-

平安神宮がスタートとゴール。

大鳥居の下をランナーが次々と走り抜けていく。

僕はほぼ、最後尾からのスタートで、スタートの合図があってから2分30秒ほど過ぎていた。

スタート直後の道は狭く渋滞が続く。抜くに抜けない。

直後に目の不自由な人と伴走者が転倒した。

川端通から鴨川を渡って御池通り。京都市役所の前の広い通りを走る。

烏丸通りに入り、京都御苑乾御門前が最初の関門。

ここまで5 kmを34分で走り抜けなければならない。

左手に同志社大学を見て、第一給水所。去年は雪がちらついたと言うが、今年は暖かい。喉が渴く。

：\*：\*° 。：\*：\*° ° '：\*：\*。：\*：\*° 。：\*：\*：\*：\*：



賀茂街道に入る。ここは道が狭く走りにくい。

目の不自由な人と伴走者、更にもその前を走る人が「すみません～、道空けてください～」と走っていく。ここに第二関門がある。

7.6kmを47分で通過しなければならない。

加茂街道から北山通に出る。この辺りから緩やかな上りになっている。

頑張っているつもりだが、なかなかペースがあがらない。

そして、ここに第三関門。一番の鬼門と言われる関門がある。

9.9km地点を56分で通過しなければならない。

普通に考えれば、5分40秒/kmのペースでそれほどきついものではない。

しかし、スタートのロスタイムは関係ないのだ。

2分30秒のスタートロスを考えて、53分30秒で通過しないといけないのだ。

ペースとしては5分25秒/km。しかも人がたくさんいて走りにくい状況の中を。

せっかく京都まで来たのに、関門で引っかかるのはイヤだ！

.....関門無事通過！

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.'° .:\*.:'° 。.:\*:.'\*:

国立京都国際会館で折り返し。そしてここに第四関門(13.8km、79分)がある。でも、第三関門がクリアできたら、後の関門はそれほどきつくはない。

そして後半は下り坂になる。

よしペースをあげようかな？

そう思った矢先、前を歩いているランナーと交錯して、転んでしまった！

どんな風に転んだのか、はっきり覚えていないが、最後は前回り受け身のような感じでゴロン、と。左肩、右膝、右肘、が痛い。右肘の辺りもすりむいて出血。痛いよぉ～！

白川通を下って行くに連れ、左の膝小僧に鈍痛が.....。

もう、早くレースが終わって欲しい、そればかり考えて走った。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.'° .:\*.:'° 。.:\*:.'\*:

ようやく丸太町通に入り、ゴールの平安神宮が見えた。

ゴールの鳥居が見えた時、一瞬だけだが、あ、もう終わりなのか～、と思ったがホントに一瞬だった。ゴールした途端、肩や肘や膝がズキズキしてきた。

1時間49分51秒 で京都シティハーフマラソンは終わった。

初めて泊まりがけでマラソンのレースに参加しました。  
土曜日曜日、たくさんの frun の仲間と会う事ができました。

伴走 -2002/03/11(月) Vol.340-

ニフティのランニングフォーラム「frun」に、参加するようになって1年とちょっと。この間、全国各地のたくさんの人とネット上でコミュニケーションをとるようになった。文字だけのコミュニケーションだ

から、顔も声もわからない。書き込みから色々と想像するだけだった。

想像するだけの人達と京都でたくさん会う事ができた。

特に視覚障害を持っているHさんと打ち上げの時に、ゆっくり話ができ嬉しかった。

：\*：\*：\*。：\*：\*：\*。：\*：\*：\*。：\*：\*：\*。：\*：\*：\*：\*：

ゆーたはこの先、ずっとずっと多くの人たちの助けを借りていかなければならない。ゆーたが多くの人たちの手助けができるようには、なかなかならないと思う。だったら、その分、僕が手助けできる事はやっていこう。

ゆーたよりも先にポッキリ逝ってはいけない！ もっと健康管理をしっかりしないといけない！ そのためには痩せなくてはならない！

そんな思いで始めたランニング。

いつしかその魅力にすっかりはまってしまったわけだが、走る事の楽しみを覚え始めた頃から、僕が人のためにできることとして、「伴走」というものが頭にすみついている。

もっとも、自分が走るので手一杯で、とても人様の「伴走」などできる状態でないのはよくわかっている。

それでもいつかは、目が不自由な人の「伴走」ができるようになりたいと思っている。

：\*：\*：\*。：\*：\*：\*。：\*：\*：\*。：\*：\*：\*。：\*：\*：\*：\*：

「レースの時はいいですよ。それよりもね、練習の時に、一緒に走ってくれる人がいないんですよ」とHさんは言った。

「京都シティハーフマラソンは単独でも抜くのが困難でしょ？ それを伴走者と二人分のスペースをとるんですからね」とも。

frunの人たちは、Hさんだけでなく、他にも視覚障害の人たちと一緒に練習したりレースに参加している。僕としても、日頃のフォーラムの書き込みだけを見ていたら、Hさんが視覚障害を持っているなんて、とても思えない。

お会いしてみて、初めて、「ああ、この方は目が不自由なんだ」と実感した。

しかし、frunの仲間の中では、みんなが自然とフォローしている。

フォローすべき場所を知っていると云ったらいいだろうか？

誰かの手助けが必要な時には、Hさんもきちんと言う。また、そう言われる前に周りのメンバーは、予測できるのだろうか、極めて自然に声や手が出ていくのだった。

ぎこちなさなど、どこにも感じなかった。

僕にはとてもそこまでできない、と痛感した。

新しい人たちと出会う事ができて、とってもしあわせでした。

みんなとってもやさしいんです。

文集 -2002/03/12(火) Vol.341-

今日は女房がパンの講習を入れたから、早く帰ってきて欲しい、と言う事で昼過ぎの新大阪のひかりに乗った。

2時半には、自宅に向かうバスに乗っていた。

その時、女房から携帯に電話が入った。

バスの中の乗客は僕だけ。小さい声で話をした。

「風邪をひいてパン教室はやめにしたから、ゆっくりしてきて良いよ！」  
とのこと。もっと早く連絡寄せよな……。 ったく！ (--;)

.:\*. '° 。 .:\*. '° ° ' .:\*. :. .:\*. '° 。 .:\*. :. :.

でも、二日間家を空けていたら、何かしら悪い事をしているような気になった。何かトラブルなかったかなあ？ とか……。僕はとっても小心者なのだ。

ゆーたの机の上に、中学校の同じクラスの生徒からの手紙が置いてあった。  
「一年生の終わりに文集をつくるから、ゆーた君にも一言書いてください」  
ということで、日曜日に家まで持ってきてくれたそうだ。

きっとクラスメイトもゆーたをどう扱って良いか、悩んだんだろうな。  
全く顔を出さないゆーたと何の接触も持ってこなかったクラス。  
でも、一応は名前だけは「クラスの一員」となっているんだから。

「一応、声はかけようか？」という所が「落としどころ」だったのでは？ と想像する。  
ゆーたも何を書いて良いかわからないみたいだ。  
そりゃそうだろうなあ……。  
僕にしたって、「何か書いたら？」なんて勧められないしねえ……。 (^\_^;)

ゆーたにとっては同世代との関わりは必要だけれど、中学校の1年3組にとって、ゆーたの存在する意味は、何かあったのだろうか？ と思ってしまう。

京都への二泊三日が遠い昔のよう……。  
現実の世界に一気に引き戻されてしまいました。

発情 -2002/03/13(水) Vol.342-

プーニャとミュウの子どもを！ と女房と話をした時から、仔猫の出産に関わって当然、ゆーたとも「性」の話題は避けられない事だった。

プーニャに発情期がやってきた。  
一方のミュウ。オス猫には発情期というものはないけれど、発情しているメス猫の声を聞くことによって、オス猫は発情するそうさ。  
ということで、プーニャの発情は今回が初めてではないが、今回はミュウが違った。そう、ミュウも大人になりつつあるのだった。

ゆーたと二人でゲームをしていたら、プーニャが、いつもと違う切ない声で鳴き始めた。するとミュウがプーニャの背後から乗っかっていく。  
時々プーニャは「フーツ、フーツ」と相手を威嚇する時に出すような声を上げたりする。明らかに興奮状態なのがわかる。

その様子をゆーたと二人で見ている、あまりにも日頃と違う二匹の姿、声に僕たちは戸惑い、ドキドキしてしまっただ。

.:\*. '° 。 .:\*. '° ° ' .:\*. :. .:\*. '° 。 .:\*. :. :.

ゆーたは例によって、ちょっかいを出しに二匹の側に近寄って行く。  
今思えば、ゆーたの好きにさせれば良かったのだろうが、僕も冷静さを欠いていたのだと思う。

「そんなに側に寄っちゃダメだよ！ そっとしておいてあげなよ」  
なんかトンチンカンな事を言っていたみたいだ。

とにかく、あまりにもリアル過ぎて、ゆーたへの「性教育」など、どこかに飛んでいってしまい、ただただドギマギするだけだった。

でも、ミュウはまだ完全な大人じゃないから、子どもはまだ先かもしれませんが、しばらくプーニャから目が離せません。

## 事故 -2002/03/14(木) Vol.343-

10時過ぎ、携帯の電話が鳴った。女房からだった。

どこか声の雰囲気がおかしかった。

「今朝、行きがけに人身事故をおこしちゃって……」

「えっ!？」と僕。

「相手は大丈夫で、先方とも話がついたんだけど……。警察には連絡してないんだけど……」

「人身事故だったら、すぐに警察に連絡しなくちゃダメに決まってるだろ？」

要領を得ない説明に、ついついこっちの口調もきつくなる。

更に、ムニャムニャと説明する女房。

ん？ 何か変だぞ？ 次第に全容がわかってきた。

どうやら、女房が左折するときに、左前をよく見なかったため、通学途中の高校生が乗っていた自転車に当ててしまったというのだ。

相手は転びもせず、自転車の前輪が壊れただけだった、と。

先方の親とも連絡がつき、自転車の前輪の修理代を払う、ということで話はついたというのだった。

おいおい、人身事故、何て言うなよなあ……。(--;)

：\*：\*！° 。：\*：\*！° °！\*：\*..：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

常日頃から女房の運転は怖い、下手だ、と僕は言っていた。

交差点などの確認がどうもしっかりしていないようで、ドキっとすることが多いのだった。

だから、「人身事故」と聞いたときは、顔から血の気が引いていったのだった。

話の概要がわかったので、一安心すると同時に、一応、懇意にしている自動車屋の営業をしている人に電話を入れ、女房と連絡を取るように頼んだ。

：\*：\*！° 。：\*：\*！° °！\*：\*..：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

夕方帰ってきた女房に、ひとしきり文句を言ってやった。

「運転が下手なんだから、気をつけないとダメだって言ってるだろ？」

ここぞとばかりに……(^)

良かった～、本当に良かった！

車で出かけることが多くなればなるほど、万が一……と思うことも増えてくる。  
どこも同じだろう。誰一人、欠けてはいけないのだ！

実際は僕の方が、ダンプと正面衝突したりして、大きな事故を起こしているのです。(汗)

## 家庭訪問 -2002/03/15(金) Vol.344-

今年から中学校では、各学期毎に三者面談をやることになったそうだ。

そして、我が家の場合は、その時に担任の家庭訪問となる。

今年一年間、中学校との関わりは、と言えば……

- ・入学式出席（僕だけ）
- ・年度初めに担任の先生と学年主任の家庭訪問
- ・ " に学校に行って、担任の先生と懇談
- ・一学期末、学年主任の家庭訪問
- ・一学期末、担任の家庭訪問
- ・二学期末、 "
- ・中学校の資源回収出席（僕家）
- ・三学期末、 "

だった。

それ以外に、1、2度学校からの配布物を担任の先生が持ってきてくれたかな？

担任の先生も、学年主任もとても良い人だ……と思う。

.....

ゆーたは中学校の事をどういう風に考えているんだろう？

全然学校に行く気はないし、その手の話になると「あ、ダメダメ！」となる。

自分自身、周りとうまくやっていけないことはよくわかっているだろうし、それ以前に、「何か言われる、何かされる」という意識が深く彫りつけられているんだろう。

そんな生徒を、学校はどう思っているんだろう？

とりあえず在籍だけしている、という感じかな？

よくわからない。

もし、自分が担任だったら……なんて昔に照らし合わせることも、最近はとんとしなくなった。しても仕方がないことだし、自分がかつてしたことを話すことは、他ならず学校や担任への要求をする、ということにつながるからだ。

要求してもそれに応えられるモノが、今の学校にあるのとは思えない。

担任や個々人の「人の良さ」でどうなる範疇を超えていると思っている。

それでも、もう少し違うアプローチの仕方はないのかなあ？ と頭のどこかで思ってしまうときがある。

タイトルとちょっとしたメモを、毎日書き綴ってきましたが、何とかこれで間を埋めることができ

ました。HPでも、きちんと整理していきたくと思っています。

## モンスターズインク -2002/03/16(土) Vol.345-

もうじき春休み……。そうなる映画館は子ども達で混んでしまうだろう、  
ということで今日はゆーたと映画に出かけた。

「ハリーポッター」「千と千尋……」と言った「怖いモノ」がリアルに描かれているのは、臆病者のゆーたは拒否をする。どうやら、以前見た「もののけ姫」が強烈に印象に残っているみたいだ。

で、「モンスターズインク」は、爆笑問題の田中、ほんじゃまかの石塚、と言ったように、吹き替えもテレビに出てくる俳優さん達。

「よっしゃ、それで決まりね！」

:\*:~'° 。.:\*:~'° ° ' .:\*:~. .:\*:~'° 。.:\*:~:~\*:

良かった。とにかく面白かったし、可愛かった。そして心がほのぼのとした。  
僕には「千と千尋……」よりもよほど素直に映画の世界に入っていき事ができた。  
たっぷり笑って、ふわぁとした気持ちになった1時間半だった。  
ゆーたも満足！

今度はママと一緒に字幕版にこようか？ と話をしている。

モンスターズインク、お勧めです(僕は)。画面をじっくり見るなら、吹き替え版の方がお勧めかも？

ちょっと間があきましたが、京都に行っていた頃のメールマガジン、書きためてありますので、日時がずれますが、少しずつ配信していきます。

## 引越 -2002/03/17(日) Vol.346-

女房の来年の転勤話は、正式にダメになった。

事前に可能性はきわめて薄い、と言われていたのでそれなりの気持ちの準備はできていたように見えたが、いざ正式に「ノー」ということになった後の落胆ぶりは、意外だった。

高校と養護学校との交流となると、極めて人数的にも限られてくる。

そして、あくまでも「交流」ということから、双方、特に養護学校サイドから求められる教員と、女房は年齢的にも教科的にもズレがあるようだ。

それ以上に、今年ダメだったけれど、来年だったら可能性はある、と言うモノではないらしい。それが、出口のないトンネルのように映るのだろう……。

「教員を辞めたい」という思いはありつつも、なかなかそれが実行に移せないでいるのが実情。女房がため息をつくのは、生徒とのやりとりではなく、学校という職場と、今の矛盾だらけの教育制度だろう。

僕が言うのも変かもしれないが、女房は生徒と一緒に何かしていったり、職場の中で色々な事を作り上げて行くには非常に良いキャラクタだと思う。だからこそ、何だかんだと言いながらも、続いているんだろうけれど。

:\*:~'° 。.:\*:~'° ° ' .:\*:~. .:\*:~'° 。.:\*:~:~\*:

転勤、我が家の引越、というのはなくなった。  
それはそれでゆーたにしてみれば、一番ホッとしているようだ。  
もう、下とは別個の生活を始めて、精神的に離れてきてはいても、実際に離れてしまうのとは、与える影響が違うんだろう。

来年度、どんな展開になるんだろう……？

引越と言えば、サーバーの引越もしました。ですから、今、HPは真っ白け。  
これを機会に、HPを作り直そうかと……。

外出 -2002/03/18(月) Vol.347-

土日は、体育科の一泊旅行。今日は、教務課の飲み会。明日は、パンづくり。  
ここ、連日のように女房の外泊、外出が続いている。  
下のおじいちゃん、おばあちゃんとは関係を絶っているの、ゆーたと顔をつき合わせる時間が随分と多くなっている。  
僕もそうだが、ゆーたも息苦しく感じるんだろうな、とってしまう。

今夜は、とっても豪華なディナーだったそう。だ。  
浜松の駅前にあるアクトシティの31階での食事。7人で10万円。一人当たり1万4千円也。  
月々積み立てやってるから、出費があるわけではないと言う。しかし、それじゃあ、僕の気持ちは収まらない。  
「んじゃ、ゆーたとの僕との二人分の積み立てもやってくれよ！ Yoshiakoが飲み会の時には、ゆーたと二人でご馳走食べに行くから！」  
「わかった！ じゃあ、月々千円ずつね！」  
「何言ってるんだ！ 教科があって、学年があって、分掌があって、学校全体があって……、トータルいくら積み立ててるの？ 千円だなんて、そんなんでごまかされないからね！」

ワインの酔いがまわってきているらしく、女房は赤ら顔で笑ってごまかした。

:.:.:'° 。 .:.\*:.'° ° ' .:.\*:.. .:.\*:.'° 。 .:.\*:....\*:

僕とゆーたの夕食はデニース。  
ゆーたはデミグラスハンバーグ、僕はイカとウニのスパゲッティ。更に、シーザーサラダと飲み物までつけてしまった！  
「リッチな食事だったねえ～」  
とゆーたと二人、しあわせな気分になった。

寝室がにんにくの臭いすごいです！いつもはそんなに気にならないんですが、なんか腹が立ってしまった！（笑）

子ども病院 -2002/03/19(火) Vol.348-

東名高速を走らせながら、ゆーたに言った。  
「そーいやー、一年前の3月は、ゆーたは入院していたんだよな。毎日、静岡まで往復したんだっけ……。b Bを買ったのはその少し前だったんだ。早いよねえ～」と。

子ども病院の駐車場の桜が少し咲き始めていた。  
もう、この病院に来るのも長いよなあ、と時の早さを感じたりしていた。

：\*：\*！° 。：\*：\*！° ° '！\*：\*..。：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

「15歳くらいまでがこの病院の対象とする年齢ですから、ポツポツ、こちらの手を離れる時ですね」と主治医の先生が言った。

「この先、よほどのトラブルがない限り、シャントの入れ替えの手術をすることもないでしょう。気をつけるのは、薬をきちんと飲み続けて、痙攣がおきないようにすることだけですから」と。

また、今日のCTを見ると、シャントがしっかりと利いており欠損した所の周囲もだいぶきれいになってきているというのだ。確かに、赤ちゃんの頃に比べると、随分と「空洞部分」が小さくはなっている。もっとも、これが完全にきれいになることはないということだが、それでもやはり嬉しい。

「同世代の友達との関わりですねえ」

先生は続けた。脳外科としてはこれ以上、何もすることは無い、という事だ。

生まれて二日目には、何もわからないまま手術を受け、生きるか死ぬか？  
という状態だった順天堂病院の新生児集中治療室の光景が、まざまざと思い出された。

診察を終え、車に向かって走っていくゆーたの後をゆっくりゆっくりと歩いていった。

浜松で脳外科の病院を探す事になります。う～ん、どこがいいのかな？ この先、静岡に通わなくても良くなるかと思うと、ホッとするような寂しいような複雑な気持ち！（笑）  
今日のお昼は、恒例のロッテリアでした。

## 通信簿 -2002/03/20(水) Vol.349-

中学校は昨日が卒業式、そして今日が終了式だったそうだ。

午後、昼寝をしていたら（笑）、担任の先生から電話があり、通信簿を持っていきたいが、ということだった。

中学校の通信簿を見るのは、初めてだった。

1学期、2学期と評価、評定とも斜線が引いてあった。

そして、学年の段階では、評価が全部「C」で、評定は全部「1」となっていた。

「行動のあらわれ」の所は全部、空欄。

「出血状況」の出席すべき日数は220日。病気による欠席日数が220日。

「特別活動の記録」には、「道徳総合教科委員」なんてのが書いてあった。

「事実の記録」には、「科学部」とだけ記されていた。そう言えば、一学期の初めに何かしら部活に所属しないといけない、ということで、ゆーたは「科学部」を選んだんだっけ……。

：\*：\*！° 。：\*：\*！° ° '！\*：\*..。：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

ゆーたと中学校との関わりは全くと言ってないままに、「中学一年」は終わりを告げ、そして4月からは、晴れて2年生に「進級」できるのだった。

……（--;）



学校に残す記録上、書き方は決まっています、特に成績などは、相対評価だから全員、いずれかに属するわけだ。

でも、ゆーたの何を評価し、何に基づいて評定を出していると言うのだろうか？

もし、通信簿に記入するとしたら、「評価できず」というのが正しい記述だろうに……。そう思った。

通信簿と一緒に、クラスの文集も持ってきてくれました。

ゆーたは結局、何も書きませんでした。

## カーナビ -2002/03/21(木) Vol.350-

カーナビをとられてしまった。b Bごと。

いや、盗難ではなく女房に。

今日僕は静岡県の中部を流れる大井川でハーフマラソン。こういう時は、やっぱりナビがないととっても不便。当然、b Bで行くつもりだった。

ところが

「今日は、ゆーたとどっかに出かけてくるから、スターレットで行ってね！」

「ゆーたあ、どこ行こうか？ 焼津までお魚料理を食べに行こうか？」

と女房。(--;)

少し前、カーナビの使い方を覚えてからというもの

「これがあれば、私は一人で出かけられる！」と豪語し始めた。

更に、ゆーたもカーナビの使い方をかなりわかっているのです、基本的な操作を覚えてから、いつしか女房がb Bに乗るようになってしまった。

もっとも女房のような方向音痴にこそ、こうしたカーナビが役にたつだろう。

カーナビもこんなに感謝されて、さぞ嬉しい事だろう……。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:'. .:\*..'° 。.:\*...\*:

結局、ゆーたと二人で清水のエスパルスプラザまで出かけていったそうだ。

道に迷うことなく……。

僕の方は、インターチェンジを出てからというもの、何度か、この道で良いんだろうか？ と不安になることも。また、帰りは帰りで、ちょっと迷ってしまったり……。

車の運転にカーナビはなくてはならないものになってしまっている。

早くスターレットがぼろくなって、新しい車に買い換える日が来る事を、今は静かに待つしかない……。

もし女房が来年一年生の担任になったら、一泊二日の研修とフルマラソンの日が重なってしまう事が判明。その場合は、フルをあきらめる……？

## 「ごめんね…」 -2002/03/22(金) Vol.351-

お袋と言葉を交わさなくなってから、既に3週間近くになる。

この間、本当に必要最低限の事しか話をしていない。

ゆーたも下に行かずに、二階にいるようになった。

で、この間の大きな変化は、ゆーたが色々と自分でやるようになってきたことだった。特に風呂などは、今まではおばあちゃんか女房と一緒になければ、入らなかったのだが、最近では、一人でテレビの時間に合わせ入るようになったのだ！

昼間僕が出かけている間も、自分なりに時間を潰すようになってきた。

そして何よりも、下からゆーたがわめく声、その直ぐ後に「ちょっと来てよ！」と呼びつけられることがなくなったこと。これが、一番良いことだ。

ゆーたも気持ちが落ち着いているのか、僕や女房との生活の中では、ほとんど感情を爆発させることもない。昼間僕とゲームをしたり、HPを見たり、テレビを見ながら、一日中バカな事を言い合って、笑っている。

僕と女房は、下とは関係のない生活の方が、ゆーたのためになっていると思っている。

おじいちゃんやおばあちゃんにしたってそうだ。

好きなときに出かけて、好きな番組を見て……。そうした気楽な生活の方が楽なのだと思う。そりゃあ、寂しいと言えば寂しいのだろうが……。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:.. .\*:・'° 。.:\*:...\*::

今朝、僕が出かけようとして車に乗ったら、お袋が近づいてきた。

「悪かったね……。ごめんね……」

目にはうっすらと涙を浮かべていた。

お袋はやっとの事で、それだけの言葉を僕に伝えた。

僕は「ああ……」と言うだけで車を出した。

お袋は何を謝ったのだろう？

何が悪かったと思っているのだろう？

まだ、僕はお袋とは話をしていない。

ここ一日二日の間には、話をしないといけないとは思っているが、今日はやめた。

ただ、僕がお袋を無視しているから謝った……。というだけだったら、ますます失望するだろうなあ、と、思ってしまったのだ。

お彼岸なんですね。そう言えば最近、お墓に行っていないなあ……。

もし、あの子が生まれていたら、我が家はどんな生活が繰り広げられていたんだろう……？

T F T 液晶 -2002/03/23(土) Vol.352-

いやあ、これほどまでに画面のサイズが大きくなるモノなのか！

そして、これほどまでに机の上が広がるモノなのか！

と、とにかく感激しきり！

僕のディスプレイが16インチのT F T液晶に変わったのだ！(^)v

.:\*.・'° 。.:\*.・'° ° '.:\*.:. .:\*.・'° 。.:\*.:.:\*.:

最近、ゆーたと女房が使っているe-oneの調子がおかしくなってきた。

起動に時間がかかる。すぐにフリーズする。まあ、インターネットとメールしかやっていないから、まあ、動けばいいのだが、それでもさすがに我慢ができなくなってきたのだろう、「ねえ、パソコン、もう少し何とかならない？ いくらくらいかかるの？」と聞いてきた。

よっしゃ！ ということで考えた。

新しくハードディスクを購入して、僕の使っている4台のパソコンの内一台を新しい二人用のマシンにする。ディスプレイは、僕の使っている17インチ。

そして、僕は新たにTF T液晶を購入する！ というナイスなアイデアだ。

ディスプレイは、予備の15インチがあるので、それを使えば使えないことはないのだが、それでもこうした時を逃したら、こうしたチャンスが再びやってくる保証はない。もったいないかなあ、という気持ちもしないではないが、最近、目が疲れることが多くなってきたので、これを機にTF T購入を決断したのだった。

.:\*.・'° 。.:\*.・'° ° '.:\*.:. .:\*.・'° 。.:\*.:.:\*.:

広々とした机の上をみて、もう、満足！

でも、一番喜んでいるのは、プーとミュウかもしれない。また、ゴロンとする場所が一つ増えた、と……。  
(笑)

明日は、久しぶりに家族で出かけてきます。例によって目的地は、女房にお任せです。

寸又峡 -2002/03/24(日) Vol.353-

先月の初めに、南伊豆に桜見物に行ってからというもの、女房の職場の一泊旅行、僕の京都シティハーフなどが重なり、久々の家族三人でドライブとなった。

「温泉に入っただのんびりしたいなあ」という僕の一言に、女房が選んだ場所が、大井川の上流にある寸又峡温泉。

寸又峡と言えば、昭和43年に、金嬉老がライフルを持って旅館に立てこもった事件があり、鮮烈な記憶が残っているが、実際に出かけたことはなかった。

つい3日前にハーフマラソンを走った大井川河川敷。今日はその大井川をひたすら上流に車を走らせる。あちこちに桜が咲いている。

僕たちは車を停めて、河原に下りていった。

.:\*.・'° 。.:\*.・'° ° '.:\*.:. .:\*.・'° 。.:\*.:.:\*.:

女房が作ったおにぎり二つずつ。コンビニで買ったお茶。そしてデザートは途中で買った4つ120円のはっさく。

少し風が冷たかったが、川のせせらぎ、3両編成の大井川鉄道、吊り橋……。

静かに静かに時間が過ぎていく。

ことある毎にゆーたが面白い事を言って、三人で大笑い。

ゆーたはやっぱ、僕たち夫婦の宝物だ。

:\*:~!° 。.:\*:~!° ° !~\*:~.。.:\*:~!° 。.:\*:~!~\*:~:

井川のキャンプ場まで足を伸ばして下見をしたが、これは失敗。時間の無駄だった。寸又峡温泉について、ちょっとしたハイキングコースへ。日頃運動をしていないゆーたには、かなりこたえたみたいだ。でも、車も通らない道を、ゆっくりゆっくりと歩く。吊り橋を渡っているとき、雪が降ってきた。

フーフー言うゆーたをなだめすかして、何とか出発地点に。お店で食べた、みそこんにゃくと、ワラビ餅のおいしさ……。最後に温泉。しかし疲れ切ったゆーたは、「熱いからイヤだ！」と言いだし僕たち二人だけが温泉につかり、帰路についた。

やっぱり三人で出かけるのは良い。

途中304段の石段がありました。僕には格好のトレーニングだったけれど、女房とゆーたには、結構きつかったでしょうねえ。(^^)

## おっばい配達人 -2002/03/25(月) Vol.354-

ゆーたが下に行かなくなってからというもの、随分と三人であーだ、こーだ話をする時間が増えてきた。今朝も春休みに入った女房が、少しゆっくりとしていた。話がプーニャとミュウの子どもの事になった。

「ねえ、プーニャが妊娠した、ってのはどうやってわかるの？」と女房。  
「.....おっばいが大きくなってきたり.....」と僕。  
「ええ〜っ！ おっばいがでっかくなるのおっ！」とゆーた。

「そうよ、ママだってゆーたを産んだ後、おっばいが両方とも、ボンボンっておっきくなったんだよ。おっばいを製造するんだから！」  
「ふ〜ん.....」  
「そうそう、ゆーたが生まれて直ぐ、ゆーたは病院にいたでしょ？ だから、パパが毎日、病院までママのおっばいを運んでいったんだぞ！」  
「ママがおっばいを絞って凍らせたのを、せっせと運んだんだよ」  
「そんなん、覚えてない！」  
「当たり前じゃあ！ 覚えてたら凄すぎるぞ！」

「ま、パパは言うなれば『おっばい配達人』ってことだ！」  
この「おっばい配達人」という表現がゆーたには受けたみたいで、ゲラゲラと笑い転げていた。

:\*:~!° 。.:\*:~!° ° !~\*:~.。.:\*:~!° 。.:\*:~!~\*:~:

先だって子ども病院の診察でCTを二人で見ながら、担当医の説明を聞いていた。淡々と事実を説明してくれる。  
僕たちは、まだ、きちんと説明したことはないが、ゆーたも13歳。何度も病院で説明を受けていれば、自分に何が起こったのかは、わかっていると思う。

ま、ゆーたが色々聞いてきたら、きちんと答えてやればいいのか？ と思っているが、それでも何かに

つけて、ゆーたが生まれてきたことの話に及ぶことが最近多くなってきたような木がする。

この「ぼちぼちいこっ」も、いつかゆーたが目にするところがあるだろう。  
色々な出来事に対して、僕たちが何を考えきたのか、がゆーたが次に進むための手がかりになれば、と思っている。

でも、その時、ゆーたはどんな気持ちで読むんだろうか？  
その反応が、怖い気もしないではないが..... (^^ゞ

女房の学校での分掌は「教務課」。毎年春休みは、時間割作成で連日のように朝から晩まで。少しはゆっくりできないの？ なんて二人で言ってます。  
.....普通の企業では当たり前なんでしょうけれどね。

おおらかさ -2002/03/26(火) Vol.355-

何事に対しても、いや、ゆーたに対して、もっとおおらかに笑い飛ばせるようになりたい、そう思っている。なかなかできないでいる。

ゆーたが何かしてかした時、よほどのことがない限り、まずは一緒に笑ってあげられるように、と.....。

プーニャとミュウが下に降りていかないように、階段の所には、簡単なスライド式の防御壁(笑)をつけてある。

今までは、部屋のドアが閉められているので、プーニャとミュウが廊下にいなければ安心して開け閉めができた。

最近、暖かくなってきて、部屋のドアを開け放す事が多くなってきている。

ゆーたが下から上がってくるのを狙って、ミュウなどは下に行こうと、虎視眈々と狙っている。一方のゆーたは、そこまでなかなか気がまわらない。

今日も、ゆーたが階段のドアを開けはなつたところ、ミュウが下に降りていき、ゆーたは「あぁ～!!!」と大声を出した。ゆーたはそうしたミュウの様子を喜んでいる節がある。

それに対して僕は、「だから、いつも言ってるでしょ!」と声を出してしまった。一緒に慌てて、そうした事態を楽しむ前に.....。

いつも顔をつき合わせていて、その事を絶えず言い続けていただけに、「だから.....」という思いがまず頭にかすめてしまったのだった。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. .\*:.'° 。.:\*:...\*:

夜、女房に言われた。

「もっと、おおらかにならないといけないじゃない?」

わかっていることを指摘されることは、やはりつらい。

自分でも「あぁ.....」と思ってしまっていたことだけに、グサリと女房の言葉は突き刺さる。

「だから、毎日、ゆーたと顔をつき合わせていてごらんよ!」と。

「Yoshikoは、昼間いないからわからないんだよ!」とも.....。

「そんなこと言い出すと、辻本議員みたいになるよ!」と言われて、僕はますます落ち込んでいった。

「春休みなのに、どうしてママは家にいないんだ!」というのがゆーたにはあるみたいです。学校



「同年代との関わり」を持ってないでいるゆーたを可愛そうだ、と思ったりもする。しかし、その気持ちの本当のところは、ゆーたに同年代との関わりを持てる場所を、まだ見いだしてあげられないでいる、僕自身へのはがゆさに他ならない、と思うのだ。

明日は女房の飲み会。

「今回は二次会まで出てこようかな？」などと言っている。

どうしようが勝手だが、早めに連絡をしてくれれば、それでいいのだ、僕は！

Take it easy -2002/03/29(金) Vol.358-

こんなメールをもらった。

> 最近メルマガがいっぱい届くようになって、嬉しいです。

.....略.....

> がんばってね。^^ 力抜いてね。

> 最近、力入ってるみたい・・かな？ 肩こってないですかあ。

昨日の金八先生のドラマの中でも出てきた。「気楽に行こうよ！」って。その時思った事と、同じようなメールをもらったから、思わず苦笑い。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° '.:\*:. .:\*..'° 。.:\*...\*:

4月21日に、フルマラソンに出る。

やはり42.195kmってのは半端な距離だとは思わない。

去年のこの大会、僕にとっての初めてのフルマラソンは、36km地点で玉砕。

走る以上は、完走を、とっていたし、それまでの自分の力から、最低限、完走はできると思っていた。

でも、結果はリタイヤ。

今思えば、レースの一週間前、みんなからは「疲れをとるように」というアドバイスをもらっていたが、身体を動かしていないと不安で仕方なかった。

直接走らないにしろ、プールで泳いだりしていた。

で、足に疲れを感じたまま、レースの当日を迎えた。

走り出して直ぐ、5km辺りで、疲れを感じていた左足首のアキレス腱に激しい痛みが走った。その時点で、気持ちがとぎれてしまい、後はだましまし、距離を稼いでいったが、35kmの最後の関門をクリアした後、「もう、ここまで」となってしまった。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° '.:\*:. .:\*..'° 。.:\*...\*:

今年こそ！ という気持ちは強い。

でも、一番最初に来るのは、楽しく走れば良い！ ということだろうな。

次に来るのが、完走できれば、尚良いなあ。そしてその次が、少しでも良いタイムだったら尚のこと良いなあ、という感じだろう。

Take it easy.....マラソンも人生も同じだろうな.....と思う。

東京に行っていたので、配信できませんでした。三連発でお届けします。

秋葉原 -2002/03/30(金) Vol.359-

「OSMさんは、秋葉原の迷惑だ！」

以前、友人に秋葉原に連れて行ってもらったときに、頂戴したありがたいお言葉。(--;)

東京での用事が終わり、友人宅に向かうまで時間が空いたので、「一人で」秋葉原に出かけていった。絶えず、駅の方角を確認しながら、少しずつ、距離を伸ばしていった。(笑)

相変わらずの人の波。

やはりアチコチでぶつかったりして、田舎モノが来るところではないんだ、ということを痛感しながらも、頼る人は誰もおらず、うろうろしていた。

「秋葉原で品揃えが多くて、お勧めのお店はどこ？」と友人に電話を入れた。

「Laoxのコンピューター館がいいですよ！」

フムフム。なんだあ？ ここだ、と思ったら、「ゲーム館」だったり (--;)

アチコチ探したあげく、僕はその店を背中にして、電話をしていたのだった。

:\*:~'° 。.:\*:~'° ° '°\*:~.。.:\*:~'° 。.:\*:~:~\*:

明日走るためのランニンググッズを入れたバックが重たい。

でも、つつい路地裏に入っていたり。値段的には通販で買ったりするのとあまり変わらないが、やはり品揃えが違う。え？ 何、これ？ というような危ないモノもあったりして。

一角に、一見パソコンとは程遠いおじさん、おばさん達がソフトを売っていた。windowsXPを初めとした各種OS、その他のアプリケーションソフト。

「正規ユーザー登録できます」と汚い文字で殴り書きがしてある。

一体、何なのだろう？

最新のソフトと、それを売る歳をとったおばさんのコントラストが、妙に印象に残った。

東京.....やはり僕には、身構えてしまうところだった。

それでも、一人で歩き回れたのは、ちょっぴり嬉しかった。(^^ゞ

東京の友人の所で一泊。12時過ぎまで、色々な事を話してました。

すごいなあ、と感心することしきり。とっても楽しい一時でした。

多摩湖 -2002/03/31(日) Vol.360-

今日の今日まで、埼玉県は東京の更に東の奥にあると思っていた。

静岡から見て、隣の神奈川、そして東京、その更に東に関東の各県が鎮座しているというイメージだったのだ。だから、所沢とか、西武球場などは、随分遠くにあるモノだ、と思いこんでいた。

そーいや、昔から地理は嫌いだったモンなあ.....(^^ゞ

西武新宿線に乗り、花小金井駅に降りると、既にfrunの仲間が集まっていた。

そこから多摩湖まで7km。多摩湖一周12km。計26kmが今日のランニングコース。

多摩湖までは桜並木の続く自転車ロード。盛りを過ぎたけれど、まだまだ、花をつけている桜の下を、のんびりと走る。

時々風に舞って、花びらが落ちてくる。



暑くもなく、寒くもなく、心地よい風に吹かれて、ゆっくりとしたペースで走っていく。

多摩湖の周りでは、お花見のグループがそこそこで、シートを広げ楽しんでいた。その横を通り過ぎ、アップダウンの周回コースに入る。

途中、西武球場の横を通る。おお、これがライオンズの球場か！　ここで、松坂が投げてるんだあ、と感心してしまったり、周辺の雑木林にトトロの森を重ね合わせたり……。

:\*:.'°　。..\*:.'°　°　'°\*:..　.:\*:.'°　。..\*:..\*:

今まで東京と言えば、都心の目的地までの往復しかしたことのなかった、僕にとって、この景色は意外だった。へえ、こんなにも素敵な所があるんだ！　って……。

ゆーたやYoshikoは、昨日、今日と沼津。  
どこぞへドライブに出かけるとのことだった。

一緒に走れたら……いや、走れなくても良い、こうした道をゆっくりゆっくり歩いたら、楽しいのになあ、と。

さすがに最後の辺りは少々ばてたけれど、気持ちのいい3時間。  
久しぶりにおいしいお酒を飲んだ。

いよいよ3月もお終い。4月ですね。  
新しいスタートが色々なところであるんですね。

## 2002年4月

新年度　-2002/04/01(月) Vol.361-

今日から4月。

テレビのニュースでは、入社式の光景などが映し出される。

女房も新年度の時間割作成のため、連日のように学校でコマを動かしているようだ。その作業も何とか目処がついてきたようだ。

学校生活も着々と新年度の準備に入っているんだなあ、と。

しかし、この「新年度」というのは、僕やゆーたには全く感じられない。

毎月のように、カレンダーを一枚めくるくらいだろうか？　ただ、月が3月から4月に変わっただけに過ぎないような……。

これから暑くなっていくんだなあ、と漠然とした思いがあるだけ。

僕にしてみれば、かつての卒業式から、入学式にかけての慌ただしさを懐かしむだけの季節になってきている感じがする。

ゆーたは何を感じるのだろうか？　何も感じていないのだろうか？

それはわからないが、季節の移り変わりを身体全体で感じられるように、なったら素敵だろうな……。そんなことを思った。

昨日は女房とゆーたは箱根まで足を延ばしてきたとのこと。  
ここのところ、三人で出かけることが少なくなったなあ。もっとも、これは僕のせいなのだが……。

隠し事 -2002/04/02(火) Vol.362-

今日、歯医者に行って帰ってきたら、ゆーたが慌てて何かを片づけようとしていた。どうやら土日に沼津に帰ったときに買った、プラモデルのようだった。

「何、隠してるんだあ？」

「あ、いや、別に……」

頭隠して、何とやら……。床に出ているモノから、大体の検討はついた。

「あ、いやね、電気の配線の所は頼もうと思っていたんだけどね……」

と苦しげに説明しようとするゆーた。

「こちら亀有交番派出所前」のプラモデルだった。

：\*：\*’° 。：\*：\*’° ° ’\*：\*：\*。：\*：\*’° 。：\*：\*：\*’\*：

最近、というよりも少し前から「パパに内緒」というのが多くなってきている。

女房と出かけることが多いと言うだけではない。僕には何かしら言われると思っているんだろうか？ とにかく、女房との内緒話、が多いのだ。

ちょっぴり仲間はずれのような気もしないではないが、何となくわかるような……。いつも顔をつき合わせていると、お互いに何をしているのかは、大体わかる。

ゆーたはゆーたで僕のやっていることを結構見ているようだ。

パソコンに向かっていても、トランプゲームがいつも立ち上がっていることもヤツは知っている。

二階の真ん中の部屋は、真ん中で仕切られるようになってきているが、「ゆーたが自分の部屋が欲しい」と言うまでは、仕切らずにいる。

しかし、最近、下に行かなくなってきたからと言うものは、一人で寝室にこもってゲームをしたり本(と言ってもゲームの攻略本だが)を読んでいることも多くなった。

自分だけの場所、が欲しくなってきたのだらうなあ、と思う。

同時に、これから先、ますます「隠し事」が多くなっていくんだろうな、と。

今日のお昼はゆーたと二人で佐鳴湖公園に。ベンチでおにぎりをほうばり、草の上に寝ころんで……。短い時間でしたがなかなか良かったなあ、と。もっともそう思っているのは僕だけかもしれませんが……。

馬鹿笑い -2002/04/03(水) Vol.363-

桜の花を見に外に走りに出かけて家に戻ったのは、7時前だった。

道路でストレッチをしていると、我が家の二階から、

「ぎゃーっ！ また、やられたあ～！ もうお～！！！！」

というような訳のわからぬ叫び声が聞こえてきた。

それに続いて、ゆーたのでっかい笑い声が響いてきた。

それにしても家の中の声は、よく外に聞こえてくるモンだ、と思った。

例によって、カーペットの上で、ミュウがオシッコをしたのだ！

：\*：\*’° 。：\*：\*’° ° ’\*：\*：\*。：\*：\*’° 。：\*：\*：\*’\*：

最近、7時のニュースを見た試しがない。  
今日は「所さんの笑ってこらえて」が流れている。  
バカらしいと言えばバカらしいが、面白いモノはまた、面白い。  
時々、三人で大声をあげて笑う。

:.:.'° 。.::.'° ° '.::.'° .:~.'° 。.:~.:~.:

ゆーたが下に行っていたころは、しょっちゅう、大きな声を出していた。  
僕は、そんな下のやりとりには聞き耳を立てながら、いつも落ち着かないでいた。そうすると、二階で一緒にいるときも、どうしてもイライラしたりしてしまい、我が家の中には、笑い声よりも、ヒステリックな声が蔓延していた。

これでいいんだな、と思う。  
相変わらず僕はおばあちゃんと話はしておらず、下とは必要事項意外は、話をしていない。  
「下は下で、二階とは関係ないんだからね！」  
とタイミングを見ては、ゆーたには言っている。

おばあちゃんにしてみれば、一向に自分を許してくれていない息子に対して怒りと情けなさを感じているのだろうが、下と関わりを持たない方が、ゆーたの心ははるかに落ち着いており、我が家には笑い声が増えるのだった。

ちょっとそこまで、のつもりがあまりの気持ちの良さに、2時間20分ほど走ってきました。風や道ばたの小さな花、鳥の声……。春が一杯でした。

ランチ -2002/04/04(木) Vol.364-

浜松駅の横にそびえ立つ「アクトタワー」。  
浜松市民からは税金の無駄遣い、と随分と批判もあった。「浜松の卒塔婆」等と言う人もおり、駅から遠く離れた我が家からも、その灯りを目にする事ができる。  
「全く無駄なモノをつくって！」と思いつつも、いざできてしまうとその景色の良さはなかなかのものだ。もっとも、僕は税金を納めていないので、あーだ、こーだと言う権利を持ち合わせていないのだが……。  
(^\_^;)

:.:.'° 。.::.'° ° '.::.'° .:~.'° 。.:~.:~.:

時間割の作業も一段落。女房も休みが取れ、三人でアクトタワーの32階の「さざんか」という鉄板焼きのお店にランチを食べに行った。

南に面した窓からは、遠州灘の海岸線がよく見える。  
たこ揚げ祭りで有名な中田島海岸も。  
目の前の鉄板で色々と焼いてくれるのだった。  
夜に来れば、また、景色が素敵だろう。  
ま、女房は先だっの送別会で、ここを使って、高級ディナーを食べてきたのだったが。

お好み焼きランチ、¥1,500。これが今日食べに来たランチ。  
ゆーたは自分だけ「シーフードランチ、¥2,500」を頼んだ！ ったく贅沢なヤツだ！ (--;)

平日のランチと言うことで、お店はがら空き。お客は僕たちだけ。

1時間ほどかけて、ゆっくりゆっくり食事をした。  
僕とゆーたのお昼などは、ささっと作って、ささっと食べる。時間にして十分もかからない(笑)

食事はゆっくりと食べるモンだなあ、としみじみと思った。  
来週からは、新年度が始まり、女房もまた、忙しくなる。

毎日、途中まで書き上げてそのままにしています。  
なんか、夏休みの絵日記を書いているみたいです。(汗)

## 断絶 -2002/04/05(金) Vol.365-

おふくろと話をしなくなって、どのくらいになるのだろう？  
いつしかそれが当たり前になってきてしまっている。

ゆーたはやはり、おばあちゃんとの関わりを持ちたいのだろうか？ 最近、「必要なこと」を伝えに下に行くことがある。しかし、それも僕を目を気にしているのを感じないではない。

昨日はメンタルクリニックでの面談の時間、大部分が「おばあちゃんへの不満」だったという。最近、何かがあったというわけではないが、堰を切ったように、カウンセラーのNさんにしゃべり続ける姿には、おばあちゃんへの期待とあきらめが錯綜しているように思えてならない。

:\*:~'° 。.:\*:~'° ° '.:\*:.。.:\*:~'° 。.:\*~:~\*:

結局、話をしていないから僕の気持ちは、おふくろには、何も伝わっていない。しかし、伝えたところで、中途半端にわかったような気持ちになってしまうことを僕は恐れている。

僕に謝るのではなく、ゆーたに謝った欲しいのだ。  
今までゆーたに色々な「期待」をさせ、いかに「その場しのぎ」が多かったかということをして！

「きちんと話をするべきだ」というのは一般論で、僕もそうすべきだろうとは思っているが、一方で、今の状態でも良いんじゃないか？ という気持ちが強いのもまた事実.....。

明日は愛知県の幸田町まで、女房がパン教室を受講しに行きます。僕とゆーたは一緒についていくことにしましたが.....。

## 時間つぶし -2002/04/06(土) Vol.366-

石窯でつくるパンづくりが面白いそうだ。  
「土曜日、パン教室行ってくるね！」  
てっきりいつもの町中のパン教室かと思ったら、そうではない。愛知県の幸田町まで出かけてくると言うのだった。  
行くだけで1時間ちょい。教室は2時半から5時半まで。帰ってくるのは、7時を回る。う~ん、ゆーたと二人で家にも結局、ゲームをやっているくらいなモンだ。  
んじゃ、ついて行こう！ ということで僕たちも一緒に出かけていった。

パン工房で女房を降ろして、さて、どこで時間を潰そう？ ということになった。  
ナビで周辺施設を探してみても、本屋とかおもちゃ屋くらいしかない。

「よっしゃ、本屋のはしごだ！」ということになった。

:.:.:'° 。.:\*:.:'° ° ' .:\*:.. .:\*:.:'° 。.:\*:.:~\*:

一軒目の本屋で、ゆーたは遊戯王のカードをみつけた。

インターネットで仕入れた、「レアカードのサーチ法」をためしてみても、どうやら手応えのありそうなパッケージが見つかったみたいだった。

「行こうか？」

「ウン……」

素直に離れたけれど、何かしらモノ言いたげな表情。

「うん？ 欲しいの？ いいよ、買ってあげるよ！」

ゆーたは遊戯王のカードのパックを手に入れた。

そしてその中に「レアカード」なるものが入っていたので、大喜び。

:.:.:'° 。.:\*:.:'° ° ' .:\*:.. .:\*:.:'° 。.:\*:.:~\*:

その後も2、3軒回ったけれど、今ひとつ。

最後に行った本屋は結構大きく、僕もパソコンの本をゆっくり見ることができた。

ゆーたはゲームの本の前で色々と見ていた。

「じゃ、行こうか？」

「ウン……」

またもや、後ろ髪を引かれるような感じ……(^◇^)

「何か欲しいの見つかったの？」

「ゾイドの本があった！」

「う～ん、買ったるわ！」と……。

:.:.:'° 。.:\*:.:'° ° ' .:\*:.. .:\*:.:'° 。.:\*:.:~\*:

約束の時間に工房に行ったが、どうやら遅れている様子。

もう一時間どこかで、ということになった。

「んじゃ、喫茶店でも行くか？」

二人で小さな喫茶店に入り、ゆーたはケーキセット。僕はカフェオレ。

漫画を読みながら、小一時間過ごした。

結局、2時半から6時半までの4時間、何となくだらだらと時間を潰していたのだ。時間がもったいない、と言えどもったいないが、こうしたダラダラした時間もまた良いモンだ。

パン教室もとっても楽しかったらしくご機嫌な女房と、カードと本を手に入れこれまたご機嫌なゆーた。ご機嫌が一番だなっ。

来年度は一年の副担任だそうです。今度の高校一年生はどんななんでしょうね？ また、「困ったチャン」が多いみたいですが……。

タブレット -2002/04/07(日) Vol.367-

ゆーたのダイヤモンド購入計画は、ゆーたが望むようなダイヤにはもう少しお金が必要と言うことで、今年は見送り。二年越しの計画になった。



今年度女房は一年生の副担任とのこと。

各クラスに正副の担任が配置されるのだから、公立高校はやっぱり恵まれているなあ、と思いつつも問題は、教師の質なんだよな、とも……。

一人の担任がクラスを見るよりも、複数の違った角度から、生徒達を見つめることができることは、とっても大切なこと。自分と違った角度から見るができるのだから。

ただし、いくら目が多くなっても、曇っていたり、腐っていたらかえって悲惨な状況になるだろうな。

女房のクラスの担任は、昨年新規採用でやってきたのかな、線が細そうで、生徒達とうまくやっていけるだろうか？ とちょっぴり心配になったりするそう。

自分が直接手を出せない分だけ、イライラすることも多くなるんだろうな、そんな風に思った。

さてさて、どんな一年になることやら……。

：\*：\*’° 。 ..\*：\*’° ° ’ \*：\*’.. ..\*：\*’° 。 ..\*：\*’..\*’：

一方、ゆーた。

土曜日の日に担任の先生が、教科書を持ってきてくれた。

去年と同じ担任。

う～ん、中学に関しては、昨年度同様、ただ籍がそこにある、というだけなんだろうな。

ゆーたの新しい年度は、いつの間にやら始まっていた。

タブレット、面白いです～。でも、まだまだ弄ばれることが多くて（笑）

一人部屋 -2002/04/09(火) Vol.369-

「そろそろゆーたにも一人部屋が必要かもしれないね」

そう女房が言った。

最近、夜も好きなテレビがない時など、一人で寝室に行って、ゴロゴロしながら本を読んでいたりと、ゲームボーイをやっていることが多くなった。

テレビのある食卓とパソコンのおいてある部屋は、アコーディオン式で区切られるようになってはいるが、寒い時とか、よほどのことがない限り、締め切ることはない。そのため、誰の目も気にすることなく一人になるには、寝室しかないのだった。

：\*：\*’° 。 ..\*：\*’° ° ’ \*：\*’.. ..\*：\*’° 。 ..\*：\*’..\*’：

「ゆーた？ 自分だけの部屋、欲しくない？」

それとなく聞いてみたが、

「さあ、どうかなあ？」

とあやふやな返事。

「ま、ゆーたが欲しい、って言ったら考えよう」

と二人で話をしたが、ボツボツそう言うことを考える時が来たんだなあ、と。

しかし、いざ「一人部屋を」となると、どうするか？ これはこれで色々と考えないといけない。

今のパソコンのある部屋を半分に区切る？ 非常に狭くなるぞ！  
じゃ、寝室をゆーたの部屋に？ う～ん、これはこれで広すぎるぞ！  
もう一部屋増築……？ そんなお金がどこにあるんだ？

う～む…… (--;)

どうも風邪をひいたようです。日曜日に霧雨の中を走ったからかな？  
来週の日曜日は、フルマラソンだと言うのに……。弱気！

おめでた！ -2002/04/10(水) Vol.370-

うわぁお！ なんと、赤ちゃんができた！  
いやいや女房ではなく、我が家のプーニャだが。  
……一瞬、嘘っ！ なんて思った方もおられる？？？ (^\_^;

お腹の辺りをなめ回して、毛が随分抜けてきており、先だって動物病院に連れて行っただが、よくなるどころかますますひどくなる一方。いずれは、身体中の毛が抜けてしまうのでは！？ なんてのはオーバーだが、これは何とかしないと、再度病院に連れられていった。

ただ、この間気になることがいくつかあった。  
プーニャが随分とお腹をきにしていること。  
ちょっと神経質になっているようで、すぐに「フーツ、フーツ！」と威嚇的な声を出すこと。  
お腹の乳首が目立ってきたこと。  
先だっでの発情から、3週間経つのに発情がないこと等々……。

「もしかしたら、赤ちゃんが……」ということで、エコーをとってもらったら、ぬわんとちっちゃな生命がプーニャのお腹の中で動いているではないか！

「これが赤ちゃんですねえ」  
という説明にゆーたも少々興奮気味だった。

「60日したらレントゲンを撮って何匹お腹にいるか見てみましょう！」  
猫の出産は大体9週だから、予定日は5月15日かぁ……。  
なんかとってもドキドキしてきてしまった。

しかし、あのやんちゃ小僧のミュウがお父ニャンになるのか……。  
ちゃんとオシッコをトイレでしてくれよなぁ……。(--;)

仔猫を可愛がってくれる人を捜さないと……。  
どなたかいます？ ロシアンブルーの仔猫。雄雌は不明（当たり前だ！）

喜び -2002/04/11(木) Vol.371-

「ゆーた君、よっぽど嬉しかったんでしょね。いつも嬉しいことがあっても、どちらかというと、ちょっと悲観的な言い方をしていたんですが、今日は、もうご機嫌で、プーニャの赤ちゃんの話をしてくれましたよ。『あの、ミュウがお父さんになるんだよぉ』って」



メンタルクリニックのNさんがそう言った。Nさんの言葉も弾んでいた。  
他にも、ドラクエのデータが消えて僕がショックを受けたことや、先だって東名高速の路肩でおしっこを  
していた人の話などを、矢継ぎ早に話してくれたとのことだった。

:.:.:'° 。 .:\*.:'° ° ' .:\*.:. .:\*.:'° 。 .:\*.:.:\*.:

昨日も動物病院から帰って来るなり、  
「おばあちゃん達に教えてやらないと行けない！ パパ、エコーの写真は？」  
と言った。  
「ああ、教えてきてやんなよ」  
と写真を渡すとこれまた嬉しそうに、下で長々と話をしてきた。

:.:.:'° 。 .:\*.:'° ° ' .:\*.:. .:\*.:'° 。 .:\*.:.:\*.:

ゆーたのエコー写真を見た時のことを思い出した。  
当時僕が勤めていた高校の駐車場。もう、辺りは暗くなっていた。  
女房が「話がある」と言って、車の中で一枚の写真を見せた。  
小さな小さいのちがそこにあった。  
「なんかあんまり嬉しくないみたいだった」と後で女房に言われたが、嬉しくなかったのではなく、僕は言葉  
が出なかったのだった。

ミュウを譲ってもらったブリーダーさんの所に電話を入れた。  
Mさんもとっても喜んでくれた。

さあ、色々準備をしなくては！  
ミュウやブーニャに対して、ゆーたは少し気を遣うようになった……かな？

新しいいのちのちに喜ぶOSM家。  
方やテレビから連日のように報道される、イスラエルの自爆テロ……。  
この落差をどう埋めたら良いんでしょう……？ (--;)

## ロールプレイング -2002/04/12(金) Vol.372-

昨日の朝、ドラゴンクエスト6のゲームを始めようとしたら、データが全部消えてしまっていた。これで  
3回目。(; ;)

スーパーファミコンそのものも随分と古くなってきているし、ソフトも中古ソフト。他のゲームとカート  
リッジを交換したりすると、データが消えてしまうことが今までも度々あった。

ゲームクリアまで後少し！ と言うところでデータが消えて、ゆーたはイヤになってしまい、やめてし  
まったのだった。最後まで終わらないのはなんとなくすっきりしないので、僕がもう一度最初からやり始め  
た。そうすると、ゆーたも気になって、続きをやり始めた。

しかし、主人公の名前も僕が好きな名前を付けているので、もう一つ自分が進めているとは思えなかつた  
のだろう。

「ねえ、カートリッジ入れ替えるとデータ消えちゃうから、変えないでね！」

そう頼んでも、ゆーたは何度も他のゲームをやっていた。  
ある程度冒険は進み、ゲームも中盤から後半に差し掛かっていた。

ところが今朝、見事に予想は的中した。

ゆーたが例によって他のゲームをやり、交換したらデータが消えていたのだ！

「もう、いい。ドラクエ6は、もうやらない……」

ショックを隠せずに、僕はそう言った。

ゆーたは「悪いことをしたなぁ」という顔をしながら、そのまま寝室に行ってしまった。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:..。.:\*:・'° 。.:\*:...\*::

なんか冒険を途中で辞めてしまうのは悔しい気がした。

また、このまま僕がゲームを中断してしまったら、ゆーたを責めることにつながっていくんだろうなぁ、そう思った。

しばらくして寝室に行き

「このまま中途半端はイヤだから、やっぱ続きをやるよ！ 今度は、ゆーたが進めていきなよ！ パパも手伝ってやるから。名前もゆーたが決めればいいからサ」

ゆーたと僕は、またも最初からゲームを始めた。

風邪で二日ほど寝込んでしまいました。絶不調！

来週の日曜日、フルマラソンだって言うのに……。(--;)

### 三連敗 -2002/04/13(土) Vol.373-

プロ野球が始まって、星野阪神が絶好調。方や千葉マリンスの泥沼の連敗。

ナイター中継でお気に入りの番組が中止になって、ブーイング。

そんな我が家のカレンダーに、3日前から、星取り表が登場した。

なんのことはない。僕が女房とゆーたと一緒に朝食を食べなかった日を、記すようになったのだ。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:..。.:\*:・'° 。.:\*:...\*::

大体、女房とゆーたは夜が早すぎる。

そうなると朝は自ずと早くなる。

僕はと言えば、昼間は昼間でゆーたのつきあいがあるから、落ち着いてパソコンに向かうことができるのは、やはり夜二人が寝てから。しかし、ゆーたにドラクエの宿題を頼まれた日には、自分の事ばかりというわけにもいかない。

ま、僕もドラクエが面白くないわけでないから、それほど苦痛ではないけれど、どうしても夜中、1時、2時となってしまう。

朝、ゆーたは「思いっきりテレビスーパー」が始まる5時半前には起き出す。

その後、6時過ぎには女房が起きる……ようだ。(^^;

その頃僕は、二人の起き出す気配など、全く感じることなく夢の世界にいる。

「もう、朝、一緒に食事しないとダメ！ 何回言ってもダメなんだから！」

という女房の怒りで、「星取り表」がスタートしたのだった。

この連敗、僕自身に何としても脱出しなくてはいけない、という気力がないだけに、果たしていつまで続

くのだろうか、とってしまった。

「パパぁ、後お願いね～」

そう言ってゆーたはさっさと寝室に行ってしまった。

阪神が調子良いなぁ。別に虎ファンじゃないけれど、なんか楽しくなってくるなぁ……(^)v

衝突 -2002/04/14(日) Vol.374-

今日は朝食の4連敗を免れることができた。

と言っても、久方ぶりに下からゆーたのおばあちゃんを責め立てる大きな声が聞こえてきたので、寝てるどころではなくなった。

最近、「用事があるから」とゆーたが直々下に行くことが増えてきた。勿論、必要以上にいるわけではないので、それはそれで良いと。

そして、「『おばあちゃんが、町に連れて行ってあげる』って最近言うんだ」と口にした。だったら僕のフルマラソンの日の21日にでも連れて行ってもらえばいい、そう思っていた。

しかし話は食い違っていた。

おばあちゃんは、ゆーたがよく言う「カードの店」におじいちゃんを連れて行ってあげる、と言っていたようだ。しかし、ゆーたは「おじいちゃん」ではなく「自分を」連れて行ってくれる、と思った。

ゆーたがそう思うのも無理はない。

昨年末、色々と話をした時に「3月くらいになったら、町に連れて行ってもらう」という約束をしたからだ。

恐らくおばあちゃんの言うとおりでだろうが、ゆーたがそう思いこむの理由もまた、十分すぎるほどわかる。

そこで例によって「そんなことは言っていない！」言った！「まただまされた」という事になったのだった。

それはあくまでも第一ラウンドだった。

女房とおばあちゃん、ゆーたとの間で何とか話はついた。

:.:.:'° 。 .:.\*:.'° ° ' .:.\*:.. .:.\*:.'° 。 .:.\*:..:.\*:

夕方、この春高校一年生になった従兄弟が姉貴と一緒にやってきた。

そして、隣の伯父もお祝いに来た。

ゆーたはそこに乗り込んでいって、おばあちゃんの行状を訴え始めた。

そこでまた「そんなことは言っていない」と突っぱねられた。

ゆーたはよその人の前だからこそ、おばあちゃんに「そうだったよね」と言って欲しいのだ。確かに身に覚えのないことを他人に言われるのだから、おばあちゃんとしてもたまらないだろう。笑いながら「また、そんなことを……」とゆーたを否定するのだった。

だからゆーたは怒る。

ゆーたの大きな声が聞こえて、女房が下に降りていった。

しかし一向に収まらないので、僕も仕方なく下に降りていき、ゆーたをおばあちゃんから引き離した。

「全く関係のない」僕が横から出てきたので、ゆーたはますます興奮する。

やっとの事で廊下までゆーたを引っ張り出した。

伯父と従兄弟達は帰っていった。

：\*：\*！° 。：\*：\*！° ° '！\*：\*..：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

ゆーたと女房がおじいちゃん、おばあちゃんと話をしていた。

僕はこれ以上関わりたくなかったので、出かける支度をしがてら様子を見に行った。何も口を出すつもりはなかった。

しかし、ゆーたの言葉に相変わらずの返答をするおばあちゃんに、とうとう黙っていられなくなりってしまった。

おばあちゃんは、僕たちが、というよりも僕がゆーたに色々と吹き込んでいるから、ゆーたはおばあちゃんに色々ときついことを言う。ゆーたは下に来たいのに止められていて可愛そうだ、と。

僕は今まで、何度も何度も言ってきたことを、また口にした。

僕に謝るんじゃなく、ゆーたにこそ謝ってやって欲しい。

ゆーたの全てをまず受け止める、という意味がわからないのなら、中途半端に声をかけたり、可愛そう等と口にしないで欲しい。

おばあちゃんの事が好きだから、ゆーたは色々と期待をする。そしてその度に自分の気持ちを膨らませ、その分だけ深く傷つく。

ゆーたが言うことをまず受け止める、という腹づもりができない限りは、ゆーたに関わらないで欲しい。

そう言い残して、僕は部屋を出て行った。

その間、親父は何も言わずにずっとお袋の方を向いて二人のやりとりを聞いていた。

僕は行く当てもなく車を走らせ、結局喫茶店でコーヒーを飲んできた。

おばあちゃんのこと、同じ事の繰り返し。ホトホトイヤになってきた。

ゆーたの気持ちがよくわかります。恐らく、僕の言いたいことは伝わらないだろうなあ……。

死…… -2002/04/15(月) Vol.375-

いつもにまして女房が疲れた顔をして帰ってきた。

「もう、疲れた……」

ゆーたが部屋を離れた時に言った。

「この4月に転任してきた先生が、土曜日に自殺して、朝からてんやわんやだった」と……。

ゆーたには聞かせたくない話だったので、途切れ途切れの会話になってしまったが、新年度のこの時期、学校全体が落ち着かない時だけに、その混乱、動揺は想像できる。

：\*：\*！° 。：\*：\*！° ° '！\*：\*..：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

「自殺」というと、二人の事を思い出す。

一人は、僕のクラスの生徒で高校二年生の4月。

もう一人は、卒業生。

随分と昔の話になってしまったが、いつまで経っても僕の心に重くのしかかっている。

「生きたくても奪われてしまういのち」の多さもさることながら、「生きられるのに死を選ばざるを得ないいのち」も同じように多い。

「死んでしまったらお終いだ」とはよく言われる言葉だが、「お終いを選びたくなるほど追いつめられている人たち」もこの世の中にはたくさんいるのだろう。悲しいけれど、厳しい現実が.....。

.....

厚生労働省のHPの資料を見て驚いた。

死亡原因の中で「自殺」のしめる順位の何と高いことか。

10～14歳代の3位から始まり、15～24代までは2位。そして25～39歳代では、第1位。40～49歳では、再び2位。

自ら死を選ぶ人たちが多いということを改めて思った.....。

.....

厚生労働省

「死因順位（第5位まで）別にみた死亡数・

死亡率（人口10万 対）の年次推移」

([http://www1.mhlw.go.jp/toukei/toukeihp/11nenpo\\_8/deth8.html](http://www1.mhlw.go.jp/toukei/toukeihp/11nenpo_8/deth8.html))

年代	1位	2位	3位	4位	5位
10～14	不慮の事故	悪性新生物	自殺	心疾患	先天奇形、変形及び染色体異常
15～19	不慮の事故	自殺	悪性新生物	心疾患	先天奇形、変形及び染色体異常
20～24	不慮の事故	自殺	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
25～29	自殺	不慮の事故	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
30～34	自殺	悪性新生物	不慮の事故	心疾患	脳血管疾患
35～39	自殺	悪性新生物	不慮の事故	心疾患	脳血管疾患
40～44	悪性新生物	自殺	心疾患	不慮の事故	脳血管疾患
45～49	悪性新生物	自殺	心疾患	脳血管疾患	不慮の事故
50～54	悪性新生物	自殺	心疾患	脳血管疾患	不慮の事故
55～59	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺	不慮の事故
60～64	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺	不慮の事故
65～69	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故
70～74	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故
75～79	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故
80～84	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故
85～89	心疾患	脳血管疾患	悪性新生物	肺炎	老衰
90～	心疾患	肺炎	脳血管疾患	老衰	悪性新生物

.....

昨日のこともあり、今日も気持ちの晴れない一日でした.....。(--;)

疲れた -2002/04/16(火) Vol.376-

午前中、女房の所に宅急便が届いた。

階段の途中から、おばあちゃんはとてもやさしい声で

「ゆーたあ～、荷物届いたから、取りにおいで～」と声をかけてきた。

その猫なで声のような物言いに、やはり何もわかっていない、と感じてしまった。

「ゆーたっ、行かなくていいよ！」

僕が荷物を取りに行った途端、おばあちゃんの顔が固くなり、何も言わずに下に降りていった。

「荷物が来たなら、階段の所に置いてくれれば、それで良いから！」

僕は背中に向かって言った。

勿論、おばあちゃんは何も反応しなかった。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:..。.:\*:・'° 。.:\*:...\*::

今まで何度もゆーたが口にしてきた、「おばあちゃんは、何言っても変わらないよ」という言葉を、僕自身が今、痛烈に感じてしまっている。

ゆーたにとって別々に暮らすことが良いのかどうか、と言うことを考えてきたが、今は僕自身がおばあちゃんと顔を合わせる事が苦痛で仕方なくなっている。

「もう疲れた。引っ越ししよう」

帰ってきた女房に言った。

女房は困った顔をして、「ええ～っ？ そんなあ」と……。

一昨日から、重苦しいタイトルが続いてしまっています。

大丈夫か？ と心配される方も多いかと思いますが、ハイ、大丈夫です。

亀打 -2002/04/17(水) Vol.377-

「こちら葛飾区亀有公園前派出所」略して「こち亀」。ゆーたがのお気に入りの漫画。特に主人公の両津勘吉の破天荒な振る舞いに、大声をあげて笑い転げている。

今日、パソコンショップに出かけた時に、目に入ったのがタイピングソフトの「亀打」だった。

ゆーたはローマ字がよくわかっていない。

もっとも学校の勉強にはほとんどついていけなかつたろうから、仕方がないと言えば仕方がない。

でも、パソコンを使う上で、文字入力だけは避けて通れないところ。

「覚えよう」という気持ちがあまり見られないから、なかなか身に付かない。

必要な時になると、「調べて～」と言ってくる。

何とかならないモノか、と思っていたのだった。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:..。.:\*:・'° 。.:\*:...\*::

さて、「亀打」だが、「こち亀」の声優が喋りかけてくるのだから、それだけでゆーたは喜んでいる。今までは、色々とソフトを見つけてきても、あまり興味を示さなかったのだが、今回は違う。

ちょっとずつキーボードに向かっている。

そんなゆーたを横目にしながら、元教員の「性」なのか、ついつい口を出してしまう。

「そうじゃない、こうやるといいんだよ」と……。

ゆーたが楽しんでやっているのだから、それで良いじゃないか、と思いつつも、一方で基礎・基本が大事だ！ なんていう思いが頭を持ち上げる。

いかん、いかん！ その度に思い直し、何か言いたくなる気持ちを、ぐっと押し殺している。そのうちなんとかなるだろう、って。(^^)

今週の日曜日のフルマラソン、やっぱり出るのをやめました。  
その日から女房が集団宿泊訓練に出かけてしまうんです。下と少しは関係が良くなれば、と思っていたのですがダメですね。

おしっこミュウ -2002/04/18(木) Vol.378-

ミュウが臭いを嗅ぎながら爪を立て、「カリカリ」と引っ掻き始めると、慌ててミュウをトイレに連れて行く。空振りすることもあるが、大体そう言う時は、おしっこなのだ。

別にトイレのしつけができてないわけではない。

獣医さん曰く

「恐らく、自分の縄張りを誇示したいんですよ」と。

アチコチにミュウがオシッコをするようになったのは、ここ1, 2ヶ月。

発情期を迎えるようになってきてからだ。特に雄猫に多いと言う。

大体の猫は、去勢することによって、こうしたオシッコやスプレー行為が収まる事が多いと言うのだが……。

:.:.:'° 。 .:.\*:.'° ° '.:\*:.。 .:.\*:.'° 。 .:.\*:.'\*:

床にそのままにしてあったタオルやらシャツなどの洗濯物の上にオシッコをする。一度臭いの染みついたモノはいくら洗い直しても完全に臭いが消えることはない。

ランニング中にいつも持っていくお気に入りのハンドタオルも被害にあった。

汗を何度も拭いていると、そのうち、ミュウのオシッコの臭いがはっきりとわかってくる。これはなかなか辛いモノがある。

そんなミュウのおかげで、我が家では洗濯物を各自が直ぐにしまうようになった。

「ほら、早くしないと、やられちゃうよ！」と女房が声をかけると、サッと片づける。

床の上から洗濯物がなくなったと思ったら、今度は「紙」。

広げてあったゆーたのプラモデルの設計図もやられた。

ヤツらが走り回って床に落とした資料。

とにかく床に置いてある紙、布の類は危ない。

この間は、カーペットの上に置きっぱなしにしておいたキーボードがやられた。

レースの時に持っていくデイバックのチャックを閉め忘れていたらやられた！ 勿論、中に入っていたTシャツが被害にあった。

我が家の床の上は、以前に比べた段違いにきれいになっている。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:..。.:\*:・'° 。.:\*:...\*::

「もう、ミュウちゃん！ アンタはまたっ！」  
そう言ってみたところで、当の本人は知らん顔をしている。  
そしてついたあだ名が「おしっこミュウ」

「ホントにアンタがお父さんになるのかい？ 大丈夫かなあ……」  
とゆーたがミュウにしげしげと言う。その物言いがなんとも笑える。

ミュウもそうだが、ゆーた、お前ももうちょっとしっかりしてくれよな！（笑）

とにかくミュウのパターンが読めないです。一生懸命観察はしているのですが……。いやいや、元々パターンなんて存在しないのかもしれないね。  
猫と一緒に暮らす、ってのはそういうモノなんだろうね。(；\_；)

「いつかは42.195」 -2002/04/19(金) Vol.379-

日曜日の小笠掛川のフルマラソン、出場するのを辞めた。  
今年に入ってから、それなりのトレーニングをして、3つのハーフマラソンに出て、今年こそフルマラソン完走、というつもりだったが、またもやお預けとなってしまった。  
i-modeのサイトの「いつかは42.195」はいつになったらタイトルを変更できるのだろうか……。？ 「も一度42.195」とか「いつかはサブ4」とかに変えたいと思っているのだが。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:..。.:\*:・'° 。.:\*:...\*::

日曜日から女房は2泊3日の新入生集団宿泊訓練に出かける。  
3月に「もし、1年生の学年になったら21日は……」とは言われていた。  
でも、それでもまあ、一日留守番でも良いかな？ という思いもあった。  
しかし、ここへきて、下との関係が悪化している中、朝早くから夕方まで、家をあけているのが、何とも言えずに気になる。  
きっとゆーたは下に行って、また、おばあちゃんと何らかのトラブルも起こしかねない。いや、それ以上に変な形でおばあちゃんんがゆーたに近づいてくる方がイヤだ。  
もっとも先週風邪をひいた頃から、両膝の内側に違和感を感じているのも確かだが。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:..。.:\*:・'° 。.:\*:...\*::

42.195kmという距離はやはり半端な距離ではない。  
ウルトラマラソンやトライアスロンにも挑戦してみたいと思うが、とてもじゃない。  
去年は、初めてのフルマラソンということで、不安で不安で仕方がなかった。  
そして、その不安をぬぐい去るために身体を動かさないではいられなかった。  
その結果、直前になって左のアキレス腱に張りを残したままレースとなった。  
スタート直後の下り坂、5kmのところで心配していたアキレス腱に激痛が走った。周りのペースにあおられて、いつも以上のスピードが出ていたと思う。しかも下り坂……。  
その後はとにかくだましだまし走っていた、という感じだった。  
36km過ぎで精も根も尽き果ててしまった。痛みと疲れと……。  
今考えると、後5kmちょっとじゃないか、とも思うがどうしようもなかった。



秋口、リベンジを期した福知山、袋井といった二つのフルマラソンも足の故障で結局、レースに参加すらできなかった。

フルマラソンを走った所で、何がどうなるものではないと思う。  
でも、途中で辞めてしまうことの方が、もっとイヤだ。

あ～あ……。

当分ゆーたに  
「パパは36kmでリタイヤしたんだよね！」  
そう言われ続けるんだろうなあ……。

5月はハーフマラソンが二つ。一つは芦ノ湖スカイラインを走るレース。  
景色は最高だが、アップダウンもこれまた凄い！ 泣きたくなるコース。

### さもないこと -2002/04/20(土) Vol.380-

小学校の頃、僕はよく漫画を描いていた。下手くそな漫画だったが、一頃本気で「漫画家になりたい」などと思ったこともあり、ケント紙なども手に入れたりしたこともあった。漫画に限らず、絵を描くのは嫌いではなかった。

しかし、中学に入った頃から僕の色覚が明らかに、その他多くの人とは異なっていることを何度も思い知らされた。

そう、「赤緑色盲」と当時は言われていた「色覚異常者」なのだ。  
自分では「この色良いなあ」と思った自信作も、「何？ その変な色は？」  
とよく言われた。

そして僕は次第に「絵」や「漫画」から遠ざかっていった。

:.:.:'° 。 .:\*.:'° ° ' .:\*.:. .:\*.:'° 。 .:\*.:.:.\*:

ゆーたから借りたお金で何を買おう、と考えていた僕だったが、結局、グラフィックデザインソフトの、corel Painter7を買ってしまった。先だって買ったタブレットを使いこなせば、素敵な絵が描けるかもしれない、なんて思ってしまったのだ。

女房はきっと「そんなの買ってどうするの？」と冷ややかな目で見んだろう。  
でも、買ってしまったのだ。

:.:.:'° 。 .:\*.:'° ° ' .:\*.:. .:\*.:'° 。 .:\*.:.:.\*:

ゆーたはよく、メモ帳に色々なことを書き込んでいる。  
大体がドラクエのボス攻略の方法であったり、テレビなどで仕入れた「さもないこと」が多い。  
僕などついつい「また、そんなの書いて……」などと言ってしまうのだ。  
僕だって小学校や中学校の頃は「さもないこと」をたくさんやっていたのになあ……。

そうだったんだよな。「さもないこと」をたくさんたくさんやらせてあげよう。それがゆーたにしてみれば、大切なことなんだろうな。

明日から2泊3日、ゆーたと二人の生活です。

「ま、この二日間、夜はご馳走食べに行こうぜ！」とゆーたと言っていたら、女房がカレーを作っていました。

## 語らい -2002/04/21(日) Vol.381-

夜9時前、新しく購入したソフトのマニュアルを一心不乱に読んでいる僕に、ゆーたの「もう、寝るよ！」の聲がかかった。

「後、もう少し、もう少し！」と思っても「寝るよ！」攻撃に負けて寝室に行った。

僕と寝る時は、さすがに一つの布団ではなくなった。

ゆーたもそうだろうが、僕だって気持ち悪い(笑)

そう思わせるほどゆーたは「デカく」なってきたのだった。

：\*・'° 。.:\*・'° ° '・\*:.。.:\*・'° 。.:\*...\*:

電気を消し、小さな灯りをつける。

夕方ひとしきり寝てしまった僕はなかなか寝付かれない。

天井を見ながらゆーたに話しかけた。

「ゆーたあ、ダダのNさんが言っている所に今度顔を出してみないか？」

「うみゆう～」

「世の中にはきっとゆーたを受け止めてくれる、やさしい友達もいると思うよ。ホラ、S君みたいにわざわざ家に来てくれたりする人だっているでしょ？ きっとそう言う人はいっぱいいると思うぞ！ ゆーただってS君と遊戯王やっている時は楽しいでしょ？」

「そりゃ、まあねえ……」

「今の中学校には、『行けよ』何て気持ちはパパ達には全然ないよ。わかるでしょ？」

「ウン、それはね」

「だって今の中学校だったら、やれ勉強、やれ部活、やれ受験……ってな感じで追い立てられて、ゆーたはきっと潰れちゃうと思うんだ」

「ウン、それは言える！」

「今度、同じように学校に行っていない人たちが集まる所に、一緒に顔を出してみようか？」

「ふみゆう～」

ゆーたの聲が次第に小さくなり、いつしか返事がなくなった。

暗い中、天井を見つめながらの語らい。

短い時間だったけれど、昼間、あーだこーだと話をするのとは、また、違った一時だった。

僕はますます目が覚めてしまい、ゴソゴソと起き出し、キッチンに行って、再びマニュアルを読み始めた。

ミュウがパンを焼いている時、オーブントースターの上に乗っかって足を火傷してしまった。肉球がペロンとなってしまいました。危ない、とは思っていたんですが……。

## カツオだし -2002/04/22(月) Vol.382-

いつもの時間にゆーたは起きだし、いつもの時間まで僕は寝るつもりだった。

ところが、ゆーたの方は、お腹が空いてきたらしい。

「パパっ！ もう、6時半だよ！ 6時半。ご飯は！」

「う～ん、まだ7時にもなってからだよお……」

と布団の中から答える。

「もう、7時10分前だよ、早く起きなよお！」

と今度はゆーたも負けてはいない。

しぶしぶ布団から出てきた。

「ママがいらないんだから、もっとゆっくりしてようよお～」

と言うが、いつも通りのパターンを崩すことができないゆーたは、「それはダメだよ！」と。

.:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. .:\*.:'° 。.:\*...\*:

さて、朝ご飯は.....。

ご飯は昨日のヤツがあるし、シャケが焼いてあった。後は塩昆布があるから、これでよし！

「あれ？ みそ汁は？」

「そんなモン、ない！」

「ええ～っ！ そんなぁ.....」

とブツブツ抗議をする。

「しゃぁないなぁ、作ってやるか！」

と渋々、冷蔵庫から味噌を取り出し、お湯を沸かし始めた。ん？ あれ？ カツオだしがないぞ????

どこだ、どこだ??

置いてあるはずの所にもない。台所の引き出しをアチコチひっくり返したが結局見つからず！

「カツオだしがないから、みそ汁はなし！」

「ええ～っ！」

「しゃーない！ 目玉焼き、作ってやるわ。いいだろ？」

みそ汁代わりに目玉焼きをゆーたの前に出してやったら、ヤツは裏をひっくり返して一言、「焦げてるよ。」

「うるさいわい。んじゃ、食べるなよなぁ～」

「いや、一応、言ってみただけだよ」と。

ったくヤツときたら、少しは自分で作ろう、としろよな！

ここはレストランじゃないんだぞ！

ちょっと悔しいので、今日出かけた時に、カツオだしを買ってきた。

明日女房が帰ってきたら言われるだろうな。「どこに目をつけてるの！ ここにあるジャン！」って。

みそ汁 -2002/04/23(火) Vol.383-

久々に作った。

カツオだしを入れる前に、ゆーたに一口飲ませたやった。

「ぐえ、何、これえ？」

「でしょお～。だしがないとこんな味なんだよ」

もう一度だしを入れたみそ汁を一口。

「どう？ 今度は？」

「ウン、いいねえ～」

ときた。

「ほい、今日はわかめのみそ汁だぜっ」



:.:.:'° 。 .:.:.'° ° ' .:.:'. .:.:.'° 。 .:.:'.:':

食事を終えたゆーた。

またもやささと寝室に逃げようとする。

「ちょっと待ったあ！ 流しに出すものは出してっ！ 油モンとそうじゃないのをキッチンとわけとくれよ！」

ブーブー言いながらも、流しにお皿を運び、ゆーたはさっさと姿を消した。

皿洗いまで、今度はやらせよっか？

ちょっと配信がたまってしまいました。(^^ゞ  
この間、過去の「ぼちぼちいこっ」をずっと整理して読み返してました。ドキ、っとしてびっくりでした。

ゆーたの焦り？ -2002/04/25(木) Vol.385-

木曜日は、ゆーたのカウンセリングの日。

例によって、ゆーたとNさんとの面談が終わった後、10分ほど話をした。

今日「ゆーた君、少し焦っていたりしませんか？」と言われた。

先だって、我が家にこの春高校に入学した従兄弟がやってきた。全寮制の高校で寮に送りがてら、姉貴が家に連れてきたのだった。

従兄弟の制服姿は、「おお、高校生だなあ！」と思わせるものがあった。

もっともその時は、おばあちゃんのこと、ゆーたは興奮し、それどころではなかったのだが.....。

また、姉貴の所の高校三年生になる従姉妹は、この春留学先のイギリスから帰ってきた。一二度、留学先から手紙をくれたりもした。

「同年代の変化の大きさに、ゆーた君も何かしら心に感じるものがあるのかもしれないね」と。

不登校の中学生達が集まる、デイケアに顔を出させてみたい、とお願いをして家に向かった。

:.:.:'° 。 .:.:.'° ° ' .:.:'. .:.:.'° 。 .:.:'.:':

帰りの車の中、ゆーたに聞いた。

「連休明けに、デイケアってのに顔を出してみたらどうかと思うんだけど、どうかなあ？」

「う～ん.....」 < あまり気乗りはしていない。(..)

「Nさんも一緒に顔を出してくれるから、雰囲気だけでも感じてみたら？」と。

「まあ、ねえ.....」

要するにゆーたは不安で仕方ないのだと思う。

今までの記憶の中で、誰かと何かを一緒にやって楽しかった、という経験が極端に少なく、逆に人から何か言われたとか、何かをされた、という思いだけが強く彫りつけられているのだろう。

また、自分のことも少しはわかっているのだろう。人とうまく関われない、ということも.....。

「ゆーたのことをわかってくれる、やさしい人たちも必ずいると思うよ」

それは他でもない、自分に言い聞かせているのだった。

自転車のコロをはずそう、ということになりました。「いつまでもコロ付きじゃいけないとは思っているよ」とはゆーたの弁。

## プーニャのお腹 -2002/04/26(金) Vol.386-

プーニャのお腹が、目に見えて大きくなってきた。

動きもだいぶ鈍くなってきて、高いところにもあまりのぼらなくなってしまった。そして今まで以上に、身体を横にしていることが多く、食欲も随分と出てきた。

「いよいよだねえ」と家族で話をしている。

方やお父ニャンになるミュウは、相変わらずのお気楽モードで、時々、そこらでオシッコをして素知らぬ顔をしている。アチコチ飛び回るイタズラ小僧が父親とは、猫の世界は気楽といえば気楽なんだろうなあ、なんて羨ましく思ったりして……。(^^)

この間の日曜日も、パンを焼いている時、こちらがちょっと気を許したら、オーブントースターの上に乗っかって、足の裏の肉球の皮をベロンとやってしまった。直ぐに病院に連れて行っただが、さすがに2,3日はおとなしかった。

う~ん、ずっとおとなしいままでいてくれたらいいのに、とゆーたと笑い合った。

:\*:° 。.:\*:° ° '.:\*:. .:\*.° 。.:\*...\*:

GW明けには、プーニャのレントゲン写真を撮りに行く。

その時に、仔猫が何匹いるのかわかるそうだ。

どんな動物でも、自分で産むわけだから、こちらがヤキモキすることはない、とは思っていても、やはりドキドキする。

もうじき、赤チャンが、お腹をけっ飛ばすのがわかるようになるそうだ。

その時、ゆーたはどんな反応を見せるんだろう？

出産の時、ゆーたにもしっかりと見せてあげたいなあ……。

GWは、女房とゆーたは沼津に出かけ、僕はお留守番、ということになりました。プーニャを放っておくわけにはいきませんから……。

## バックナンバー -2002/04/27(土) Vol.387-

このところ夜が遅い。

DTPソフトを使って、今までの「ぼちぼちいこっ」をまとめ直していたら、ついつい時間が経ってしまうのだった。

以前、自分は何を考えていたのか？ ということをもっとよく振り返る。ゆーたとのつきあいの中で、今、とても必要に思えるからだ。

しかし、昔発行したものを読み返そうと思っても、ファイル名がでんでバラバラ！ 日付だけだったり、ナンバーだけだったり、という具合で、いつ、どんなことを書いたのかが、全然わからない。

そこで、PDFファイルに変換しようと思った次第。

特に、目次から「しおり」機能を使えば、よくわかるかなぁ、と。

しかし、いざまとめ始めてみると、これがなかなか大変。

うまくPDFファイルに変換されないのだ。

文字化けがして何がなんだかわからなかったり、文字がきちんと表示されたかと思うと、しおりが作成されなかったり。

おちよくられっぱなし。

半分、泣きが入ってしまっている。

:.:.・'° 。 .:.:.・'° ° ' .:.:.°. .:.:.・'° 。 .:.:.:.:.:

とりあえず、1988と1999年に発行した137号までは、テキストファイルにまとめ直した。

誤字脱字のチェックも兼ねて、何度か読み返してみた。

特に、1999年はゆーたが学校に行かなくなった年。

その前の運動会の様子など、ゆーたがどれだけプレッシャーを感じていたかが、よくわかる。

昔を思い出しながら、ゆーたの心の傷は、まだまだ癒されていないんだなぁ、と強く思った。

肩こりが激しくて……。随分と長い時間、パソコンに向かっているの、肩がガビガビになってしまってます。(涙)

サンチヨ -2002/04/28(日) Vol.388-

「パパは『サンチヨ』だね！」とゆーたが言った。

この『サンチヨ』というのは、ドラクエ5に出てくる、主人公のお守り役、ま、召使的なキャラクタ。

今日は、女房が静岡県東の外れ、御殿場で所属している体育の勉強会が開かれ、運転手役の僕を評してゆーたは言ったのだ。

今日、僕がついて行ったのは、夏、8月に開かれる勉強会の全国大会の際、パソコンの手伝いをして欲しい、と頼まれ、その打合せも兼ねていたのだった。

しかし、この話とて、元を正せば、事務局会議で女房がいらぬ事を言ったからだった。

:.:.・'° 。 .:.:.・'° ° ' .:.:.°. .:.:.・'° 。 .:.:.:.:.:

女房の勉強会の間、僕とゆーたは「御殿場高原ビール」に出かけ、ランチバイキングを食べてきた。80分のコースで、大人3000円、中学生以下1500円。

高かった！

もっともここのバイキングの目玉は、地ビールの飲み放題がついて、このお値段。勿論、車の運転がある僕は、一滴もアルコールを飲めなかった……(；\_；)

ゆっくり食事をして、まだ時間がある。

二人で、「ありがた山」と言う、1300体のお地蔵さんがある小高い丘に足を延ばしたと、その時携帯に電話が入った。

「どこかのコンビニでお昼を買ってきて！」と。

さ、行こうか！





同じ手の段ボール箱をもう一つもってきたから良かったが、また、オシッコをされたらたまらない  
……。

ミュウちゃん！ お願いだからオシッコをちゃんとしてくれよ！

ミュウのオシッコには頭を悩ませていますが、もしかしたら？ と思うところも。早速ためしてみよう！